

令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事

設 計 図

建築図			電気設備図			電気設備図		
図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺
A-1	建築工事特記仕様書 1	—	E-1	電気設備工事特記仕様書No.1	—	M-1	機械設備工事特記仕様書 No.1	—
A-2	建築工事特記仕様書 2	—	E-2	電気設備工事特記仕様書No.2	—	M-2	機械設備工事特記仕様書 No.2	—
A-3	建築工事特記仕様書 3	—	E-3	全体配置図	1/200	M-3	全体配置図	1/200
A-4	建築工事特記仕様書 4	—	E-4	分電盤結線図	—	M-4	機器表・器具表 (衛生)	—
A-5	建築工事特記仕様書 5	—	E-5	幹線設備 平面詳細図	1/50	M-5	平面図 (衛生)	1/100
A-6	建築工事特記仕様書 6	—	E-6	コンセント設備 平面詳細図	1/50	M-6	機器表 (空調)(換気)	—
A-7	建築工事特記仕様書 7	—	E-7	照明設備姿図	—	M-7	平面図 (空調)	1/100
A-8	建築工事特記仕様書 8	—	E-8	電灯設備 平面詳細図	1/50	M-8	平面図 (換気)	1/100
A-9	外部仕上表	—	E-9	弱電設備 平面詳細図	1/50	M-9	平面図 (リモコン)	1/100
A-10	内部仕上表	—						
A-11	仮設計画図	1/200						
A-12	全体配置図	1/200						
A-13	敷地断面図	1/200						
A-14	平面図・求積図・求積表	1/100・200						
A-15	立面図・断面図	1/100						
A-16	矩形図	1/30						
A-17	平面詳細図	1/50						
A-18	天井伏図・屋根伏図	1/100						
A-19	展開図1	1/50						
A-20	展開図2	1/50						
A-21	建具表	1/50						
A-22	部分詳細図 1	1/10						
A-23	部分詳細図 2	1/10・20						
A-24	基礎伏図	1/100・1/30						
A-25	床伏図 軸組図	1/100						
A-26	耐力壁金物伏図	1/100						
A-27	梁伏図 小屋伏図	1/100						
A-28	外構平面図	1/100・50						
A-29	外構詳細図	1/10						

建築工事特記仕様書			章 項 目 特 記 事 項		章 項 目 特 記 事 項		章 項 目 特 記 事 項	
【1】 工 事 概 要			1 一般共通事項		1 一般共通事項		2 仮設工事	
1. 工 事 場 所 京都府船井郡京丹波町和田地内			③ 特別な材料の工法		14 発生材の処理等 (7.3.1) 成形板)		②監督職員事務所 (2.3.1)	
2. 敷 地 面 積 247.11 m <sup>2</sup>			④ 風圧力及び積雪 に対する性能 (8.4.3、8.5.3) (10.5.3) (13.2.3～13.4.3)		建築基準法に基づき定められた風速及び地表面粗度区分等 風速 (V <sub>0</sub> ) ● 3 2 ○ (平成12年5月31日建設省告示第1454号) 地表面粗度区分 ○ I ○ II ● III ○ IV 多雪地域の指定 ● なし ○ あり		規模 ○ 10m程度 ● 20m程度 ○ 35m程度 ○ 65m程度 ○ 100m程度	
3. 建築物概要			⑤ 現場代理人		本工事の施工にあたっては、工事請負契約書第10条に基づく現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任しなければならない。		仕上 床 ○ 合板張り素地 ○ ビニルシート敷き ● パンチペーパー敷き 内壁、天井 ● 合板又はせっこうボード張り、合成樹脂化粧珪藻土ボード塗り 屋根 ● 塗装溶融垂れどめき銅板張り ○ 鉄板張り鋼合板ボード塗り 休憩室 ○ 設けない ○ 設ける (畳敷き) ○	
			⑥ 工事工程報告		月報は毎月末日に、翌月5日までに提出する。 日報は監督職員の指示による。 週報は毎週 ( ) 曜日に提出する。		備品 ● 机 ● いす ● 保護帽 ○ ゴム長靴 ○ 雨がっぱ ○ 衣類カバン (上記6品、1人分程度) ● 書棚 ○ 黒板 ○ 製図板 ● 掛時計 ○ 温度計 ● 消火器 ● 掃除具 ○ 懐中電灯 ○ 湯沸器 ○ 加入電話機 ● 冷暖房機器 ● コピー機 ○ ネット回線 ○ 流し台 ○ ● 標仕 (平成31年版) ● 建築工事監理指針 (令和元年版) ● 建築工事施工チェックシート ● 建築工事標準詳細図 (平成28年版) ● 営繕工事写真撮影要領 (最新版)	
4. そ の 他 外構工事 進入路改修 (側溝改修)			⑦ 工事実績情報の登録 (1.1.4)		適用する (適用事項は、現場説明書による)		③工事用水	
			⑧ 設備工事との取合い		施工範囲 ● 図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強 ● 図示した壁、天井の仕上材、下地材の切込み及び下地材の補強 ○ 駆動装置が電動による建具類の二次配線及び操作スイッチ ○ 自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強		構内既存の施設 ● 利用できない ○ 利用できる (○ 有償 ○ 無償)	
【2】 適 用 範 囲			⑨ 施工図等の取扱い (1.2.3)		施工図 設備機器の位置、取合等の検討できる施工図を提出し、監督職員の承諾を受ける。		④工事用電力	
現場説明書 (質疑回答書を含む)、本特記仕様書、図面、標準仕様書に示す範囲とする。 すべての設計図書は相互に補完するものとし、相違がある場合は、上記の順番を優先順位とする。 上記の標準仕様書とは、国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書 (建築工事編) (平成31年版) をいう。 (以下、これを「標仕」という。) 本書に特に記載のない事項にあっても、すべて、「標仕」の適用を受けるものとする。			⑩ 工事写真 (1.2.4)		施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲される。		● 利用できない ○ 利用できる (○ 有償 ○ 無償)	
【3】 工 事 区 分			⑪ 電気保安技術者 (1.3.3)		工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編 (最新版) (国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修) によるほかは監督職員の指示による。 下記のことを監督職員に提出する。		⑤仮囲い等	
設計図書による。 別契約の施工上密接に関連する工事との取合い部分が発生する場合は、別紙工事区分表による。			⑫ 施工条件 (1.3.5)		適用する		⑥設計G L	
【4】 工 事 仕 様			⑬ 発生材の処理等 (1.3.11)		発生材の処理等 (7.3.1) 成形板)		● 図示による ○	
1. 設計図書による。設計図書に記載されていない事項は、「標仕」のほか別記の適用基準による。 2. 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 3. 特記事項は、●印の付いたものを適用する。●印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ※印と●印の付いた場合は、共に適用する。※印が抹消された場合は、●印のみ適用する。 4. 項目及び特記事項に記載の ( ) 内表示番号は「標仕」の当該項目、当該図又は当該表を示す。			⑭ 中長期保全計画書		19 中長期保全計画書		● 図示による ○ 設計G L = 現状G L	
章 項 目 特 記 事 項			11 電気保安技術者 (1.3.3)		15 技能士 (1.5.2)		3 土 工 事	
① 適用基準等			12 施工条件 (1.3.5)		⑬ 化学物質の濃度測定 (1.5.9)		①埋め戻し及び盛土 (3.2.3)	
● 公共建築工事標準仕様書 (建築工事編) 平成31年版 (監修：国土交通省) ● 建築工事標準詳細図 平成28年版 (監修：国土交通省) ○ 敷地調査共通仕様書 平成27年版 (監修：国土交通省) ○ 建築構造設計基準及び参考資料 平成30年版 (監修：国土交通省) ○ 公共建築改修工事標準仕様書 平成31年版 (監修：国土交通省) ● 公共建築木造工事標準仕様書 平成31年版 (監修：国土交通省) ● 公共建築工事標準仕様書 (電気設備工事編) 平成31年版 (監修：国土交通省) ● 公共建築工事標準仕様書 (機械設備工事編) 平成31年版 (監修：国土交通省) (注：監修編「国土交通省」は国土交通省大臣官庁官庁営繕部を示す)			13 発生材の処理等 (1.3.11)		⑭ 安全に関する資料 (1.7.3)		②建設発生土の処理 (3.2.5)	
② 建築材料等			14 発生材の処理等 (7.3.1) 成形板)		⑮ 完成図 (1.7.2)		3 山留めの撤去 (3.3.3)	
本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は監督職員の承諾を受ける。  下記材料品目は、国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿 (最新版)」にある材料とする。 また、同評価事業の評価を受けたものを使用する場合は、評価書の写しを監督職員に提出し、その確認をもって、品質・性能の確認があったものとすることができる。 (評価名簿によるもの) 床型枠用鋼製デッキプレート (フタドック)、鉄骨柱下無収縮モルタル、無収縮グラウト材 (ブレスリシ、現場調合形)、押出成形セメント板、成形伸縮目地材、乾式保護材 (防水立上部)、陶磁質タイル、既製調合モルタル (タイル工用)、既製調合目地材、ルーフトレン、吸水調整材 (モルタル用)、アルミニウム製建具、鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス製建具、錠前類 (シリンダ錠、レバーハンドル、シリンダ本締め錠)、クローザー類 (ドアクローザー、ピンクローザー、フックピン)、自動扉機構 (制御装置・駆動装置・検出装置、制御装置・駆動装置・検出装置)、自閉式吊り引戸機構 (手動開き式)、重量シャッター、軽量シャッター、オーバーヘッドドア、ガラス (フロートガラス、型枠ガラス、網入板ガラス、線入板ガラス、熱線吸収板ガラス、倍強度ガラス、熱線反射ガラス)、ガラスブロック (中空)、防水剤、現場発泡断熱材、ポリウレタン (3000N、5000N)、可動間仕切、移動間仕切 (スライドタイプ)、トイレバス、煙突用成形ライニング材、天井点検口、床点検口、グレーチング、屋上緑化システム (屋上緑化システム、屋上緑化軽量システム)、トップライト、エポキシ樹脂、タイル部分張替用接着剤、ポリマーセメントモルタル、鋼鉄製ふた (マンホールふた・弁掛ふた)			15 技能士 (1.5.2)		⑯ 足場等 (2.2.4)		4 地業工事	
1 一般共通事項			16 仮設工事		20 都市設計		4 地業工事	
1 一般共通事項			17 仮設工事		21 都市設計		4 地業工事	
1 一般共通事項			18 仮設工事		22 都市設計		4 地業工事	
1 一般共通事項			19 仮設工事		23 都市設計		4 地業工事	
1 一般共通事項			20 仮設工事		24 都市設計		4 地業工事	
1 一般共通事項			21 仮設工事		25 都市設計		4 地業工事	
1 一般共通事項			22 仮設工事		26 都市設計		4 地業工事	
1 一般共通事項			23 仮設工事		27 都市設計		4 地業工事	
1 一般共通事項			24 仮設工事		28 都市設計		4 地業工事	
1 一般共通事項			25 仮設工事		29 都市設計		4 地業工事	
1 一般共通事項			26 仮設工事		30 都市設計		4 地業工事	
1 一般共通事項			27 仮設工事		31 都市設計		4 地業工事	
1 一般共通事項			28 仮設工事		32 都市設計		4 地業工事	
1 一般共通事項			29 仮設工事		33 都市設計		4 地業工事	
1 一般共通事項			30 仮設工事		34 都市設計		4 地業工事	
1 一般共通事項			31 仮設工事		35 都市設計		4 地業工事	
1 一般共通事項			32 仮設工事		36 都市設計		4 地業工事	
1 一般共通事項								

⑥砂利及び砂地業  
(4.6.2)  
(4.6.3)

⑦捨てコンクリート地業  
(4.6.4)

⑧床下防湿層  
(4.6.5)

9 土間断熱材

10 地盤改良

厚さ (mm) ● 図示による ※ 6 0

材料 砂利 ○ 再生クラッシュラン

砂 ○ 山砂 ○ 川砂 ○ 砕砂

厚さ (mm) ● 図示による ※ 5 0

ポリエチレンフィルム 厚さ 0.15mm 重ね幅縦及び基礎梁際のみ込み 250mm 以上

施工範囲 ○ 図示による

● 建物内の土間スラブ (土間コンクリート含む) の直下 (ピット下を除く)

○ 捨てコンクリートの直下

○ 押出法ポリスチレンフォーム 3 種 b のスキン層付き

厚さ ○ 2 5 mm ○ mm

○ 現場発生土を再利用する。

改良方法

セメント及びセメント系固材材を使用した改良土を使用する場合、六価クロム溶出試験を実施し、土壌環境基準を勘案して必要に応じ適切な措置を講じること。また、再利用しようとする場合は、基準以下であることを確認すること。

「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」(一財)日本建築セナを参考とすること。

①鉄筋の種類等  
(5.2.1)

②溶接金網  
(5.2.2)

③鉄筋の継手及び定着  
(5.3.4)  
(5.5.2)  
(5.6.3)

④鉄筋のかぶり厚さ及び間隔  
(5.3.5)

5 圧接完了後の試験  
(5.4.10)

(表 5.2.1)

種類	種類	径 (mm)	備 考
異形鉄筋	※ S D 2 9 5 A	D 1 6 以下	
	※ S D 3 4 5	D 1 9 以上	一般建築物の柱・梁の主筋に適用する

※ SD295AはFc:21以上の場合、壁筋及びスラブ筋に適用する

網目の形状、寸法 150×150 鉄線の径 6 mm

部 位	接 合 方 法	径 (mm)	重ね継手の長さ
※ 柱・梁の主筋	○ 重ね継手 ○ ｶﾞｽ圧接継手	D 1 9 以上	○ 標仕表 5.3.2
○	○ 機械式継手 ○ 溶接継手		による
※ その他	● 重ね継手 ○ ｶﾞｽ圧接継手	D 1 6 以下	※ 構造図による
	○ 機械式継手 ○ 溶接継手		

○ 機械式継手 種類 工法

品質確認方法、修正方法等

○ 溶接継手 種類 工法

品質確認方法、修正方法等

● 鉄筋継手位置 ※ 構造図による ● 表 5.3.3 による

● 鉄筋の定着長さ ※ 構造図による ● 表 5.3.4 による

鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ

※ 構造図による ○ 表 5.3.6 による (次の 2 項目のかぶり厚さを除く)

○ 軽量コンクリートで土に接する部分の鉄筋のかぶり厚さは下表による。

○ 塩害の受けるおそれのある部分等、耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による。

施 工 箇 所 等	最 小 か ぶ り 厚 さ (mm)
土に接する部分	60mm

機械式継手及び溶接継手のあき ○

試験方法 ※ 超音波探傷試験 ○ 引張試験

試験方法等 ※ 標仕 5.4.10 (4) (6)

①～⑥による ○

①コンクリートの種類  
(6.2.1)

②コンクリートの強度  
(6.2.2)  
(6.2.4)  
(6.10.2)  
(6.14.1)

③セメントの類別  
(6.3.1)

④骨材  
(6.3.1)

⑤混和材料  
(6.3.1)

⑥構造体強度補正值  
(6.3.2)

⑦打継ぎ  
(6.6.4)

⑧型枠 (せき板)  
(6.2.5)  
(6.8.2)  
(6.8.3)

⑨スリーブ  
(6.8.2)

種類 ※ 普通コンクリート ○

類別 ※ I 類 ○ II 類 (表 6.2.1)

設計基準強度 (Fc)

打 設 部 位	Fc (N/mm <sup>2</sup> )	スランブ (cm)	備 考
構造体	基礎 ○ 2 4 ● 2 1	○ 1 5 ● 1 8	
	上部 ○ 2 4 ● 2 1	○ 1 5 ※ 1 8	土間スラブを含む
土間コンクリート	● 1 8 ○	● 1 5 ○ 1 8	側溝・犬走り
捨コンクリート	● 1 8 ○	● 1 5 ○ 1 8	
軽量コンクリート	○ 2 1 ○	※ 2 1 ○ 1 8	
無筋コンクリート	※ 1 8 ○	○ 1 5 ○ 1 8	標仕 6.14.1 による

※ 構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。

[Fc + 構造体強度補正值 (S)] N/mm<sup>2</sup>

(6.14.1) によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない)

※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントの A 種

○ 高炉セメントの B 種 (適用箇所)

○ シリカセメント

○ フライアッシュセメントの B 種 (適用箇所)

粗骨材 ※ 砂利 (JIS A5308)、砕石 (JIS A5005) ○ 高炉ｽﾗｸﾞ ○ 電気炉酸化ｽﾗｸﾞ

○ 再生骨材H

細骨材 ※ 砂 (JIS A5308)、砕砂 (JIS A5005) ○ 高炉ｽﾗｸﾞ ○ 電気炉酸化ｽﾗｸﾞ

○ 鋼ｽﾗｸﾞ ○ 再生骨材H

アルカリシリカ反応性による区分 ※ A (無害) ○

● 混和剤 ※ AE 剤、AE 減水剤又は高性能 AE 減水剤の I 種 (JIS A 6204)

防錆剤 ※ 鉄筋コンクリート用防錆剤 (JIS A 6025)

● 混和材 ※ フライアッシュ (JIS A 6201) I 種、II 種若しくは IV 種

○ コンクリート用高炉スラグ微粉末 (JIS A 6206)

○ コンクリート用シリカフューム (JIS A 6207)

○ コンクリート用膨張材 (JIS A 6202)

※ 気温による構造体強度補正值 (S) (表 6.3.2)

予想平均気温 (°C)	補正值 (S)	期 間 (打 設 日)
普通	早強	南部地域 中部地域 北部地域
8 以上	5 以上	3/6 ~ 6/30 3/11 ~ 7/20 3/11 ~ 7/10
	N/mm <sup>2</sup>	9/11 ~ 11/15 9/1 ~ 11/5 9/1 ~ 10/31
0 以上	0 以上	6 11/16 ~ 3/5 11/ 6 ~ 3/10 11/ 1 ~ 3/10
8 未満	5 未満	N/mm <sup>2</sup>

南部地域 (京都市 (一部を除く)、旧八木町、旧園部町以南の市町村)

北部地域 (宮津市、旧加悦町以北の市町)

中部地域 (上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町含む)

位置 ※ 構造図による ○ 標仕 6.6.4 (1) による

目地の寸法 ※ 図示による ○

合板の規格 ※ 「合板の日本農林規格」の「コンクリート型枠用合板の規格」による合板

合板の材種 ※ 広葉樹合板、針葉樹合板又はこれらの複合合板

厚さ (mm) ※ 1 2 ○

打放し仕上げのせき板

※ 合板せき板を用いる場合 (表 6.2.4)

種 別	板 面 の 品 質	施 工 箇 所
○ A 種	※ 6.8.2 (2) (7) ○	
● B 種	※ 6.8.2 (2) (4) ○	FG 5'
○ C 種	※ 6.8.2 (2) (4) ○	FG 1'

○ 合板せき板を用いない場合

せき板の材料

コンクリートの仕上りの平たんさ

種 別	適 用 箇 所
○ a 種	
● b 種	FG 5' FG 1' FG 1 (外周部見えかかり)
○ c 種	

外部に面する打放し仕上げの打増し厚さ ※ 図示による ○ 2 0 mm

ひび割れ誘発目地の位置、形状及び寸法 ※ 図示による ○

スリーブの材種 (表 6.8.1)

適 用 箇 所	材 種 (規 格 そ の 他)
水密を要する地中部分等	※ つば付き銅管 (JIS G3452 の黒管に厚さ 6mm 以上、つば幅 50mm 以上の銅板を溶接したもの)
水密を要しない地中部分等	※ 硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K6741 の VU)
上記以外の円形スリーブ	※ 溶融亜鉛めっき銅板 (径 200mm 以下は厚 0.4mm 以上、径 200mm を超え 350mm 以下は厚 0.6mm 以上) ○

⑩コンクリートの試験  
(6.9.2)  
～(6.9.5)

11 軽量コンクリート  
(6.10.1)  
～(6.10.3)

12 寒中コンクリート  
(6.11.1)

13 暑中コンクリート  
(6.12.2)

14 マスコンクリート  
(6.13.1)  
(6.13.2)

⑮無筋コンクリート  
(6.14.1)

⑯コンクリートミキサー車の過積載防止対策等

※ フレッシュコンクリートの試験

○ 省略する

常時土又は水に直接接する部分の使用 ○ 可 ○ 不可

種類 ○ 1 種 ○ 2 種

施工箇所

気乾単位容積質量 t/m<sup>3</sup>

予想平均気温が表 6.3.2 に示す予想平均気温未満の場合には標仕第 6 章第 1 1 節 (寒中コンクリート) による。

※ 暑中における構造体強度補正值 (S)

地 域	日平均気温が25度を超える期間 (打設日)	補 正 値
北 部 地 域	7 月 1 1 日～8 月 3 1 日	※ 6 N/mm <sup>2</sup> ○ 3 N/mm <sup>2</sup>
中 部 地 域	7 月 2 1 日～8 月 3 1 日	
南 部 地 域	7 月 1 日～9 月 1 0 日	

施工箇所

セメントの種類 ○ 中麻熟ポルトランドセメント ○ シリカセメント

○ 低熟ポルトランドセメント

○ 高炉セメント B 種

○ フライアッシュセメント B 種

○ 普通ポルトランドセメント

※ AE 減水剤又は高性能 AE 減水剤 (JIS A 6204)

○

○ 混和材 ○ フライアッシュの II 種 (JIS A 6201)

○ 高炉スラグ微粉末の 3000 若しくは 4000 (JIS A 6206)

○

スランブ ※ 15cm ○

コンクリートの種類 ※ 普通コンクリート ○

受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車 1 台毎の積載量が把握できる運搬管理表を検査時に提出しなければならない。

1 鉄骨の製作工場  
(7.1.3)

2 施工管理技術者  
(7.1.4)

3 鋼材  
(7.2.1)

4 高力ボルト  
(7.2.2)  
(7.4.2)

5 溶融亜鉛めっき高力ボルト  
(7.2.2)  
(7.4.2)

6 普通ボルト  
(7.2.3)  
(7.3.8)

7 溶接材料  
(7.2.5)

8 ターンバックル  
(7.2.6)

9 デッキプレート  
(7.2.7) (7.7.8)

※ 建築基準法第 7 7 条の 5 6 第 1 項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた (株) 日本鉄骨評価センター及び (株) 全国鉄骨評価機構 (旧 (社) 全国鉄構工業協会) の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(OS OH OM OR OJ) グレード」として、国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場

○ 監督職員の承諾する工場 (標準仕様書 7.1.1 以外の適用範囲に限る)

適用する

種類 形状及び寸法 ※ 図示による ○

ボルトの区分 ○ トルシヤ形高力ボルト ○ 溶融亜鉛めっき高力ボルト

○ J 1 S 形高力ボルト

ねじの呼び ○

すべり係数試験 ○ 行わない

○ 行う 試験方法等 ○ 図示による ○

セットの種類 ○ 1 種 (F8T) 相当

摩擦面の処理 ○ プラスト処理 (表面粗度 5 0 μ mRz 以上)

○ リン酸塩処理

すべり耐力等の確認方法 ※ すべり耐力試験

試験方法等 ○ 図示による ○

ねじの呼び ○

母屋又は副梁の取付けに使用する普通ボルトの孔径 ○ ※ 呼び径 + 1.0mm

溶接材料

※ 標準仕様書 7.2.5 (1) (2) による

○ 図示による ○

鋼の種類 ※ 割捨式 ○ バイブ式

ボルトの種類 ※ 羽子板ボルト ○ 両ねじボルト ○ アイボルト

ねじの呼び ○

材質、形状及び寸法 ※ 図示による ○

デッキプレートと鉄骨部材の溶接方法 図示による

10 工作図  
(7.3.2)

11 仮組  
(7.3.10)

12 溶接作業における技能資格者  
(7.6.3)

13 溶接接合  
(7.6.4)  
(7.6.7)

14 溶接部の試験  
(7.6.12)

15 耐火被覆  
(7.9.2)  
～(7.9.7)

16 アンカーボルト  
(7.2.4)  
(7.3.2)  
(7.10.3)

17 柱底均しモルタル  
(7.2.9)  
(7.10.3)

高力ﾎﾞﾙﾄ、普通ﾎﾞﾙﾄのﾍﾞｰｼﾞ、ﾋﾞｯﾁ、ﾍﾞﾘあき等

※ 図示による (図に無い場合は鉄骨設計基準による)

○ 実施する 部位 ( )

○ 実施しない

溶接作業者の技量付加試験

※ 行わない

○ 行う 試験の要領 ○ 図示による ( ) ○

開先の形状

○ 図示による ○ 構造関係共通図 (鉄骨標準図) による

○

エンドタブの切断 ○ 有 ○ 無

適用箇所 ※ 図示による ○

切断面の仕上げ ※ ﾍﾞｰｼﾞにより、粗さ 100 μ mRz 程度以下及び ﾍﾞｰｼﾞ深さ 1mm 程度以下 ○

スカラップの形状

○ 図示による ○ 構造関係共通図 (鉄骨標準図) による

○ 改良型スカラップ

完全溶込溶接部の超音波探傷試験

※ 行う ○ 行わない

○ 工場溶接

AQUL ○ 4.0% ○ 2.5%

検査水準 ○ 第 6 水準 (節全て)

○ 工事現場溶接

H12 建設省告示第 1464 号 第二号に関する外観試験方法等

○ 「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニアル (独立行政法人 建築研究所)」 3.5.2 による受入検査

○ 抜き取り検査① ※ 抜き取り検査②

JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準] の付則 3 「溶接」に関する試験方法等

○ JASS 10.4 [受入検査] e. 溶接部の外観検査 (1) から (5) までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜き取り箇所は、超音波深傷試験の試験箇所と同一とする。

外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書 7.6.13 による補修を行い、再試験する。

種類

種 別	材 料 ・ 工 法	適用箇所 (部位・部分)
○ 耐火材吹付け	○ 乾式吹付ロックウール	
	○ 半乾式吹付ロックウール	
	○ 湿式ロックウール	
○ 耐火板張り	○ 繊維混入ケイ酸カルシウム板	
	○	
○ 耐火材巻付け	○ 高断熱ロックウール	
	○	
○ 5mm 張り移り塗り	-	
○ 耐火塗料		

材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする

性能

性 能	適 用 箇 所 (部 位 ・ 部 分)
○ 3 0 分耐火	
○ 1 時間耐火	
○ 2 時間耐火	
○ 3 時間耐火	

適用

○ 構造用アンカーボルト

種類 ○ SNR400B ○

アンカーフレームの形状及び寸法

○ 図示による ○

○ 建方用アンカーボルト

種類 ○ SS400

アンカーボルトの保持及び埋め込み工法 (表 7.10.1)

種別 ○ A 種 ○ B 種

柱底均しモルタルの厚さ ○ 5 0 mm ○ 3 0 mm

モルタルの種類 ※ 無収縮モルタル ○

材料・調合等 ※ 標示 7.2.9 (2) (7) から (2) による ○

厚さ ※ 図示による ○

工法 ※ A 種 ○ B 種

Ver. H30\_05

設計番号

設計年度

令和 5 年 3 月

都市設計

一級建築士事務所登録 (29A) 第 01211 号

一級建築士登録 第 152097 号 村林俊治

工事名

令和 5 年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事

図 番

建築工事特記仕様書 2

A - 2

7

鉄骨工事

18 錆止め塗料  
(7.8.4)  
(18.3.2)

塗料の種類  
○ 鉄鋼面の錆止め塗料  
○ 表18.3.1による ※ A種 ○ B種  
○  
○ 亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料  
○ 表18.3.2による ※ A種 ○ B種 ○ C種  
○  
鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内部（鉄骨に溶接されたものに限る）  
○ 表18.3.1による ※ A種 ○ B種  
○  
耐火被覆材の接着する面への塗装  
○ 行わない ○ 行う（範囲 ○ 図示による ○  
耐火被覆材の接着する面以外への塗装  
○ 行わない ○ 行う（範囲 ○ 図示による ○

8

コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

1 補強コンクリートブロック造  
(8.2.2)  
～(8.2.8)

ブロックの種類 ○ 16（C種）普通ブロック ○ 16-W（C種）防水ブロック  
モジュール呼び寸法及び正味厚さ ○ 図示による ○  
コンクリートの設計基準強度 F<sub>o</sub>（N/mm<sup>2</sup>）  
充填用及びまぐさ ※ 21 以上 ○  
上記以外 ※ 21 以上 ○  
各部の配筋 ※ 図示による  
モルタル又はコンクリートで充填するブロックの範囲 ○ 図示による ○

②コンクリートブロック幅壁及び塀  
(8.3.2)  
～(8.3.4)

ブロックの種類 (表8.3.1)

適用箇所		種類の記号
間仕切壁、地下二重壁、外壁、塀	※ 空洞ブロック 16	○
外壁の化粧積み	※ 空洞ブロック 16-W	○

モジュール呼び寸法及び正味厚さ ○ 図示による ○  
塀の厚さ ● 図示による ○  
壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状 ※ 図示による  
各部の配筋 ※ 図示による  
塀化粧ブロック ● 有（  
ブロック塀の基礎及び控壁のコンクリートの設計基準強度 F<sub>o</sub>（N/mm<sup>2</sup>）  
○ 18 ※ 21 ○

3 ALCパネル  
(8.4.2)  
～(8.4.5)

パネルの種類 (表8.4.2)(表8.4.3)(表8.4.4)

区分	単位荷重(N/m <sup>2</sup> )	厚さ(mm)	構法	耐火性能
○ 外壁ﾊﾞﾙ	※ 1180 ○ 1960	※ 100 ○ 150	○ A種 ○ B種	※ 有り（時間） ○ 無し
○ 間仕切ﾊﾞﾙ	※ 640 ○	※ 100 ○	○ C種 ○ E種 ○ D種	※ 有り（時間） ○ 無し
○ 屋根ﾊﾞﾙ	※ 980 ○	※ 100 ○	※ F種	※ 有り（時間） ○ 無し
○ 床ﾊﾞﾙ	○ 2350 ○ 3530	○ 100 ○ 150	※ F種	※ 有り（時間） ○ 無し

パネル相互の接合部に挿入する耐火目地材 ○ 図示による ○  
外壁ﾊﾞﾙの工法  
※ 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。  
※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。  
パネル幅の最小限度 ※ 300 mm ○  
ﾊﾞﾙの出隅及び入隅のﾊﾞﾙ接合部並びにﾊﾞﾙと他部材との取り合い部の目地幅 mm  
伸縮調整目地への耐火目地材の充填 ○ 適用する ○ 適用しない

4 押出成形セメント板 (ECP)  
(8.5.2)  
～(8.5.5)

種類 ※ 無石棉タイプ（タイプⅡ）

施工箇所	表面形状	厚さ（mm）	工法	耐火性能
○ 外壁	※ フラットパネル ○ デザインパネル（図示） ○ タイルベースパネル	○ 35 ○ 50 ○ 60	○ A種 ○ B種	※ 有り（時間） ○ 無し
○ 間仕切り	※ フラットパネル ○ デザインパネル（図示） ○ タイルベースパネル	○ 35 ○ 50 ○ 60	○ B種 ○ C種	○ 有り（時間） ※ 無し

外壁ﾊﾞﾙの工法  
※ 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。  
※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。  
パネル幅の最小限度 ※ 300 mm ○  
ﾊﾞﾙ相互の目地幅 ○ 図示による ○  
出隅及び入隅のﾊﾞﾙ接合部目地の目地幅 ※ 15 mm ○  
やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とする。ただし、欠損部分を考慮した強度を確認のうえ、施工計画書を提出すること。

開口の大きさ		切断後のﾊﾞﾙの残り部分の幅
ﾊﾞﾙに開口を設ける場合	短辺	
	長辺	
ﾊﾞﾙを切り欠く場合	短辺	
	長辺	

9

防水工事

1 アスファルト防水  
(9.2.2)  
～(9.2.5)

(表9.2.3)～(表9.2.9)

種別		防水層	施工箇所	仕上塗料の種類	使用量
○ 保護防水	○ A-1 ○ A-2 ○ A-3	表9.2.3			
	○ AI-1 ○ AI-2 ○ AI-3	表9.2.4			
	○ B-1 ○ B-2 ○ B-3	表9.2.5			
	○ BI-1 ※ BI-2 ○ BI-3	表9.2.6			
○ 露出防水	※ D-1 ○ D-2 ○ D-3	表9.2.7	施工箇所	仕上塗料の種類	使用量
	○ D-4				
	○ DI-1 ○ DI-2	表9.2.8			
○ 屋内防水	※ E-1 ○ E-2	表9.2.9			

断熱材（保護防水断熱工法）  
厚さ ○ mm  
  
断熱材（露出防水断熱工法）  
厚さ ○ mm  
  
種類  
ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置  
※ 図示による ○  
絶縁用シート ※ ポリエチレンフィルム厚0.15（保護防水工法）  
※ フラットヤーークロス（70g/m<sup>2</sup>程度）（保護防水断熱工法）  
○  
押え金物 ※ アルミニウム製 L-30×15×2.0 ○  
立上り部の保護 ○ 乾式保護材（  
○ 普通れんが ○ 化粧れんが ○  
○ コンクリート（工法）  
保護層 平場のコンクリート厚さ ○ mm  
○ こて仕上げ mm  
○ 床タイル張り等仕上げ mm  
  
屋上排水溝 ※ 図示による  
脱気装置（露出防水絶縁（断熱）工法） ※ 設ける 材質（  
設置数量（1箇所/㎡）

2 改質アスファルトシート防水  
(9.3.2)  
～(9.3.4)

(表9.3.1)～(表9.3.3)

種別		防水層	施工箇所	仕上塗料の種類	使用量
○ AS-T1 ○ AS-T2	表9.3.1				
	○ AS-T3 ○ AS-T4 ○ AS-J1	表9.3.2			
	○ AS-T1 ○ AS-T1	表9.3.3			

断熱材（露出防水断熱工法）  
厚さ ○ mm  
種類 ○  
脱気装置（絶縁工法） ※ 設ける 材質（  
設置数量（1箇所/㎡）  
防湿層（露出防水絶縁断熱工法） ※ 設ける ○ 設けない  
押え金物 ※ アルミニウム製 L-30×15×2.0 ○

3 合成高分子系ルーフシート防水  
(9.4.2)  
～(9.4.4)

(表9.4.1)(表9.4.2)

種別		防水層	施工箇所	仕上塗料の種類	使用量
○ S-F1	表9.4.1			○ カラー ○ シルバー ○	
	○ S-F2				
	○ S-M1 ○ S-M2 ○ S-M3				
○ SI-F1	表9.4.2				
	○ SI-F2				
	○ SI-M1 ○ SI-M2				
○ S-C1	表9.4.3				

平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ ○ mm  
  
○ 断熱材（機械的固定工法）  
厚さ mm  
種類  
  
○ 断熱材（接着工法）  
厚さ mm  
種類  
  
○ 防湿用フィルムを設置する（断熱工法）

9

防水工事

4 塗膜防水  
(9.5.3)

(表9.5.1)(表9.5.2)

種別		防水層	施工箇所	仕上塗料の種類	使用量
○ X-1	表9.5.1				
○ X-2					
○ Y-1	表9.5.2	地下外壁防水			
○ Y-2		屋内防水			

脱気装置（X-1） ○ 設ける 材質（  
設置数量（1箇所/㎡）  
保護層（Y-2） ○ 設ける

5 ｾﾗｾﾞ質系塗布防水  
(9.6.3)

(表9.6.2)

種別	防水層	施工箇所
○ C-U1	表9.6.2	
○ C-U2		

6 漏水試験

※ 水張り試験を行う（○ 屋内 ○ 屋外）

7 保証書

※ 受注者、防水施工業者、防水材料メーカーの連名による保証書を提出すること。  
（保証年限は工事目的物引渡しより10年間以上とする。）

8 施工標識

工事完了後に監督職員の指示する位置へ取り付ける。  
材質 ※ 真鍮製エッチング仕上 150×100 ○  
設置数量 箇所

10

石工事

1 天然石張り  
(10.2.1)

(表10.2.1)

施工箇所	種類の種類	種類の大きさ	形状・寸法等	表面仕上の種類

2 テラソ張り  
(10.2.1)

(表10.2.2)

施工箇所	種類の種類	種類の大きさ	形状・寸法等	表面仕上の種類
	※ 大理石 ○	※ 1.5～12mm ○		

3 壁の石張り工法  
(10.2.2)  
(10.2.3)  
(10.3.2)  
(10.3.3)  
(10.4.2)  
(10.4.3)  
(10.5.2)  
(10.5.3)

外壁石張り  
工法 ○ 外壁湿式工法（※ 無し施工法 ○ あと施工アール工法 ○ あと施工アール横筋流し工法）  
受金物の材質、形状及び寸法 ○  
○ 乾式工法 ※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。  
金物の種類、形状、寸法等  
○ スライド方式 ○ ロッキング方式 ○  
  
石の厚さ mm  
表面及び裏打ち処理 ※ 行わない ○ 行う（表面処理の場合小口共）  
ドレンパイプ ※ ステンレスSUS304 ○  
目地 ○ 一般目地幅 mm  
○ 伸縮調整目地位置  
○ シーリング材の目地寸法 mm

10

石工事

4 床及び階段の石張り  
(10.6.2)  
(10.6.3)

内壁石張り  
工法 ○ 内壁空積工法（※ あと施工アンカー横筋流し工法 ○ あと施工アンカー工法）  
○ 乾式工法（○ スライド方式 ○ ロッキング方式 ○  
石の厚さ mm  
表面及び裏打ち処理 ※ 行わない ○ 行う  
目地 ○ 一般目地幅 mm  
○ 伸縮調整目地位置  
○ シーリング材の目地寸法 mm  
  
石の厚さ mm  
石表面処理 ※ 行わない ○ 行う  
目地 ○ 一般目地幅 mm  
○ 伸縮調整目地位置  
○ シーリング材の目地寸法 mm  
屋内のワックス掛け ○ 行わない ※ 行う

5 特殊部位の石張り  
(10.2.2)  
(10.7.1)  
～(10.7.4)

アーチ、上げ裏等  
取付工法 ○ 外壁湿式工法 ○ 内壁空積工法 ○ 乾式工法  
取付金物 ○  
石の厚さ mm  
表面及び裏打ち処理 ※ 行わない ○ 行う  
目地 ○ 一般目地幅 mm  
○ 伸縮調整目地位置  
○ シーリング材の目地寸法 mm  
  
笠木、甲板等  
取付工法 ○ 外壁湿式工法 ○ 内壁空積工法 ○ 乾式工法  
取付金物 ○  
石の厚さ mm  
石表面処理 ※ 行わない ○ 行う  
石材表面の補強用モルタル（乾式工法） ※ 行わない ○ 行う  
目地 ○ 一般目地幅 mm  
○ 伸縮調整目地位置  
○ シーリング材の目地寸法 mm  
  
隅て板  
石の厚さ mm

11

タイル工事

1 伸縮調整目地等  
(11.1.3)

外壁 ※ 表11.1.1による ○ 図示による  
屋内壁面 ※ 図示による ○  
床面 ※ 表11.1.1による ○

②施工後の確認及び試験  
(11.1.5)

浮きの確認 ※ 全面打診による確認を行う  
接着力の試験 ※ 接着力試験機による引張接着強度の測定を行う ● 行わない

③タイル張り  
(11.2.2)  
(11.2.7)  
(11.3.2)  
(11.3.7)

タイルの種類  
施工箇所・形状・タイルの種類 寸法(mm) 生地 釉薬 耐凍害性 耐溶り性 役物 色 工法 その他  
ポーチ 100口 ● 磁器 ● 無釉 ● 有り ○ 有り ※ 標準  
玄関 段鼻 ○ 陶器 ○ 施釉 ○ 無し ● 無し ○ 特注  
ポーチ 50口 ● 磁器 ○ 無釉 ● 有り ● 有り ※ 標準  
腰壁 モザイク ○ 陶器 ● 施釉 ○ 無し ○ 無し ○ 特注  
○ せつ器 ○ 磁器 ○ 無釉 ○ 有り ○ 有り ※ 標準  
○ 陶器 ○ 施釉 ○ 無し ○ 無し ○ 特注  
○ せつ器  
  
タイルの試験張り ※ 行わない ○ 行う  
タイルの見本焼き ※ 行わない ○ 行う  
既調査モルタル

4 下地及びタイル  
ごしらえ(11.2.7)

下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理  
○ MCR工法 ○ 目荒し工法 ○ 図示による ○

⑤張付け用材料  
(11.3.3)

接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○

令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事

図番

Ver. H30.05

設計番号

設計年度

令和5年3月

都市設計

一級建築士事務所登録（29A）第01211号  
一級建築士登録 第152097号 村林俊治

建築工事特記仕様書3

A-3





15

左官工事

1ラス系下地  
(15.2.4)

②モルタル塗り  
(15.3.2)～(15.3.5)

3セルフレベリング材塗り  
(15.5.2)(15.4.3)

4仕上塗材仕上げ  
(15.6.2)

下地の種類  
○ 通気工法 二層下地  
○ 通気工法 単層下地  
○ 直張り工法 ラスモルタル下地  
○ 直張り工法 ラスシートモルタル下地  
  
○ 耐力壁、防火構造、準耐火構造等の指定 ※ 図示による ○ \_\_\_\_\_  
  
材料 ○ 現場調査材料 ○ 既調査材料 ( \_\_\_\_\_ )  
既製目地材  
○ 適用する ( 形状 \_\_\_\_\_ )  
床塗り  
目地の設置 ※ 有り ( 種類 ※ 押目地 ○ \_\_\_\_\_ )  
( 目地割 ※ 2m程度 最大目地間隔 3m ○ \_\_\_\_\_ )  
○ 無し  
外装タイル張り下地等の下地モルタル塗りの確認及び試験  
浮きの確認 ※ 全面打診による確認を行う  
接着力試験 ○ 行う ● 行わない

※ 種類及び品質は表15.5.1による  
○ せっこう系 ○ セメント系  
厚さ (mm) ※ 10 ○ 15

薄付け仕上塗材 (JIS A 6909) (表15.6.1)

種類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考
○ 外装薄塗材Si	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け	
	○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー	
○ 可とう形外装薄塗材S	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け	
	○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー	
○ 外装薄塗材E	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け	
	○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて塗	
	○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー	
	○ 着色骨材砂壁状	○ 吹付け ○ こて塗	
○ 可とう形外装薄塗材E	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け	
	○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて塗	
	○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー	
○ 防水形外装薄塗材E ( ○ 増塗材 )	○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー	
	○ 凹凸状	吹付け	
○ 外装薄塗材S	砂壁状	吹付け	
○ 内装薄塗材C	○ 凹凸状	吹付け	○ 調湿形
○ 内装薄塗材L	○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて塗	
	○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー	
○ 内装薄塗材Si	○ 砂壁状じゅらく ○ ゆず肌状	吹付け	
○ 内装薄塗材E	○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて塗	
	○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー	
○ 内装薄塗材W	○ 京壁状じゅらく ○ ゆず肌状	吹付け	○ 調湿形 ○ 耐アルカリ性
	○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて塗	○ 耐湿性

厚付け仕上塗材 (JIS A 6909) (表15.6.1)

種類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考
○ 外装厚塗材C	○ 吹放し ○ 凸部処理	吹付け	
	○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて塗	
( ○ 上塗材 )	○ ひき起し ○ かき落とし		
○ 外装厚塗材Si	○ 吹放し ○ 凸部処理	吹付け	
○ 外装厚塗材E	○ 平たん状 ○ 凹凸状	○ こて塗	
( ○ 上塗材 )	○ ひき起し	○ ローラー	
○ 内装厚塗材C	○ 吹放し ○ 凸部処理	吹付け	○ 調湿形
	○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて塗	
	○ ひき起し ○ かき落とし		
○ 内装厚塗材L	○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて塗	
	○ ひき起し ○ かき落とし		
○ 内装厚塗材G	○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて塗	
	○ ひき起し ○ かき落とし		
○ 内装厚塗材Si	○ 吹放し ○ 凸部処理	吹付け	
○ 内装厚塗材E	○ 平たん状 ○ 凹凸状	○ こて塗	
	○ ひき起し	○ ローラー	

15

左官工事

複層仕上塗材 (JIS A 6909) (表15.6.1)

種類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考
○ 複層塗材CE	○ 凸部処理	吹付け	
○ 複層塗材Si	○ 凹凸状		
○ 複層塗材E			
○ 複層塗材RE	○ ゆず肌状	ローラー	
○ 可とう形複層塗材CE	○ 凸部処理 ○ 凹凸状	吹付け	
	○ ゆず肌状	ローラー	
○ 防水形複層塗材CE	○ 凸部処理	吹付け ( ○ 増塗材 )	
○ 防水形複層塗材E	○ 凹凸状		
○ 防水形複層塗材RE	○ ゆず肌状	ローラー	

複層仕上塗材の耐候性 ※ 耐候形3種 ○ \_\_\_\_\_  
複層仕上塗材の上塗材 溶媒 ※ 水系 ○ 弱溶剤系 ○ 溶剤系  
樹脂 ※ アクリル系 ○ \_\_\_\_\_  
外観 ※ つや有 ○ つやなし ○ メタリック

軽量骨材仕上塗材 (JIS A 6909) (表15.6.1)

種類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考
○ 吹付用軽量塗材	砂壁状	吹付け	
○ こて塗用軽量塗材	平たん状	こて塗	

ALCパネルの内壁目地部の形状 ※ V型目地付き ○ \_\_\_\_\_

種別 ○ A種 ○ B種 (表15.7.1)

下塗り及び中塗り ○ 既調合ﾌﾞﾗｯｸｰ ○ 現場調合ﾌﾞﾗｯｸｰ  
上塗り ○ 既調合ﾌﾞﾗｯｸｰ ○ しゃくい塗り (15.8.2)(15.8.3)

下地 ○ 木ずり ○ こまい土壁塗り ○ せっこうﾌﾞﾗｯｸｰ´D´ ○ せっこうﾌﾞﾗｯｸｰ´D´ ○ \_\_\_\_\_  
材料 ○ 現場調査材料  
○ 既調合材料 しゃくい塗材の種類等 ( \_\_\_\_\_ )

調査・塗厚 ○ 木ずり下地 ※ 表15.10.1 ○ \_\_\_\_\_  
○ こまい土壁下地 ※ 表15.10.2 ○ \_\_\_\_\_

土間用のり ※ つのまた ○ ふのり ○ ぎんなんそう ○ 粉末海藻 ○ \_\_\_\_\_  
砂壁用のり ※ ふのり ○ つのまた ○ こんにゃくのり ○ にわか  
○ 合成高分子系混和剤 ○ \_\_\_\_\_  
色土の種類 ○ 土物仕上げ \_\_\_\_\_ ○ 大津仕上げ \_\_\_\_\_  
色砂の種類 ○ 天然砂と岩石の砕砂 ○ 人工的に着色・製造したもの  
下塗りの調査 ※ 表15.11.2 ○ \_\_\_\_\_  
塗厚 ※ 表15.11.8 ○ \_\_\_\_\_  
○ 耐力壁の指定がある場合 ( \_\_\_\_\_ mm )  
工程 ※ A種 ○ B種  
○ 土物 仕上げ  
種類 ○ 土もの仕上げ工法  
○ 水ごね土物1工法 ○ 水ごね土物2工法  
○ のりさし土物工法 ○ のりごね土物工法  
○ 砂壁仕上げ工法  
○ 切返し仕上げ工法  
ちりじゃくり \_\_\_\_\_  
○ 大津 仕上げ  
種類 ○ 普通大津仕上げ工法 ○ 大津みがき仕上げ工法  
ちりじゃくり \_\_\_\_\_

27ロックウール吹付け (15.12.2)(15.12.3)

16

建具工事

①性能

※ 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。

※ 図示による ○ \_\_\_\_\_

2防火戸 (16.1.3)

3見本の製作等 (16.1.4)

4防犯建物部品 (16.1.6)

⑤アルミニウム製建具 (16.2.2)～(16.2.5)

※ 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。

※ 図示による ○ \_\_\_\_\_

建具見本の製作 ○ 行う ( 建具番号 \_\_\_\_\_ )  
特殊な建具の仮組 ○ 行う ( 建具番号 \_\_\_\_\_ )

開口部の進入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」を適用する箇所  
・ ドア 適用箇所 ( \_\_\_\_\_ )  
・ サッシ 適用箇所 ( \_\_\_\_\_ )  
・ シャッター 適用箇所 ( \_\_\_\_\_ )

外部に面するアルミニウム製建具の性能等級 (コンクリート系下地、鉄骨下地) (表16.2.1)

性能等級	● A種	○ B種	○ C種
耐風圧性	※ S-4 ● S-2	※ S-5 ○	※ S-6 ○
気密性	⊗ A-3 ● A-4		※ A-4 ○
水密性	※ W-4 ○		※ W-5 ○
枠見込み (mm)	※ 図示 ○ 70 ○ 100		※ 図示 ○

外部に面するアルミニウム製建具の性能等級 (木下地) (表16.2.2)

性能等級	○ D種	○ E種
耐風圧性	※ S-2 ○	※ S-3 ○
気密性	※ A-3 ○	
水密性	※ W-3 ○	
枠見込み (mm)		

表面処理 (表14.2.1)

種 別	色	施 工 箇 所
○ BB-1種	○ 標準 ○ 特注	※ 図示による ○
● BB-2種	● 標準 ○ 特注	※ 図示による ○
○ BC-1種	○ 標準 ○ 特注	※ 図示による ○
○ BC-2種	○ 標準 ○ 特注	※ 図示による ○
○	○ 標準 ○ 特注	

○ 防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級 \_\_\_\_\_ )  
○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級 \_\_\_\_\_ )  
○ 耐震ドアとする場合 (面内変形追従性の等級 \_\_\_\_\_ )  
結露水の処理方法 ※ 図示による ○ \_\_\_\_\_  
水切り、ぜん板等 ※ 図示による ○ \_\_\_\_\_  
※ 出入口のくつずりにステンレスを使用する場合は図示による。  
木下地の場合の外部に面する内付建具の止水処理 ○ 行う

⑥網戸 (16.2.3)(16.3.3)

防虫網 材 質 ※ 合成樹脂製 ○ ガラス繊維入り合成樹脂製  
○ ステンレス製 (SUS316)  
形 式 ※ 外部可動式 ○ 固定式  
線径、網目 ※ 0.25mm以上、16～18メッシュ ○ \_\_\_\_\_  
防鳥網 ○ 設置する

7樹脂製建具 (16.3.2)～(16.3.4)

外部に面する樹脂製建具の性能等級 (コンクリート系下地、鉄骨下地) (表16.2.1)

性能等級	○ A種	○ B種	○ C種
耐風圧性	※ S-4 ○	※ S-5 ○	※ S-6 ○
気密性		※ A-4 ○	
水密性	※ W-4 ○		※ W-5 ○
枠見込み (mm)	※ 図示 ○		

外部に面する樹脂製建具の性能等級 (木下地) (表16.2.2)

性能等級	○ D種	○ E種
耐風圧性	※ S-2 ○	※ S-3 ○
気密性		
水密性	※ W-3 ○	
枠見込み (mm)		

○ 防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級 ○ T-1 ○ T-2 ○ \_\_\_\_\_ )  
○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級 ○ H-4 ○ H-5 ○ H-6 ○ \_\_\_\_\_ )

ガラス ※ 複層ガラス ○ 単板ガラス ○ 三重ガラス ○ \_\_\_\_\_  
表面色 ○ 標準色 ○ 特注色

16

建具工事

8鋼製建具 (16.4.2)～(16.4.4)

9鋼製軽量建具 (16.5.2)～(16.5.4)

10ステンレス製建具 (16.6.2)～(16.6.4)

⑪木製建具 (16.7.2)(16.7.3)

外部に面する建具の耐風圧性 ○ S-4 ○ S-5 ○ S-6 (表16.2.1)  
簡易気密扉の気密性、水密性 ※ 適用する ○ 適用しない (表16.4.1)  
○ 防音ドア、防音サッシの適用 (遮音性の等級 \_\_\_\_\_ )  
○ 断熱ドア、断熱サッシの適用 (断熱性の等級 \_\_\_\_\_ )  
○ 耐震ドアの適用 (面内変形追従性の等級 \_\_\_\_\_ )  
JISただし書き建具の寸法許容差 (これ以外は標仕による)  
※ 製造所標準製作規定寸法許容差による

鋼板類の厚さ ※ 表16.4.2 (片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く)  
○ \_\_\_\_\_ mm  
※ 適用する (A-3) ○ 適用しない

簡易気密型ドアセットの気密性 ※ 適用する (A-3) ○ 適用しない  
○ 防音ドア、防音サッシの適用 (遮音性の等級 \_\_\_\_\_ )  
○ 断熱ドア、断熱サッシの適用 (断熱性の等級 \_\_\_\_\_ )  
○ 耐震ドアの適用 (面内変形追従性の等級 \_\_\_\_\_ )  
鋼板 ○ 表面処理亜鉛めっき鋼板 ○ ビニル被覆鋼板  
○ カラー鋼板 ○ ステンレス鋼板  
鋼板類の厚さ ※ 表16.5.1 (片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く)  
○ \_\_\_\_\_ mm  
召合せ、縦小口包み板等 ※ 鋼板 ○ ステンレス鋼板 ○ アルミニウム合金の押出材

外部に面する建具の耐風圧性 ○ S-4 ○ S-5 ○ S-6 (表16.2.1)  
簡易気密扉の気密性、水密性 ※ 適用する ○ 適用しない (表16.4.1)  
○ 防音ドア、防音サッシの適用 (遮音性の等級 \_\_\_\_\_ )  
○ 断熱ドア、断熱サッシの適用 (断熱性の等級 \_\_\_\_\_ )  
○ 耐震ドアの適用 (面内変形追従性の等級 \_\_\_\_\_ )  
ステンレス鋼板 ※ JIS G 4305  
種類 ○ SUS304 ○ SUS430J1L ○ SUS443J1 ○ \_\_\_\_\_  
JISただし書き建具の寸法許容差 (これ以外は標仕による)  
※ 製造所標準製作規定寸法許容差による

表面仕上げ ※ HL ○ 鏡面  
曲げ加工 ※ 普通曲げ ○ 角出し曲げ

建具材の含水率の種類 ○ A種 ※ B種 ○ C種

フラッシュ戸  
表面材の合板の種類適用及び品質等 ○ \_\_\_\_\_  
表面板の厚さ ※ 図示による ○ \_\_\_\_\_  
かまち戸  
かまち及び鏡板の樹種 ※ 図示による ○ \_\_\_\_\_  
見込み寸法 ※ 36mm ○ \_\_\_\_\_  
ふすま  
材料の種類 ○ I型 ○ II型  
上張りの種類 ※ 図示による ○ \_\_\_\_\_  
見込み寸法 ※ 19.5mm ○ \_\_\_\_\_  
戸ぶすま  
上張りの種類 ※ 図示による ○ \_\_\_\_\_  
見込み寸法 ※ 30mm ○ \_\_\_\_\_  
紙張り障子  
見込み寸法 ※ 30mm ○ \_\_\_\_\_  
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ \_\_\_\_\_

1/200 0 100 200 300 400 500 600 700 800 900 1000 1100 1200 1300 1400 1500 1600 1700 1800 1900 2000 2100 2200 2300 2400 2500 2600 2700 2800 2900 3000 3100 3200 3300 3400 3500 3600 3700 3800 3900 4000 4100 4200 4300 4400 4500 4600 4700 4800 4900 5000 5100 5200 5300 5400 5500 5600 5700 5800 5900 6000 6100 6200 6300 6400 6500 6600 6700 6800 6900 7000 7100 7200 7300 7400 7500 7600 7700 7800 7900 8000 8100 8200 8300 8400 8500 8600 8700 8800 8900 9000 9100 9200 9300 9400 9500 9600 9700 9800 9900 10000

Ver. H30\_05

設計番号

設計年度

令和 5年 3月

都市設計

一級建築士事務所登録 (29A) 第01211号  
一級建築士登録 第152097号 村林俊治

工事名

令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事

図 番

図名

建築工事特記仕様書 5

A-5

[illegible]

19

4 帯電防止床シート、床タイル (19. 2. 2)

○帯電防止床シート

種 類	性 能	厚 さ (mm)
○	○体積抵抗値 1×10 <sub>7</sub> ～1×10 <sub>10</sub> Ω程度	
○	○	

○帯電防止床タイル

種 類	性 能	寸法	厚さ (mm)
○	○体積抵抗値 1×10 <sub>7</sub> ～1×10 <sub>10</sub> Ω程度		
○	○		

○ 5 視覚障害者用床タイル (19. 2. 2)

種 類	形 状	備 考
○塩化ビニル系	※ 3 0 0mm角	
○レジンコンクリート系	○ 1 5 0mm角	
○磁器又はせっ器質タイル	○	

6 耐動荷重性床シート (19. 2. 2)

種 類	厚 さ (mm)	備 考
○	○	
○	○	

7 防滑性床シート、床タイル (19. 2. 2)

○ 防滑性床シート

種 類	厚 さ (mm)	備 考
○	○	
○	○	

○ 防滑性床タイル

種 類	寸 法	厚さ (mm)	備 考
○	○	○	
○	○	○	

⑧ビニル幅木 (19. 2. 2)

種 類	高 さ (mm)	厚 さ (mm)
●軟質 ○硬質	※ 60 ○ 75 ○ 100 ○	※ 1. 5 ○ 2. 0

9 ゴム床タイル張り (19. 2. 2)

種 類	色 柄	厚さ (mm)	寸法 (mm)
○単層品 ○積層品			

10カーペット敷き (19. 3. 2) (19. 3. 3)

○織じゅうたん

種 別	織り方	バイル形状	帯電性	色 柄	接合方法	施 工 箇 所
○ A 種			○適用	※ 無地	○トリートメント工法	
○ B 種				○	○	
○ C 種						

○タフテッドカーペット

バイル形状	バィル長さ (mm)	工 法	帯電性	施 工 箇 所
		○ゲリッパ工法	○適用	
		○全面接着工法		

○ニードルバンチカーペット

厚さ (mm)	帯電性	施 工 箇 所
	○適用	

○タイルカーペット

種別	バイル形状	寸法 (mm)	総厚さ (mm)	施 工 箇 所
※一種	※ループバイル	※ 500×500	※ 6. 5	
○二種				

タイルカーペットの敷き方

平面部分

※ 市松敷き

○

階段部分

※ 模様流し

○

下敷き材

※ JIS L 3204 (反毛フェルト) の第 2 種 2 号

呼び厚さ 8mm

○

見切り、押さえ金物

材質、形状等

※ 図示による

○

厚膜型塗床材

○弾性ウレタン樹脂系塗床材

※ 平滑仕上げ

○ 防滑仕上げ

○つや消し仕上げ

○

○エポキシ樹脂系塗床材

○ 厚膜流しのべ仕上げ ( ○ 平滑 ○ 防滑 )

○ 厚膜流しのべ仕上げ ( ○ 平滑 ○ 防滑 )

○ 樹脂モルタル仕上げ ( ○ 平滑 ○ 防滑 )

薄膜型塗床材

○エポキシ樹脂系塗床材

⑬フローリング張り (19. 5. 2) ～ (19. 5. 7)

(表19. 5. 1) ～ (表19. 5. 6)

種 類	樹 種	厚さ (mm)	大きさ	工 法	備 考
●フローリングボード 1 等	※ なら	○	●表19. 5. 3	釘留め工法	
	○	○ 15	○表19. 5. 1	○ 根太張り工法	
		● 12	○表19. 5. 4	● 直張り工法	
		○ 8	○表19. 5. 5	○ 接着工法	
○フローリングブロック 1 等	※ なら	○ 8		○ 接着工法	○防水処理足金物付
		○ 15			
		○			

19

13 緑甲板張り (19. 5. 1)

14 畳敷き (19. 6. 2)

⑮せっこうボード、その他ボード及び合板張り (19. 7. 2)

⑰壁紙張り (19. 8. 2) (19. 8. 3)

⑰天井廻り縁

18 断熱・防露 (19. 9. 2) (19. 9. 3)

複合フローリング

種 別	樹 種	厚さ (mm)	工 法	種 別	備 考
○ 1 × 6 タイプ		○ 8	釘留め工法		
○ フローリングボードタイプ	※ なら	○ 15	○ 根太張り工法	○ A 種	
○	○	○		○ B 種	
			○ 直張り工法	○ C 種	
			○ 接着工法		

接着工法のフローリング裏面の緩衝材

※ 合成樹脂発泡シート

○

仕上げ塗装

○ ウレタン樹脂ワニス塗り ( 1 液形 ) B 種

○ オイルステインの上ワックス塗り

○ 生地のままワックス塗り

○

樹 種	等 級	仕上程度	施工箇所

種別

○ A 種

○ B 種

○ C 種

○ D 種 (KT- )

(表19. 6. 1)

種別

※ 表19. 7. 1による J I S 規格品とする

(表19. 7. 1)

種 類	規 格 ・ 厚 さ (mm) 等		
●せっこうボード (GB-R)	※ 12. 5 (不燃) ○ 9. 5 (準不燃)		
●化粧せっこうボード (GB-D)	○ 杉板模様	○ 12. 5 (不燃)	
	○ トラバーチン模様 (化粧下地は専用のものとする)		
○ 不燃積層せっこうボード (GB-NC)	○ トラバーチン模様	※ 9. 5 (不燃)	
	○ 模様なし		
●シーシングせっこうボード (GB-S)	○ 15 (不燃) ○ 12. 5 (準不燃) ※ 9. 5 (準不燃)		
○ 強化せっこうボード (GB-F)	○ 21 (不燃) ○ 15 (不燃) ○ 12. 5 (不燃)		
○ ロックウール吸音ボード (RW-B)	※ 25 ○		
○ グラスウール吸音ボード (GW-B)	※ 25 ○		
○ 吸音あなあきせっこうボード (GB-P)	○ 9. 5 (準不燃)		
○ ロックウール化粧吸音板 (DR)	内部用 フラット	○ 12 (不燃) ※ 9 (不燃)	
	立体模様	○ 15 (不燃) ※ 12 (不燃)	
	軒天用 フラット	○ 12 (不燃) ※ 9 (不燃)	
	立体模様	○ 15 (不燃) ※ 12 (不燃)	
○ けい酸カルシウム板 (0. 8FK)	タイプ 2 (無石棉)	○ 8. 0 ○ 6. 0 ○	
○ メラミン樹脂化粧板	JIS K 6903 による	※ 1. 2	
○ 難燃木毛セメント板	○ 30 ○ 25 ○ 20 ○ 15		
○ 断熱木毛セメント板	○ 30 ○ 25 ○ 20 ○ 15		
○ 普通合板	厚さ	接着の程度	表板樹種
	板面の品質		防虫処理○行う
○ 天然木化粧合板	厚さ	接着の程度	
	化粧板樹種	○ なら ○ しおじ	防虫処理○行う
○ 特殊加工化粧合板	厚さ	接着の程度	化粧加工の方法
	表面性能	○ F ○ FW ○ W ○ WS	防虫処理○行う
●その他下張り用合板			

軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材

○ アクリル系シーリング

○ ウレタン系シーリング

○ ジョイントコンパウンド

合板類の張付け

(表19. 7. 3)

○ A 種

※ B 種

せっこうボードの目地処理

(表19. 7. 5)

○ 目透かし

○ 突付け

○ 継目処理

防火性能・種類・規格・施工箇所

※ 図示による

○ 下表による

施 行 箇 所	防火性能	品 質 ・ 規 格

素地ごしらえ

モルタル及びプaster面

○ A 種

※ B 種

(表18. 2. 4)

コンクリート面

○ A 種

※ B 種

(表18. 2. 5)

せっこうボード面

目地継目処理工法の場合

※ A 種

○ B 種

(表18. 2. 7)

突付け・目透し工法の場合

○ A 種

※ B 種

(表18. 2. 7)

材質

○ アルミニウム製

● 塩化ビニル製

	材 料	そ の 他
断熱材	○ ビーズ法 <sup>※</sup> リスチンフォーム断熱材	断熱材厚さ ○ mm
打込み工法	○ 押出法 <sup>※</sup> リスチンフォーム断熱材	
	○ 硬質ポリスチレンフォーム断熱材	
	○ フェノールフォーム断熱材	
断熱材現場発泡工法	○ A 種 1 ○ A 種 I H ○	JIS A 9526
	(難燃性を有するものとする)	吹付け厚さ ○ mm

※ 開口部等補修用接着剤の<sup>※</sup>47<sup>※</sup>ビ<sup>※</sup>の放散量はJISで定めるF☆☆☆☆とする

※ 特定フロンを使用しないものとする。

20

①家具、ユニット等の揮発性有機化合物対策

2 フリーアクセスフロア (20. 2. 2)

3 可動間仕切り (20. 2. 3)

4 移動間仕切り (20. 2. 4)

5 トイレブース (20. 2. 5)

6 階段滑り止め (20. 2. 6)

7 階段手すり

8 黒板及びホワイトボード (20. 2. 8)

9 鏡 (20. 2. 9)

10 表示・標識 (20. 2. 10) (20. 2. 11)

収納家具その他ユニットに使用する材料で、合板、化粧合板、MDF等の<sup>※</sup>47<sup>※</sup>ビ<sup>※</sup>等の放散量

※ F☆☆☆☆ ○

収納家具その他ユニットに使用する合板等の接着剤

<sup>※</sup>47<sup>※</sup>ビ<sup>※</sup>等の放散量

※ F☆☆☆☆ ○

含まれる可塑剤

※ フォス<sup>※</sup>酸<sup>※</sup>エステル等を含有しない、難揮発性のもの

○

※ 建設技術評価制度「耐震型カーテンウォールの開発」の技術評価を取得した製品とする。

施 工 箇 所	寸法 (mm)	フロア高さ (mm)	耐震性能	所定荷重	帯電防止性能	漏えい抵抗

スロープ及びボーダー

※ 製造所の標準仕様

○ 図示による

コンセント等の取付け

※ 製造所の標準仕様

(コンセント本体は別途設備工事)

配線用取出し用開口

※ 対応品又は工場加工品

(施工箇所は図示)

空調用吹出しパネル

○ あり (※ 固定式 ○ 可変式 施工箇所は図示)

※ 表面仕上げ材の品質、規模等は、標仕 1 9 章内装工事による。

フリーアクセスフロアの試験方法

耐荷重性能

○

耐衝撃性能

○

ローリングロード性能

○

耐燃焼性能

○

種 類

構造形式

構成基材

表面仕上

遮音性

バィル内に取付ける建具

寸法 ・ 形状

○ パネル式

○ スタッド式

○ スタッドバィル式

○メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付

パネル材料のホルムアルデヒド放散量

F☆☆☆☆

パネル操作方法による種類

パネル表面材 ・ 仕上

パネル圧接装置の操作方法

遮音性

あと施工アンカー

材質

寸法

引抜耐力試験

※ 行う

表面材

○ メラミン樹脂系化粧板

○ ポリエステル樹脂系化粧板

脚部

※ 幅木型

○ 足金物型

ドアエッジの材質

※ トイレブース製造所の仕様による。

○

パネル材料のホルムアルデヒド放散量

F☆☆☆☆

材種

○ ステンレス製 (SUS304)

○

幅

○ 約35mm

○

形状

○ ビニルタイヤ入り

両端フラットエンド

○ あり ( ○ ビニル ○ SUS304 )

取付工法

※ 接着工法

○ 埋込み工法

○ ステンレス製 ( SUS304 H L 仕上 )

径

mm

(仕様は金属工事参照)

○ 集成材

径

mm

○ クリアラッカー仕上げ

○ ビニル製ハンドレール

※ 丸型

径

mm

○ 平型

幅

mm

	区 分	種 類	色彩	備 考
○ 黒板	※ 焼付け	○ 鋼製黒板	※ 緑	○ 曲面
	○	○ ほうろう黒板	○ 黒	○ スクリーン付引分け
○ ホワイトボード		○ ほうろう白板	※ 白	○ 曲面
		○	○	○ スクリーン付引分け

顔縁金属

※ アルミ製

(表面処理の種類

※ B-2 ○ B-1 )

品質・規格

厚さ (mm)

※ 5

○

衝突防止表示

※ 図示による ( 市販品 ○ ステンレス製 径 30 mm ○ )

○ なし

法令に基づく表示

※ 非常用進入口表示等は消防法に適合する市販品とし、その他は標準詳細図による。

室名札

厚さ (mm)	材 質	色	書 体	印刷等の種別	取付け形式
○ 5	○ アクリル板		○ 角太ゴシック	○ シルク印刷	○ 平付型
○	○ アルミ板		○ 丸	○	○ 持出型

外国語表現

○ 行う ( ○ 英語 ○ )

寸 法 (mm)

○ 50×250

○ 60×250

○ 図示による

ピクトグラフ (便所、車いす、階段等)

厚さ (mm)	材 質	印刷等の種別	取付け形式	備 考
○ 5	○ アクリル板	○ シルク印刷	○ 平付型	
○	○ アルミ板	○	○ 持出型	

寸 法 (mm)

○ 150×150

○ 図示による

20

11 ブラインド (20. 2. 12)

12 ロールスクリーン (20. 2. 13)

13 カーテン (20. 2. 14)

⑭カーテンレール (20. 2. 14)

15 ブラインドボックスカーテンボックス

16 くつふきマット

17 鋼製書架及び棚

18 収納家具 (木製)

19 掲示板

⑯ユニットバス

⑰洗面カウンター

⑱システムキッチン

23 非常用救助袋等

24 鍵箱

25 定礎

26 旗竿受金物

案内板 (館内、各階、便所)

厚さ (mm)	材 質	色	書 体	印刷等の種別	取付け形式
○ 5	○ アクリル板		○ 角太ゴシック	○ シルク印刷	○ 平付型
○	○ アルミ板		○ 丸	○	○ 持出型

外国語表現

○ 行う ( ○ 英語 ○ )

寸 法 (mm)

○ 600×600

○ 100×600

○ 200×200

○ 図示による

館名板等

品質・規格

形 式	種 類	スラットの材質	スラット幅 (mm)	ボックス・レールの材質
○ 横形	※ ギヤ式	※ アルミニウム合金	※ 25	※ 鋼製
	○ コード式		○ 35	○
○ 縦形	※ 2 本操作コード式	○ アルミスラット	○ 80	※ アルミニウム合金製
	○ 1 本操作コード式	○ アルミスラット	○ 100	

操作方法

○ スプリング式

○ コード

○ 電動式

幅及び高さ

スクリーンの材質

○ 布製

○ ガラス繊維製

○ 木製

品質・規格

(20. 2. 14)

取付箇所	形 式	開閉操作方法	カーテン用きれ地の種類・品質・特殊加工等	ひだの種類
	シングルバィル片引	電動	ひも引	手引
	○	○	○	○
	○	○	○	○
	○	○	○	○
	○	○	○	○
	○	○	○	○

消防法で定める防火性能の表示があるもの

材種

※ アルミニウム製又はアルミニウム合金の押し出し成形材製

● ステンレス製

○

形式

○ 片引き

○ 引分け

(暗幕用は300 mm以上の召合せの重ね掛けとする。)

形状

○ C型

○ D型

※ 角型

強さによる区分

※ 10-90

○

仕上げ

※ アルマイト

○

○ 図示による

○ 市販品 (アルミニウム製 押出し型材)

仕様等

溝幅×深さ (mm)

○ 90×150

○ 150×80

○ 120×80

○

表面処理

○ C-1 (無着色)

○ C-2 (着色)

材種

○ 塩化ビニル製 (コイル状 ステンレス製 (SUS304) 受枠)

○ 硬質アルミニウム合金 (受枠とも)

○ ステンレス製 (SUS304) (受枠とも)

○ ゴム製 (ステンレス製 (SUS304) 受枠)

品質・規格

品質・規格

品質・規格

品質・規格

品質・規格

	枠 の 材 質	表面の材質	照明器具	施 錠	品質・規格
○ 屋内	○ アルミニウム製 (B-2)				
	○ ステンレス製 (SUS304)				
○ 屋外	○ アルミニウム製 (B-2)		○ あり	○ あり	
	○ ステンレス製 (SUS304)		○ なし	○ なし	

品質・規格

1 3 1 6 (オフローラ パナソニック同等)

材 種

○ メラミン樹脂化粧板張り (芯材：集成材)

○ 人工大理石 (品質 図示)

奥行き (mm)

○ 約450

○ 約600

○

● 洗面化粧台 750×530 (シーライン パナソニック同等)

種 類	部品寸法 (mm)	規 格	仕 様
○ 流し台		○ 優良住宅部品	トラップ付き
○ コンロ台		○ 優良住宅部品	バックガード有り
○ 吊戸棚		○ 優良住宅部品	高さ 約500 mm
○ 水切り棚		○ 優良住宅部品	ステンレス製 1 段式

● 2123×750 人造大理石 C T (ラクシーナ パナソニック同等)

● 収納棚 1800×437×2400 ラクシーナ パナソニック同等)

※ 垂直降下式緩下機は消防法に基づく国家検定に合格したものとする。

形式

○ 傾斜式

○ 垂直式

品質・規格

市販品

形式

※ 釣下式

○ 差込式

( ○ 30 ○ 60 ○ 120 ○ )

組用

( ) 個

定礎石

○ 御影石

文字掘込

寸法 450×600×30

○

定礎銘板

○ 銅板製

両面文字掘込

寸法 B 4 版

厚さ 5 mm

○

定礎箱

○ 銅版製

寸法 400×300×60

○

材種

※ ステンレス鋼 (SUS304)

( 市販品

※ 1 箇所

○ 箇所 )

品質・規格

令和 5 年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事

図 番

Ver. H30. 05

設計番号

設計年度

令和 5 年 3 月

一級建築士事務所登録 ( 2 9 A ) 第 0 1 2 1 1 号

一級建築士登録 第 1 5 2 0 9 7 号 村林俊治

国名

建 築 工 事 特 記 仕 様 書 7

A - 7

20

ユニ  
ット  
及び  
その  
他の  
工事

27 旗ポール

28 煙突ライニング  
(20. 2. 11)

29 プレキャスト コンクリート  
(20. 3. 2)

30 間知石及びコン  
リート間知ブロック  
(20. 4. 2)

30 間知石及びコン  
リート間知ブロック  
(20. 4. 3)

31 敷地境界石標

32 車止め

⑬ フェンス

21

排水  
工事

①材料 (21. 2. 1)

②側境、排水柵及び  
ふた (21. 2. 1)

3 縁石 (21. 3. 1)

④コンクリート側溝  
(21. 2. 1)

(21. 3. 1)

特 記 事 項

材 質 形 式 地上高さ (m) 操 作 方 法 固 定 方 法

※アルミニウム合金※ テーパー型 ○ 6 ○ 10 ※ ハンドル式 ○ 埋込式

○ ○ 同一断面型 ○ 8 ○ ○ ロープ式 ○ ベース式

品質・規格

煙突用成形ライニング材及びキャスタブル耐火材

最高温度 ※ 400℃ ○ 650℃

品質・規格

補強鉄線 ○ JIS G 3532 の普通鉄線

○ JIS G 3551 の溶接金網

径 (mm) 網目寸法 ×

コンクリートの設計基準強度

※水セメント比 55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m3

を満足する調合強度

○

配筋 ※配筋を定めた計算書を監督職員に提出する

○

取付け方法 ※ 図示による ○

間知石の材種 ○ 花こう岩 ○

コンクリート間知ブロック 面の形状 ○ 長方形 ○ 正方形 ○ 六角形 ○ H型

質量区分 ○ ブロック A ○ ブロック B

地業の材料 ※ 再生クラッシャーラン ○

練積みの工法 ※ 谷積み ○ 布積み (目塗り ○ 行う)

伸縮目地材の材種、厚さ

種別 ○ 花こう石類 (文字記号入り) ※ コンクリート製 (市販品)

形 式 材 質 柱径・肉厚 (mm) 高さ (mm)

○ 上下式鎮内蔵型 ○ ステンレス製 (SUS304) ○ φ76.3 t=2.0 ○ 6L+700

(○ スリット付き) ○ ○ φ114.3 t=2.5 ○ 6L+850

基礎 無筋コンクリート造 350×350 H250程度

表 面 仕 上 等 種 類 門扉の仕様

○ 亜鉛めっき ○ 樹脂塗装 ○ メッシュフェンス ○ ステンレスフェンス ○ 片開き

○ ビニル被覆 ○ ○ ヴェルフェンス ○ ○ 両開き

● 図示による

22

舗  
装  
工  
事

①路床 (22. 2. 2)

(22. 2. 3)

(22. 2. 5)

②路盤 (22. 3. 2)

(22. 3. 3)

(22. 3. 5)

③アスファルト舗装  
(22. 4. 2)

～(22. 4. 6)

④コンクリート舗装  
(22. 5. 2)

～(22. 5. 6)

5 カラー舗装  
(22. 6. 2)

～(22. 6. 4)

6 透水性舗装  
(22. 7. 2)

～(22. 7. 6)

特 記 事 項

路床の構成

○凍上抑制層 厚さ ● 図示による ○

○透水性舗装 フィルター層の厚さ 車道部 ○ 図示による ○ 150mm ○

歩道部 ○ 図示による ○ 50mm ○

盛土に用いる材料 ○ A種 ※ B種 ○ C種 ○ D種 (表3. 2. 1)

路床安定処理 ○ 行う ● 行わない

路床安定処理用材料 ※ 添加材料による安定処理 (表22. 2. 2)

種 類 ○ 地盤改良材 ( ) ○ 高炉セメントB種

○ 普通ポルトランドセメント ○ 生石灰 特号 ○ 生石灰 1号

○ フライアッシュセメントB種 ○ 消石灰 特号 ○ 消石灰 1号

添加量 kg/m3

路床土の支持力比(CBR)試験 ○ 行う (※ 乱した土 ○ 乱さない土)

路床締固め度の試験 ※ 行う (埋戻し部、盛土部) ● 行わない

路盤の厚さ mm ● 図示による

材料 ○ 再生クラッシャーラン (RC-40, 30, 20)

○ クラッシャーラン (C-40, 30, 20) ○ クラッシャー鉄鋼スリット (CS-40)

路盤締固め度の試験 ※ 行う ● 行わない

舗 装 の 種 類 表層(mm) 基層(mm) カラー舗装の種類

※ アスファルト舗装

※ 顔料濃度大加熱アスファルト混合物

アスファルト ● 再生アスファルト (○ 60～80 ○ 80～100)

○ ストレートアスファルト

再生加熱アスファルト混合物の種類

区分 ○ 一般地域 ○ 寒冷地域

表層 ○ 密粒度アスファルト混合物 (13) ※ 密粒度アスファルト混合物 (13F)

○ 細粒度アスファルト混合物 (13)

施工

シールコート ○ 行わない ○ 行う (施工範囲)

シールコート用乳剤の種類 ○ PK-1 ○ PK-2

アスファルト混合物の抽出試験 ○ 行う ※ 行わない

アスファルト締固め度、厚さの試験 ※ 行う ○ 行わない

構成

コンクリートの種類 部 位 厚さ(mm) 設計基準強度(N/m<sup>2</sup>) スランプ(cm)

土間コンクリート カーポート アプローチ 大走り 図示による 18 15

早強セメント ※ 使用しない ○ 使用する

目地

注入目地材料 ※ 低弾性タイプ ○ 高弾性タイプ

種類 ○ 突合せ目地 ● 収縮目地 ○ 伸縮調整目地 ○

間隔 ○ 5m程度ごと ○ 4m程度ごと ● 3m程度ごと ○

コンクリート版厚さの試験 ※ 行う

種 類 部 位 配合その他

※ 加熱系アスファルト混合物 ○ 車路

添加剤 ○ 着色骨材 ○ 自然石 ○ 歩行者

結合材 ○ アスファルト ○ 石油樹脂 (添加量) 用通路

アスファルト混合物等の抽出試験

○ 適用する ※ 適用しない

舗装の厚さ mm

○ 常温系ニート工法

○ 常温系塗布工法

着色部の下部 ○ アスファルト舗装 ○ コンクリート舗装

舗装構成及び厚さ ※ 図示による ○

表層の厚さの試験 ※ 行う ○ 行わない

開粒度アスファルト混合物の抽出試験 ○ 行う ※ 行わない

22

舗  
装  
工  
事

⑦ブロック系舗装  
(22. 8. 2)

(22. 8. 3)

⑧砂利敷き  
(22. 9. 2)

9 白線引き

特 記 事 項

○ コンクリート平板舗装

種 類 寸 法 (mm) 厚さ (mm) 目 地

※ 普通平板(N) ○ カラー平板(C) ● 300角 ※ 60 ※ 砂

● 洗出平板(W) ● 掘石(S) ○ ○ ○ モルタル

品質・規格

クッション材 ※ 砂 ○ 空練りモルタル

○ インターロッキングブロック舗装

種 類 部位 形状寸法(mm) 厚さ(mm) 曲げ強度(N/mm<sup>2</sup>) 色彩及び表面加工等

※ 普通ブロック 車路 ※ 80 ※ 5.0 ※ 標準品

○ 京セラ® 歩行者用通路 ※ 60 ※ 3.0 ○

○ 透水性ブロック ○ 80 ○ ○

○ 植生ブロック ー ○ 60 ※ 80 ○ 100

品質・規格

クッション材 ※ 砂

○ 舗石舗装

種 類 形状寸法(mm) 厚さ(mm) 工 法 基 層 基層の厚さ(mm)

○ 花崗岩 ○ 80～100 ○ うろこ張り ○ コンクリート版 ※ 70

○ ○ ○ ○ ○

○ アスファルト混合物 ※ 50 ○

品質・規格

クッション材 ※ 砂 ○ 空練りモルタル

通 路 ※ A種 ○ B種

建物周囲その他 ○ A種 ※ B種

※ 下敷きの使用材料は再生クラッシャーランとする

種 類 ○ 溶融式 ○ ペイント式 幅 (cm) ○ 15 ○

23

植  
栽  
及  
び  
屋  
上  
緑  
化  
工  
事

1 植栽基盤整備  
(23. 2. 2)

(23. 2. 3)

2 樹木の種類等  
(23. 3. 2)

3 支柱材、幹巻き用  
材料 (23. 3. 2)

4 芝等 (23. 4. 2)

(23. 4. 3)

5 屋上緑化  
(23. 5. 2)

～(23. 5. 4)

6 新植、移植樹木、  
芝等の枯補償  
(23. 3. 4) (23. 3. 6)

(23. 4. 7) (23. 5. 5)

特 記 事 項

※ 行う

樹木の樹高 有効土層の厚さ (cm) 工 法 整 備 範 囲

12m以上 ※ 100 ○ 120 ○ 150 ※ A種 ※ 植込み部分

7～12m未満 ※ 80 ○ 100 ○ B種 ○ 葉張りの範囲

3～7m未満 ※ 60 ○ 80 ○ C種 (樹高7m以上)

3m未満 ※ 50 ○ 60 ○ D種 ○ 図示

芝、地被類 ※ 20 ※ B種 ○ ※ 植栽範囲 ○

※ 工法D種以外の工法で、現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高から有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う。

植込み用土 ※ 現場発生の土の良質土 ○ 客土 (○ 畑土 ○ 腐土)

土壌改良材 ○ 行う (○ パーク堆肥 ○ 下水汚泥コンポスト)

施工箇所 ※ 植込み部分 ○ 図示による

植栽基盤に浸透した雨水の排水

○ 暗きょ ○ 開きょ ○ 排水層 ○ 堅穴排水 ○

樹木の種類、寸法、数量等 ※ 図示による ○ 下表による

種 類 寸 法 数 量 備 考

支柱材 ※ 杉(焼き丸太) ○ 竹 ○ ひのき ○ から松(皮はぎ)

形式 ※ 図示による ○

防腐処理方法 ※ 加圧式防腐処理丸太 ○

幹巻用材料 ※ 幹巻き用テープ ○ わら ○ こも

芝

種 別 芝 張 り の 工 法

※ コウライシバ ※ 目地張り ※ べた張り ○ 筋芝張り

○ ノシバ ○ ○ ○

吹付けは種

種子の種類 ※ 洋芝類 ○

種子の量

地被類

種類

芽立数 径

単位面積当たりの株数 株/m<sup>2</sup>

○ 屋上緑化方法

排水層 ○ 軽量骨材 (厚さ) ○ 板状成形品

土壌層 ※ 改良土 (厚さ) ○ 人工軽量土 (厚さ)

○ 屋上緑化軽量方法

樹木の種類、寸法、数量等 ※ 図示による ○ 下表による

種 類 寸 法 数 量 備 考

芝・地被類の種類

※ 図示による

○ コウライシバ (※ 目地張り ○)

○ ノシバ (※ 目地張り ○)

○ セダム類 (○ カット ○ ふるい ○ プラグ苗 ○)

材料 ○ 見切り材 ○ 舗装材

○ 水抜き管 ○ 排水材

かん水装置 ○ 設置

外部仕上表

部 位		備考1	品名（参考品番）	備考2	参考メーカー	その他
屋根・外壁	屋根	平板瓦葺 切妻屋根・寄棟屋根 4寸勾配 雪止瓦 ケラバ瓦（一体袖瓦） 隅棟（廻隅瓦）	スーパートライ 110 スマート	鶴屋		
		アスファルトルーフィング 換気棟	瓦棧 エコランバー（K1530） 瓦座（H4035） 登棧 エコランバー（K1530）	フクビ フクビ		
	軒裏	ケイ酸カルシウム板 厚10 底目 下地処理 アクリル系リシン吹付 軒天換気孔 75×910 アルミ見切り縁	軒天換気孔 N E D X W	フクビ		
	鼻隠し	鼻隠し：ガルバリム化粧鋼板厚0.4 曲げ加工				
	外壁 （通気工法）	窯業系サイディング 厚16 構造用合板 9.0 防湿通気シート 通気胴縁 厚2 1	セラディール 親水1 6 モエン エクセラード1 6	ケイミュー・ニチハ		
	アプローチ腰壁	5 0 × 1 0 0 口磁器質タイル（内面：コンクリート打ち放し補修 ゆず肌ローラ塗）				
	腰（基礎巾木）	コンクリート 打放し補修 アクリル樹脂系撥水塗料（N A D）塗装				
	開口部	アルミ・樹脂複合建具 複層ガラス	エピソードⅡ NEO アルジオ サーモス L	Y K K 三協立山 L I X I L		
	樋	軒樋： スチール芯入り硬質塩化ビニール角形 W=130（前高） 吊金物 S u S @600 、 落葉除けアルミメッシュ（全面）	アーキスケアE マイルドE-I 型	パナソニック		
		縦樋： 住宅用縦樋（60口）（地中埋設部はV P Φ75とする）	住宅用縦樋 P C30	パナソニック		
郵便受		SuS製 壁埋め込みタイプ（390w×287d×390h）	ポスト S O V 2 型 ポスト K S - M A B 2 - 1 5 L K 口金ポスト	三協立山 ナスタ タカショー		
ポーチ	床	モルタル下地 磁器床タイル 1 0 0 口 段鼻：ノンスリップタイル				
宅内駐車場	土間 カーポート	土間コンクリート厚100 木こて押え 溶接金網 φ6 150×150 下地砕石 厚100（R C - 4 0） アルミ製 カーポート 既製品（H G 1 5 0 0 N / m <sup>2</sup> 仕様） ポリカーボネート樹脂屋根	カムフィーエース Z バリューポート D H G N -（P K）2450 フーゴ R 1 5 0 0	三協立山 四国化成 L I X I L	防犯灯取付（電気工事）	
アプローチ	宅内通路	洗い出しコンクリート平板 300口×60 砕石敷 厚90 下地：コンクリート舗装 厚6 0（溶接金網 3 . 2 × 1 0 0 × 1 0 0）+路盤砕石 R C - 4 0 厚6 0		太平洋ブレコン工業		
バルコニー 専用庭	ウッドデッキ 砕石舗装	ウッドデッキ（デッキ下部・土間コンクリートコテ押え） 幕板 砕石厚1 0 0 敷き均し	ファンデッキ 樹ら楽ステージ ひとと木 2 エバーエコウッドデッキⅡ	四国化成 L I X I L 三協立山 タカショー		
犬走り		土間コンクリート 厚100 金こて仕上 コテ目地切り@2000 溶接金網 φ6 150×150 下地砕石厚100（R C - 4 0）				
囲障	南側 調整池側	C B 厚 1 2 0 化粧積 H = 1 0 0 0 目隠しフェンス H = 8 0 0 片側フェンス扉 8 0 0 w × 1 2 0 0 h 独立コンクリート基礎 宅地先管理用通路、残地沿い 目隠しフェンス H = 1 6 0 0 布基礎コンクリート 1 8 0 × 6 0 0	目隠し バリューフェンス 6 型 フェンス A B Y L 3 型 レジリア Y L 1 型 ルーバー	四国化成 L I X I L 三協立山		
進入路	側溝	宅地沿い：V形側溝、V形側溝柵グレーチング蓋 T - 2 0（既存 L 型側溝撤去） アスファルト舗装（表層 厚50 路盤砕石 厚100）補修		オガグレートグレーチング	給水引込部のアスファルト撤去復旧	
保育所職員用 駐車場	車路	（工事対象外）				
管理用通路		宅地沿い：コンクリート舗装（表層 厚6 0 路盤砕石 厚6 0）				

内部仕上表

室名	床		巾 木		腰 壁		壁		天 井		備考
	下地	仕上	下地	仕上	下地	仕上	下地	仕上	下地	仕上	
1. 玄関	モルタル	磁器床タイル	モルタル	磁器床タイル				ビニールクロス	木軸天井下地	ビニールクロス	より框 100×100 桧C L
		100□	コンクリート	100 □			P B厚12.5		P B厚9.5		玄関収納
				H =100、200							
2. ホール	構造用合板	フローリング		木製巾木				ビニールクロス	木軸天井下地	ビニールクロス	
	(特類) 厚24	厚12	木軸	H =60			P B厚12.5		P B厚9.5		収納棚
3. 廊下	構造用合板	フローリング		木製巾木				ビニールクロス	木軸天井下地	ビニールクロス	天井点検口
	(特類) 厚24	厚12	木軸	H =60			P B厚12.5		P B厚9.5		
4. L D K	構造用合板	フローリング		木製巾木				ビニールクロス	木軸天井下地	ビニールクロス	システムキッチン
	(特類) 厚24	厚12	木軸	H =60			P B厚12.5	キッチンボード	P B厚9.5		パナソニック ラクシーナ (同等)
											T O T O ザ・クラッソ (同等)
											クーラースリーブ カーテンレール
5. 寝室	構造用合板	フローリング		木製巾木				ビニールクロス	木軸天井下地	ビニールクロス	収納クローゼット
	(特類) 厚24	厚12	木軸	H =60			P B厚12.5		P B厚9.5		クーラースリーブ
											カーテンレール
6. 便所	合板タイプⅠ	長尺シート	耐水合板 厚9.0	ビニールソフト				ビニールクロス	木軸天井下地	ビニールクロス	収納吊戸棚
	厚9	厚2.0		巾木			耐水合板9.0		P B厚9.5		
	構造用合板			H =60			手摺取り付け部		(G B－S)		
	(特類) 厚24						下地補修				
7. 浴室 (ユニットバス)	コンクリート	F R P						化粧パネル		化粧パネル	浴室U B 1 3 1 6 2枚折ドア
											パナソニック オフローラ (同等)
											T O T O サザナ (同等)
8. 洗面室	合板タイプⅠ	長尺塩ビシート	耐水合板 厚9.0	ビニールソフト				ビニールクロス	木軸下地	ビニールクロス	床下点検口
	厚9	厚2.0		巾木			耐水合板9.0		P B厚9.5		洗面化粧台 750W
	構造用合板			H =60					(G B－S)		パナソニック シーライン (同等)
	(特類) 厚24										T O T O Aシリーズ (同等)

- <特記> 1. フローリング 単層フローリング厚12 (フローリングボード)

2. 木製巾木 60×23 C L
3. 床下断熱材 ポリプロブレン発泡断熱材厚80 E－2235K 35型 (フクビ) 同等

壁断熱材 厚100 (24kg/m<sup>3</sup>)

\* 単身者用界壁 (Y8通り) は、PB厚12.5下地を、屋根裏まで到達させる。(両面2枚重ね張グラスウール充填)

\* クーラースリーブ取付用下地; 耐水合板 厚12

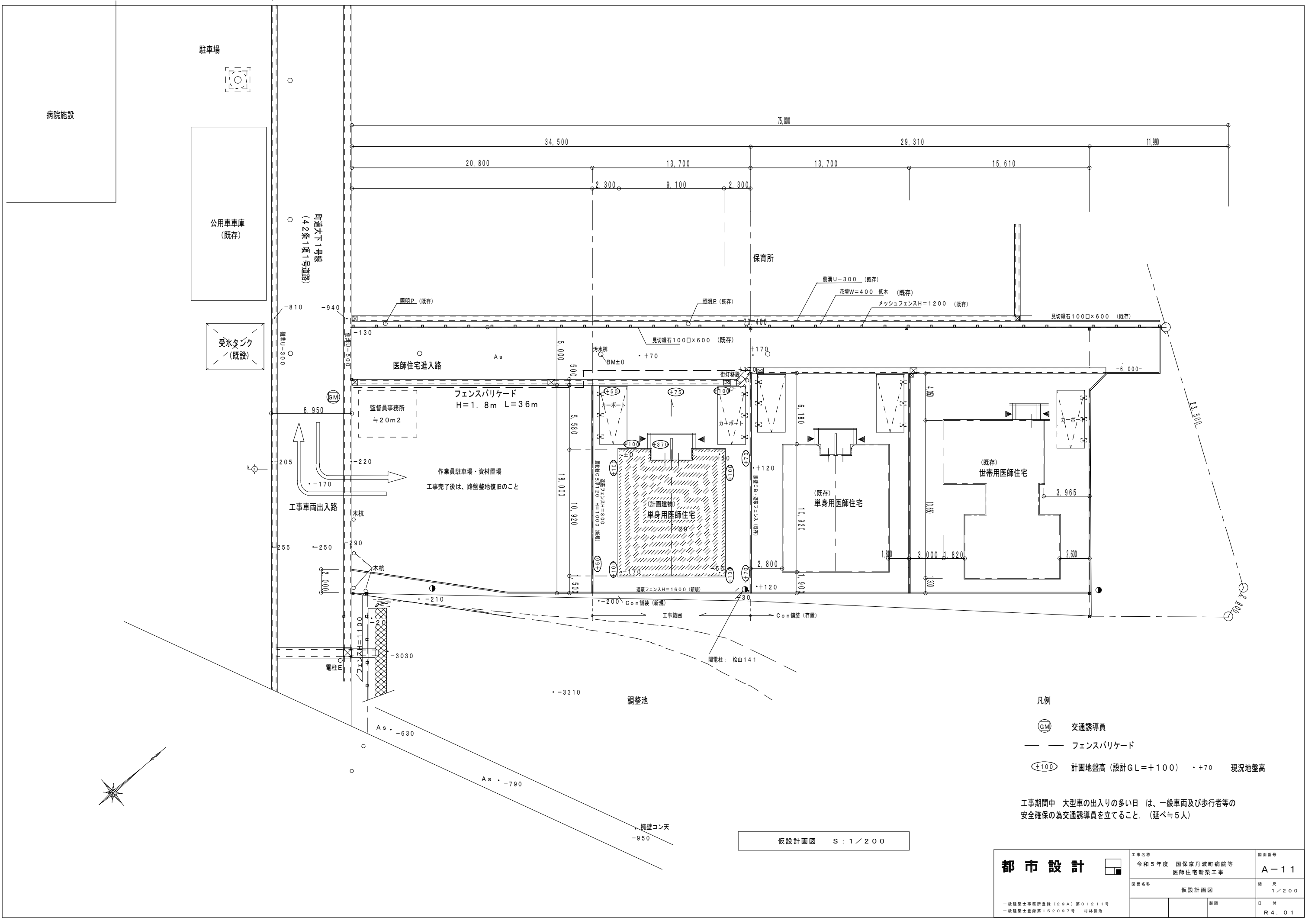
\* 便所内手摺取付部事前下地補強; 耐水合板 厚12
4. 木軸天井下地 野縁受 45×60 @910 野縁 35×35 @303

5. 天井ウラ グラスウール 厚100 (24kg/m<sup>3</sup>) 敷込

カーテンレール 各室共通 ステンレス製W

6. 天井廻り縁は塩ビ製とする。



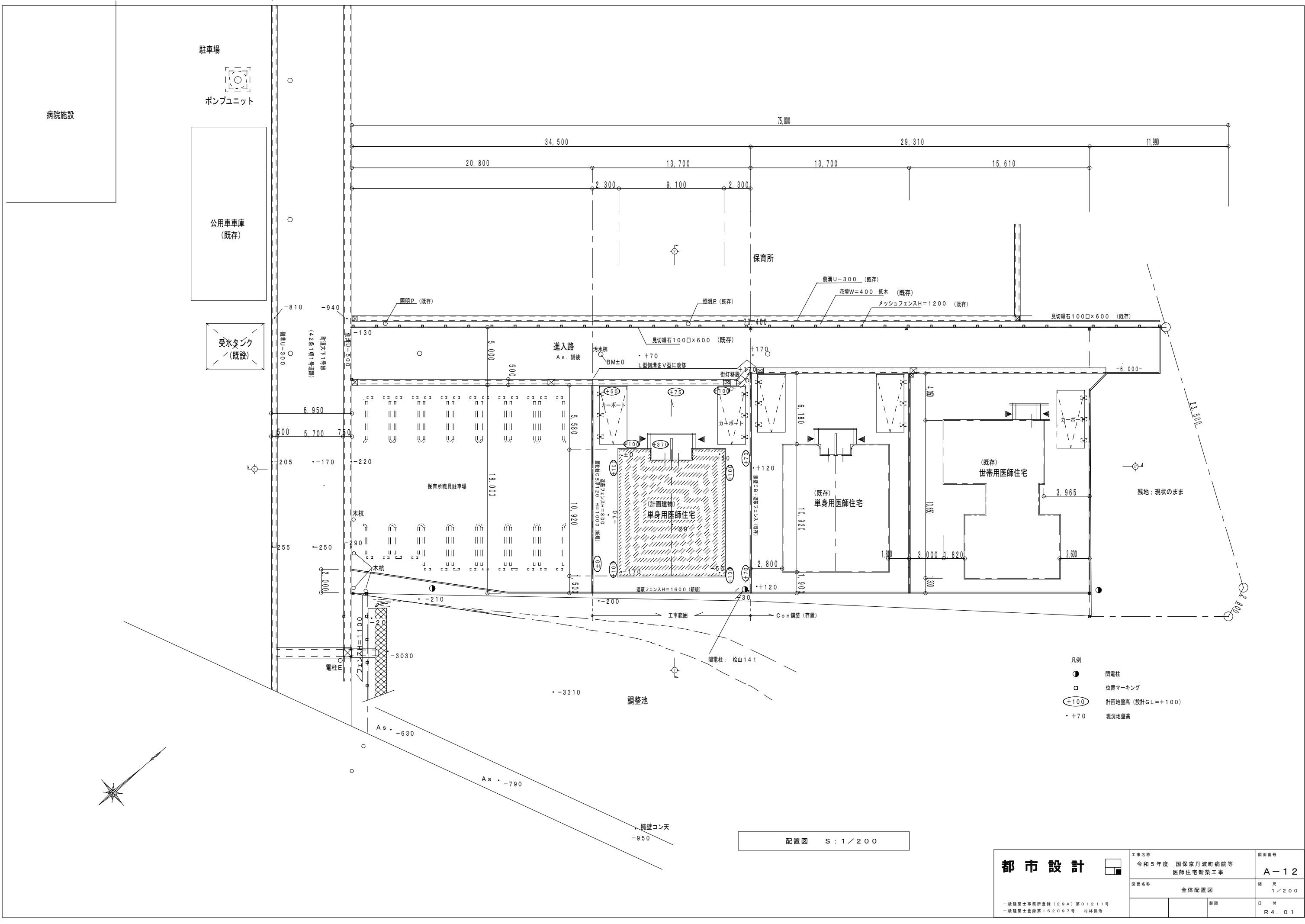


- 凡例
- 交通誘導員
  - フェンスバリアード
  - 計画地盤高 (設計GL=+100) +70 現況地盤高

工事期間中 大型車の出入りの多い日 は、一般車両及び歩行者等の安全確保の為交通誘導員を立てること。(延べ5人)

仮設計画図 S:1/200

都市設計	工事名称		図面番号
	令和5年度 国保京丹波町病院等		A-11
	医師住宅新築工事		
	図面名称		縮尺
仮設計画図		1/200	
日付		R4.01	
一級建築士事務所登録(29A)第01211号		製図	
一級建築士登録第152097号 村林俊治			

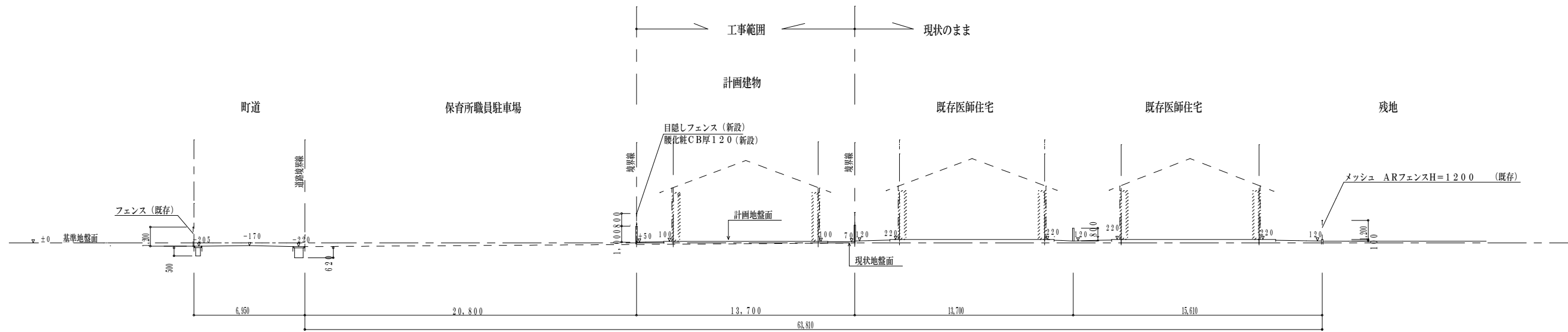


配置図 S : 1 / 200

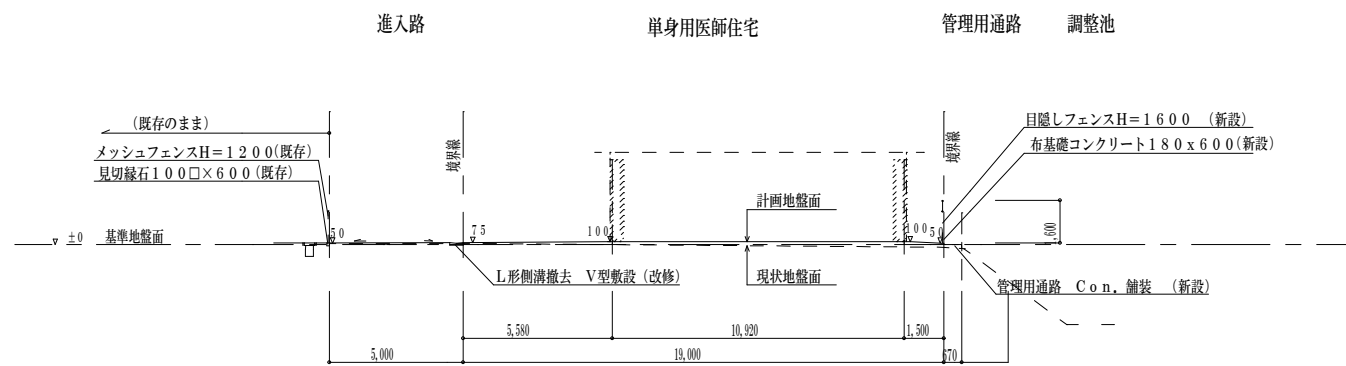
- 凡例
- 開電柱
  - 位置マーキング
  - ⊕100 計画地盤高 (設計GL=+100)
  - ・+70 現況地盤高

都市設計	工事名称		図面番号
	令和5年度 国保京丹波町病院等 医師住宅新築工事		A-12
	図面名称		縮尺 1/200
	全体配置図		日付 R4.01

一級建築士事務所登録 (29A) 第01211号  
一級建築士登録第152097号 村林俊治



X-X' 断面図 S:1/200



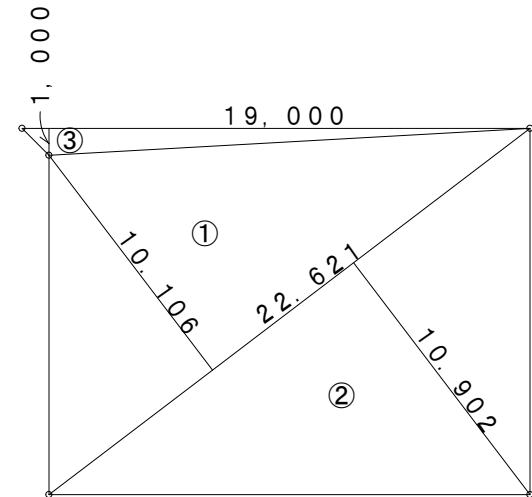
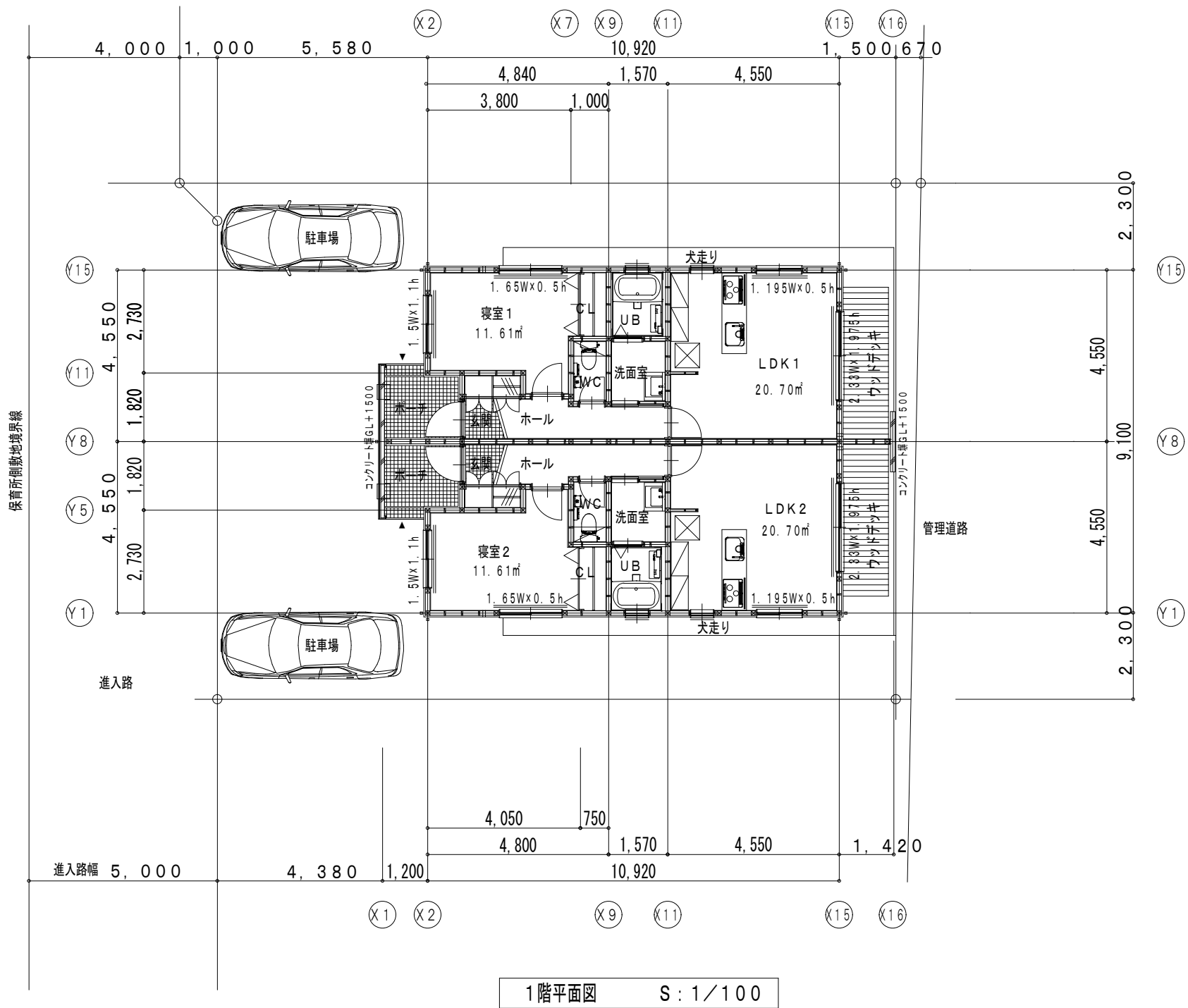
Y-Y' 断面図 S:1/200

都市設計

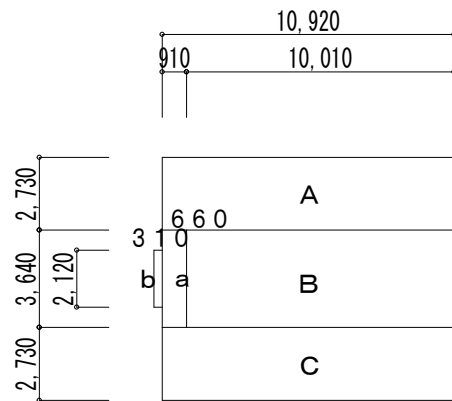


工事名称 令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事		図面番号 A-13
図面名称 敷地断面図		縮尺 1/200
設計 ET	日付 R5.3	

一級建築士事務所登録(20A)第01211号  
一級建築士登録第152097号 村林保治



敷地面積表	
①	$22.621 \times 10.106 \times 1/2 = 114.30391$
②	$23.621 \times 10.902 \times 1/2 = 123.30707$
③	$19.000 \times 1.000 \times 1/2 = 9.50000$
合計	247.11m <sup>2</sup>



建物面積表	
A	$10.92 \times 2.73 = 29.8116$
B	$10.01 \times 3.64 = 36.4364$
C	$10.92 \times 2.73 = 29.8116$
合計	96.0596
a	$0.66 \times 3.64 = 2.4024$
b	$0.31 \times 2.12 = 0.6696$
合計	$A+B+C+a+b = 99.13$
建築面積	99.13m <sup>2</sup> (29.98坪)
床面積	96.06m <sup>2</sup> (29.06坪)

都市設計



工事名称  
令和5年度  
国保京丹波町病院等医師住宅新築工事

図面番号  
A-14

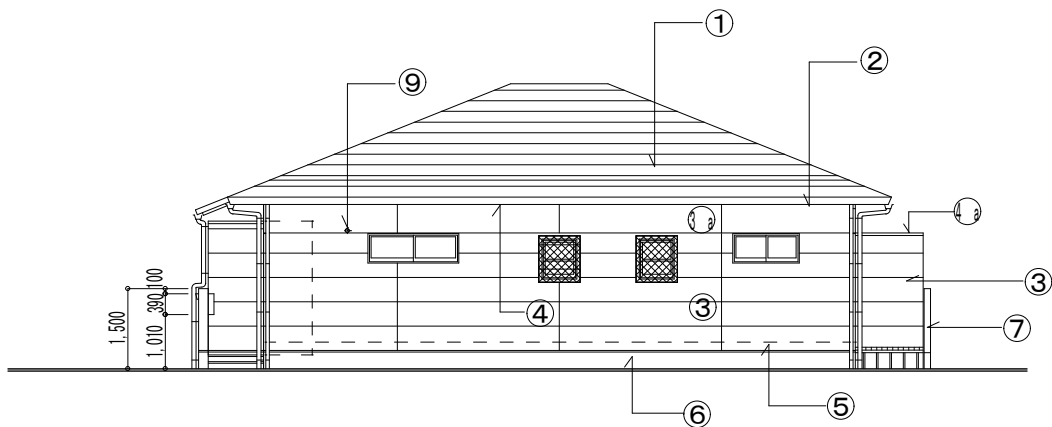
図面名称  
平面図・求積図・求積表

縮尺  
1/100・200

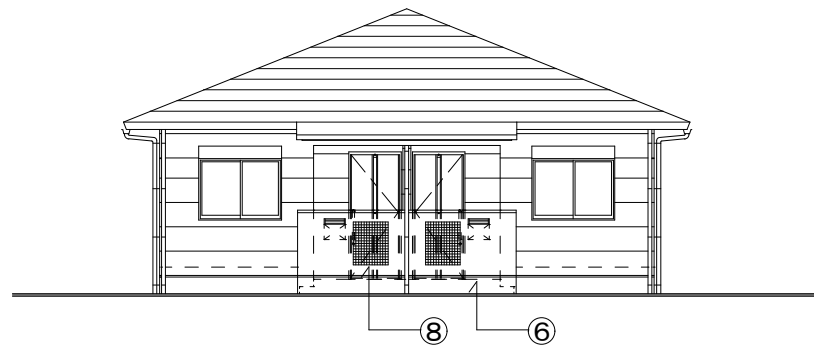
一級建築士事務所登録(29A)第01211号  
一級建築士登録第152097号 村林俊治

製図

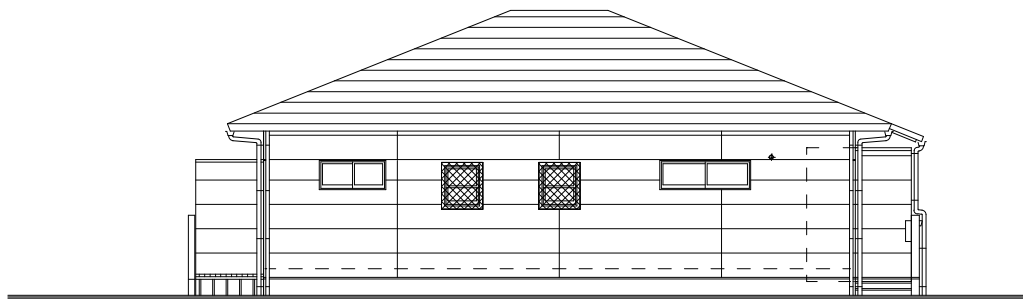
日付  
R5.3



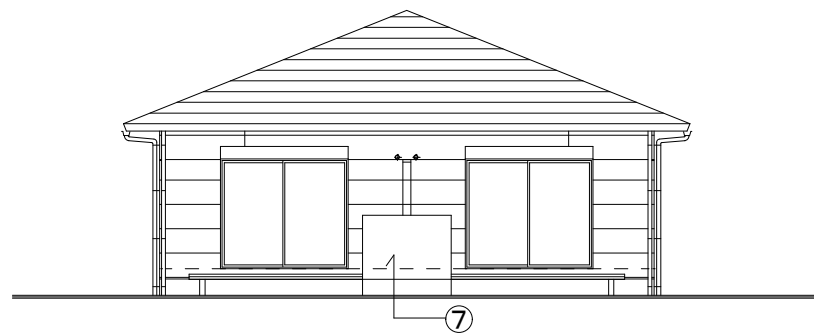
南面図 S: 1/100



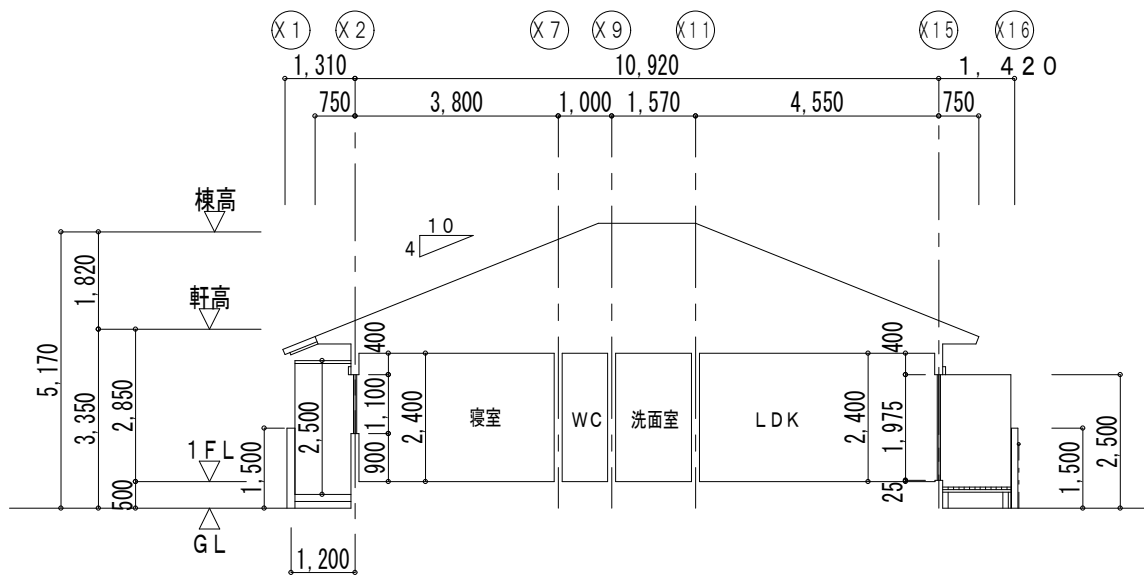
西面図 S: 1/100



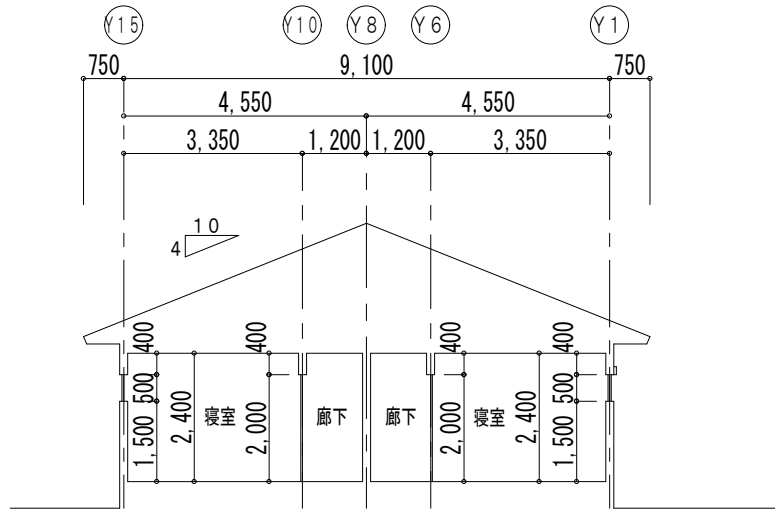
北面図 S: 1/100



東面図 S: 1/100



A-a断面図 S: 1/100



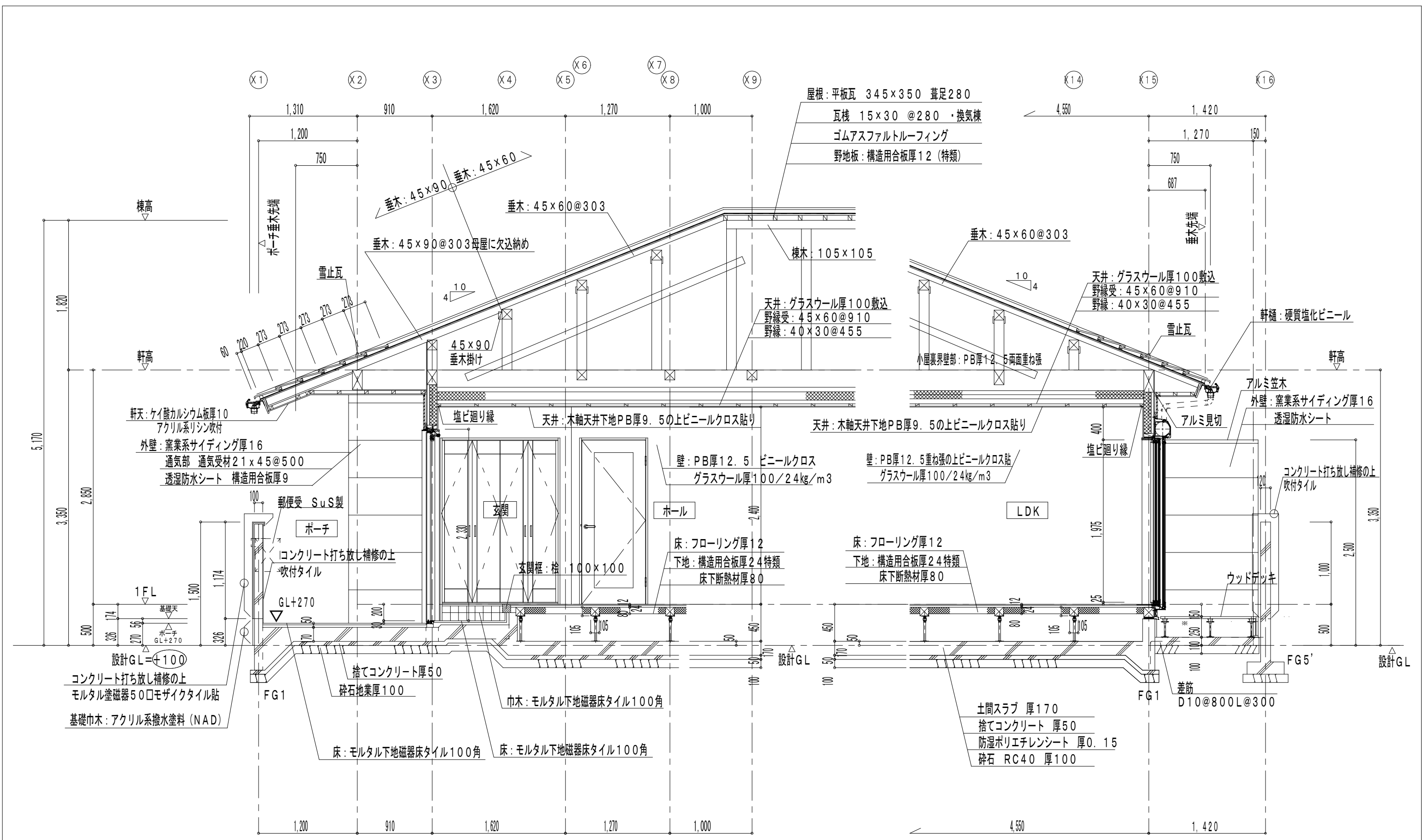
B-b断面図 S: 1/100

外部仕上表	
①	屋根：平板瓦葺 4寸勾配（スーパートライ110スマート同等）雪止瓦
②	軒樋：硬質塩化ビニール製・落葉除けメッシュ
③	外壁：窯業系サイディング厚16 16×455×3030 ヨコ張
④	外壁：窯業系サイディング厚16 16×455×3030 ヨコ張
⑤	アルミ見切縁（軒天・壁際）
⑥	アルミ笠木
⑦	アルミ通気土台
⑧	コンクリート打ち放し補修 アクリル樹脂系撥水塗料（NAD）
⑨	コンクリート打ち放し補修の上 吹付タイル
⑩	コンクリート打ち放し補修の上 表側 磁器タイル100×50口張 内側 吹付タイル
⑪	クーラースリーブSU75 4ヶ処

都市設計

工事名称 令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事	図面番号 A-15
図面名称 立面図・断面図	縮尺 1/100
製図 日付 R5.3	

一級建築士事務所登録（29A）第01211号  
一級建築士登録第152097号 村林俊治

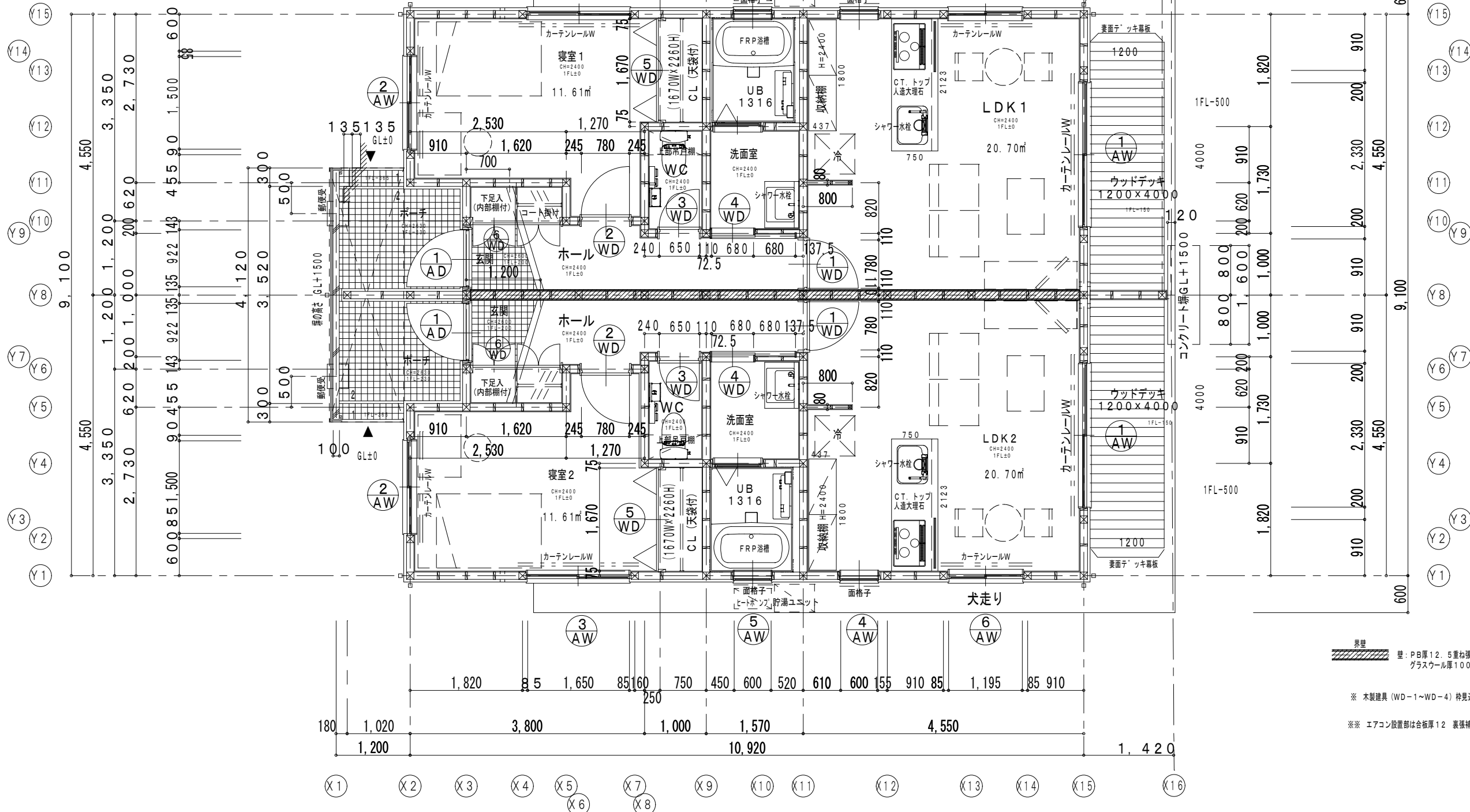


※ 設計GL=B. M+100とする

矩計図 S: 1/30

矩計図 S: 1/30

都市設計	工事名称	令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事	図面番号	A-16
	図面名称	矩計図	縮尺	1/30
	設計者	一般建築士事務所 森田 孝一	日付	R5.3
	監理者	一般建築士事務所 森田 孝一		

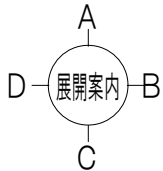



界壁  
壁：PB厚12.5重ね張（屋根裏まで）の上ビニールクロス貼  
ガラスウール厚100/24kg/m3を示す

※ 木製建具（WD-1～WD-4）枠見込み155、取付壁部は壁厚130（仕上共）とする。

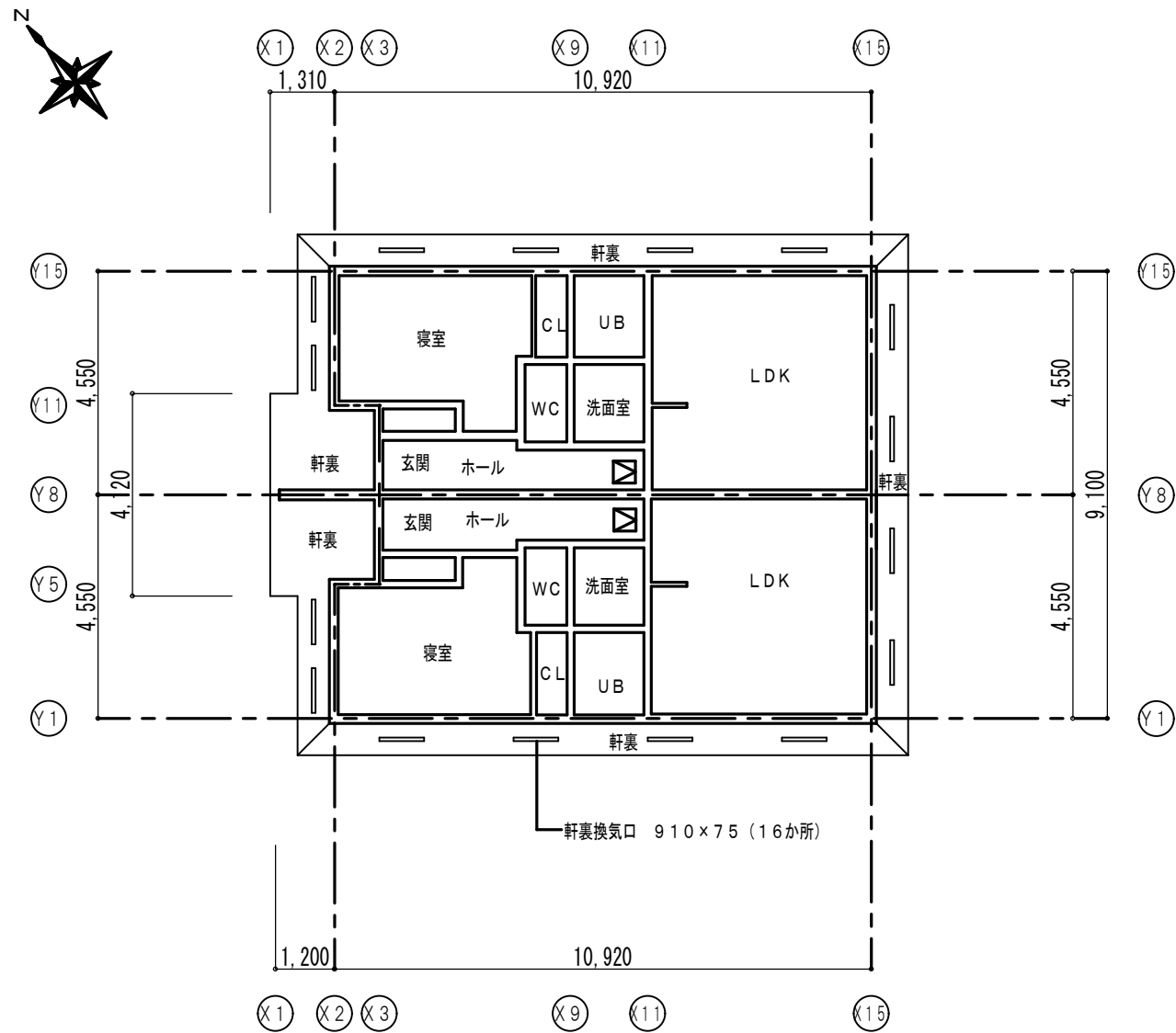
※※ エアコン設置部は合板厚12 裏張補強を施すこと。

1階平面詳細図 S: 1/50

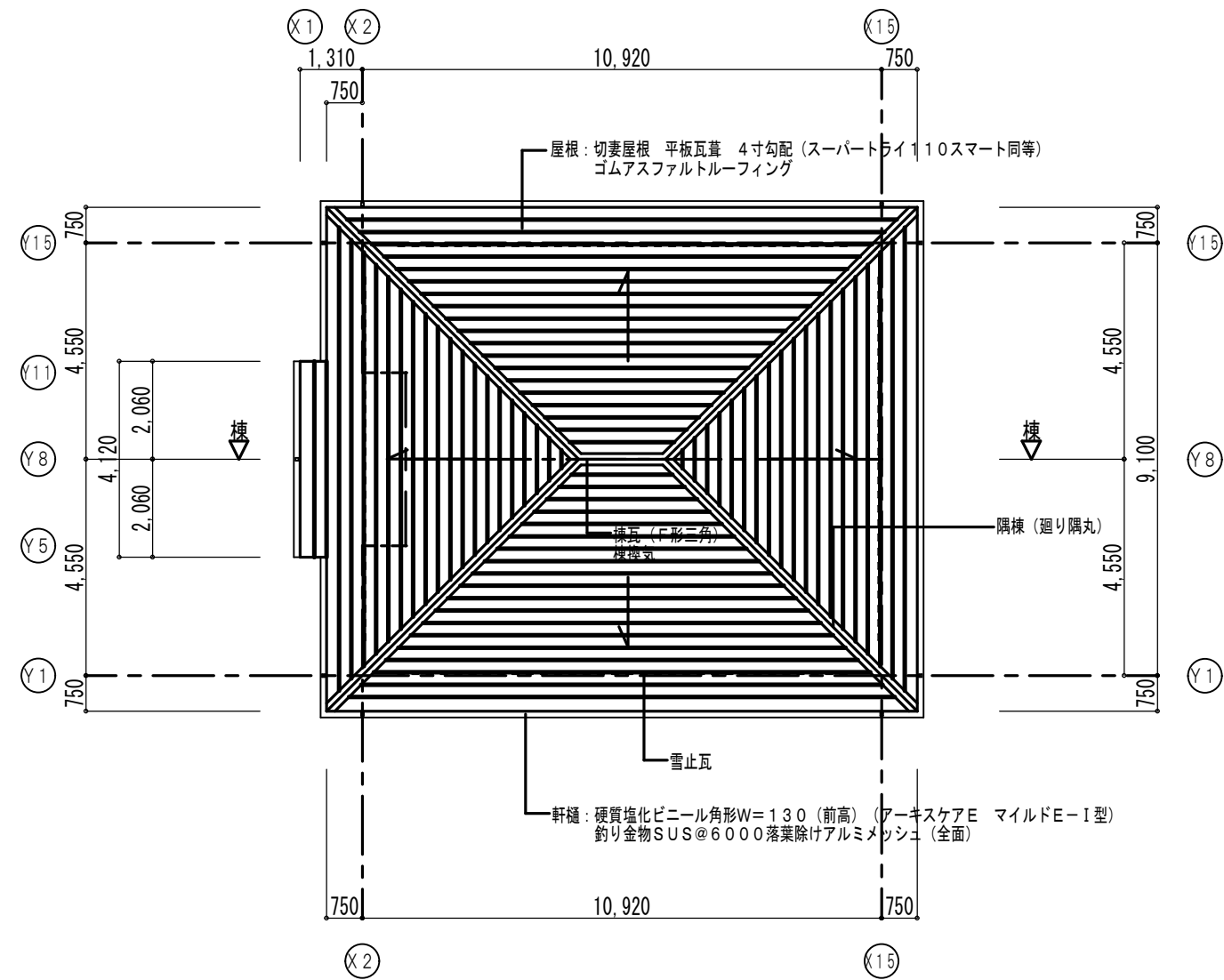


都市設計		工事名称		図面番号	
		令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事		A-17	
		図面名称		縮尺	
		平面詳細図		1/50	
				日付	
一級建築士事務所登録（29A）第01211号 一級建築士登録第152097号 村林俊治		製図	R5.3		





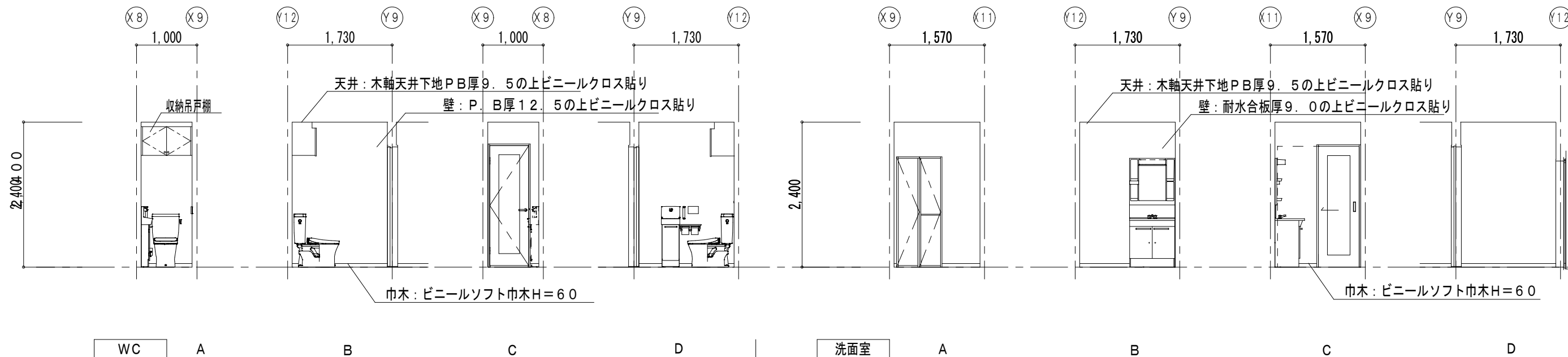
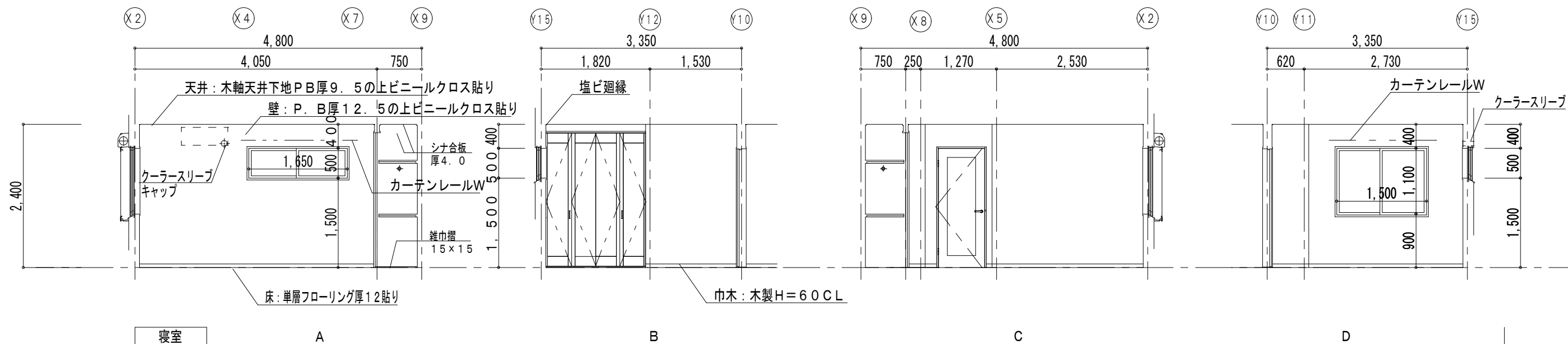
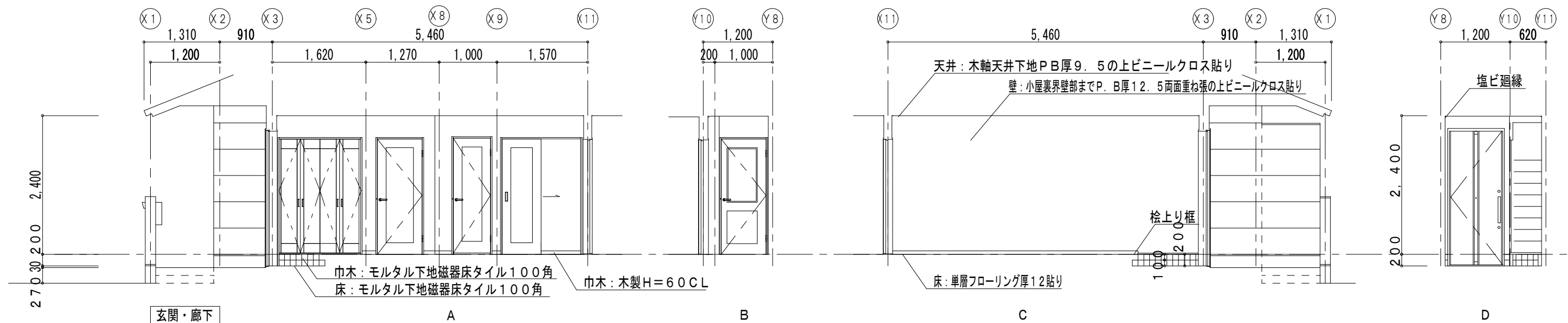
天井伏図 S : 1/100



屋根伏図 S : 1/100

室名	天井仕上材	室名	天井仕上材
軒裏	ケイ酸カルシウム板 厚10 アクリル系リシン吹付 (下地調整塗共)	洗面所	木軸天井下地PB厚9.5 ビニールクロス貼り
		UB	バスパネル
玄関・ホール	木軸天井下地PB厚9.5 ビニールクロス貼り	WC	木軸天井下地PB厚9.5 ビニールクロス貼り
L. D. K	同上	寝室	同上
廊下	同上	寝室CL	シナベニア 厚4.0

☒ 天井点検口化粧枠450□ ビニールクロス貼り



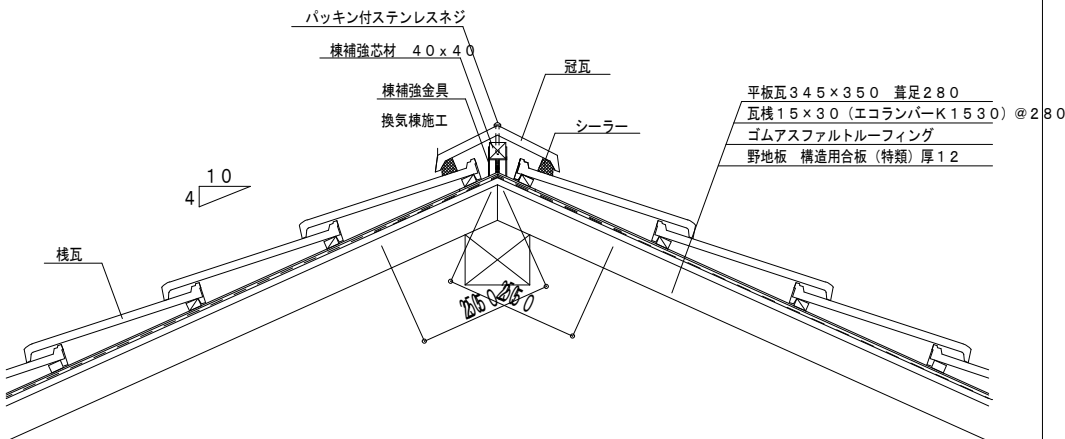
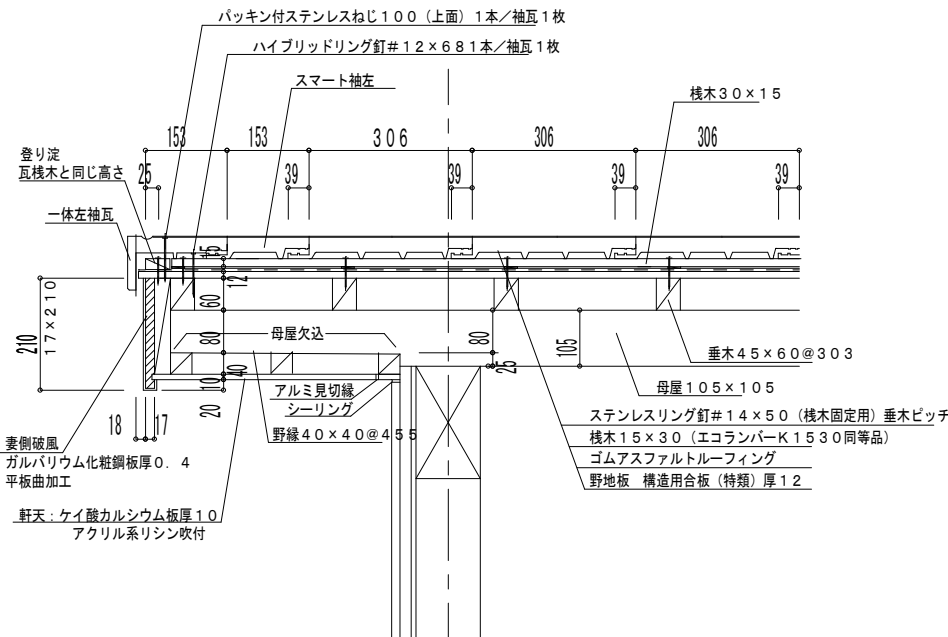
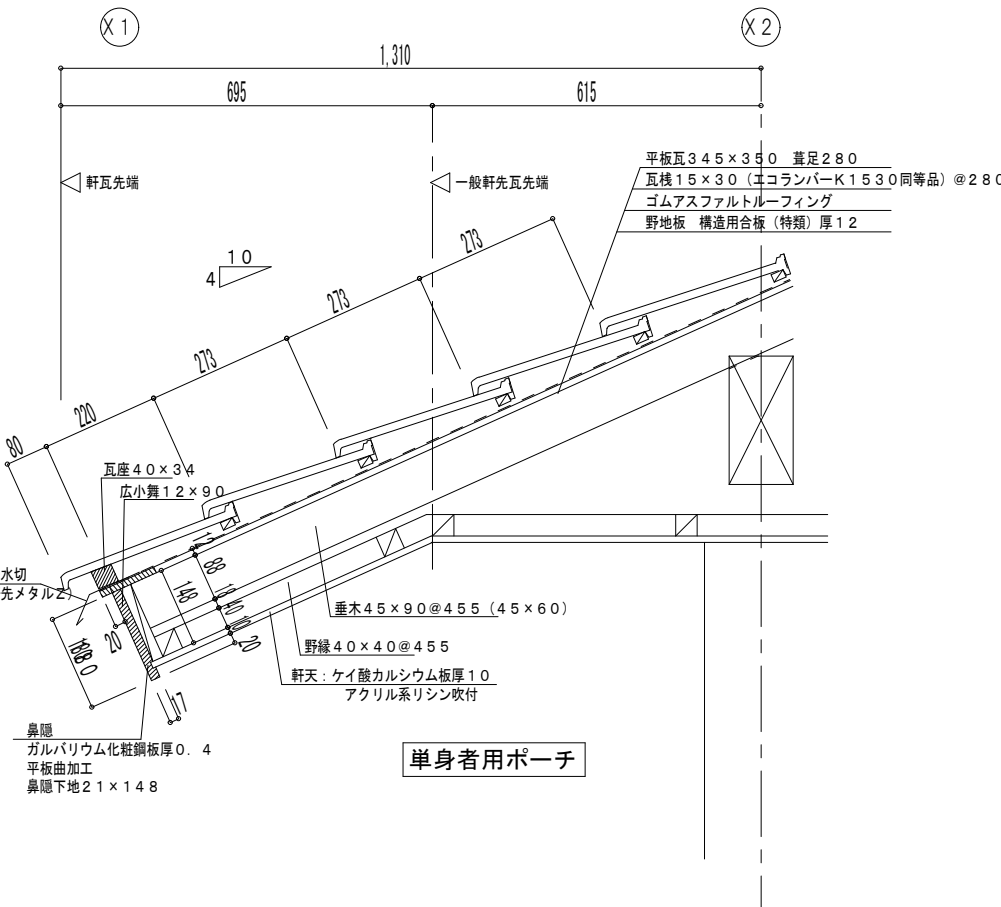
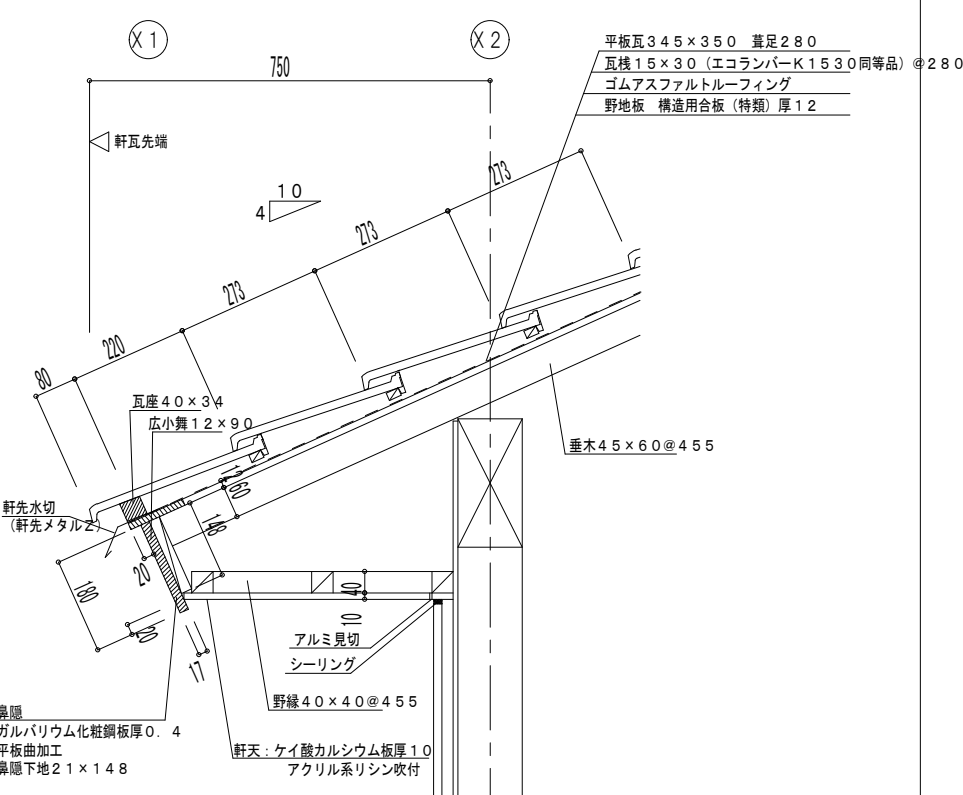
※ エアコン設置想定部 [ ] は合板厚12 裏張補強を施すこと。  
※ カーテンレール引寸法は開口両側それぞれ150とする。

都市設計	工事名称		図面番号
	令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事		A-19
	図面名称		縮尺
	展開図 1		1/50
一級建築士事務所登録(29A)第01211号 一級建築士登録第152097号 村林俊治		製図	日付
			R5.3

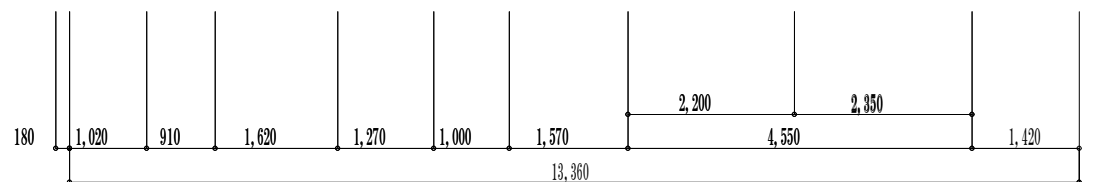
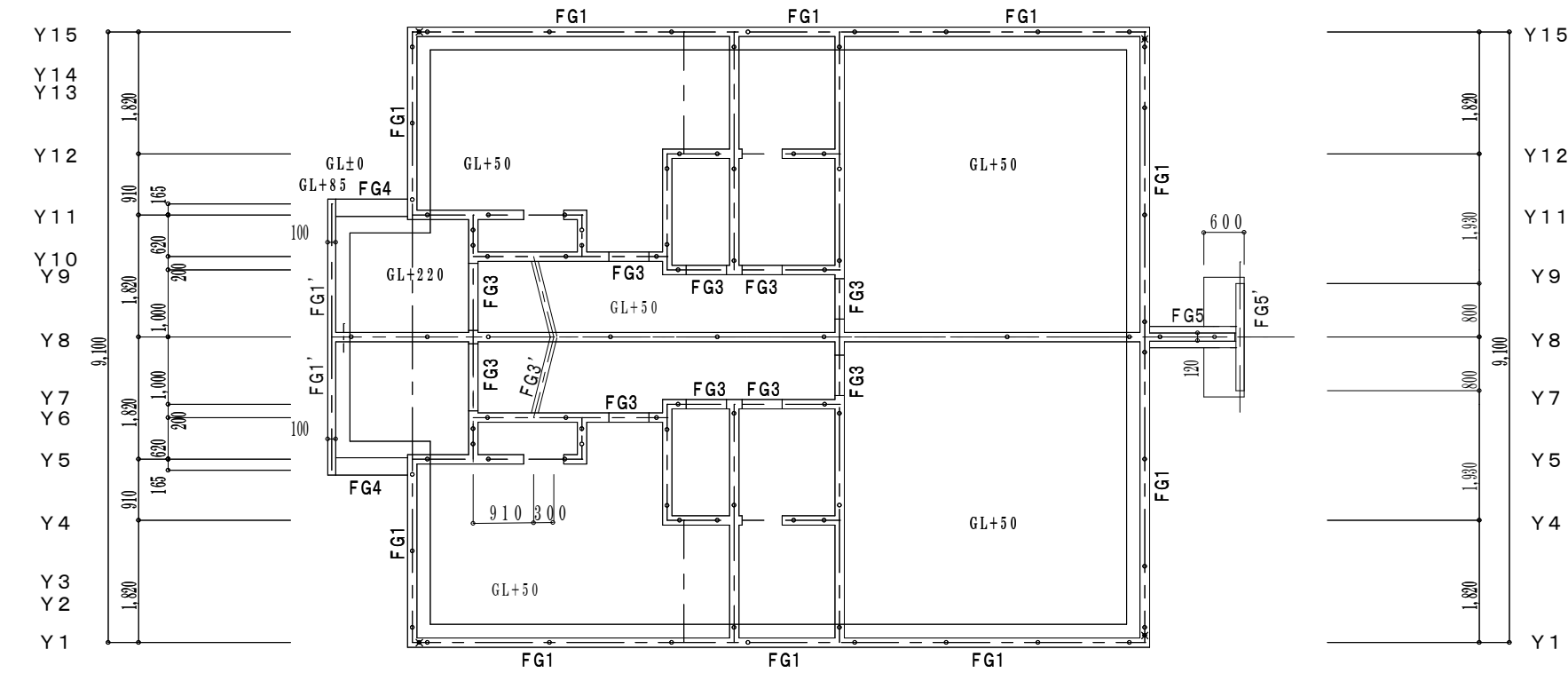
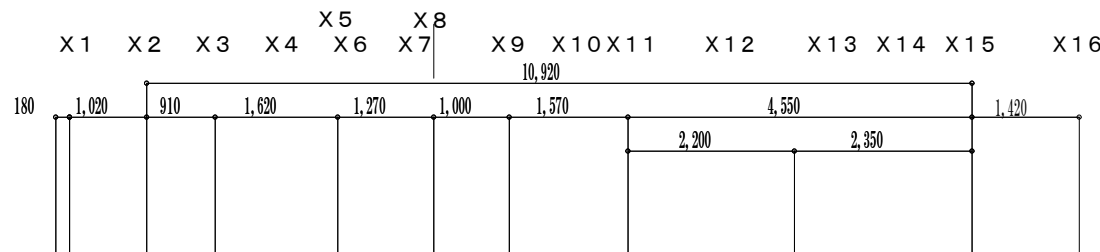
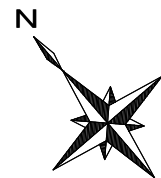
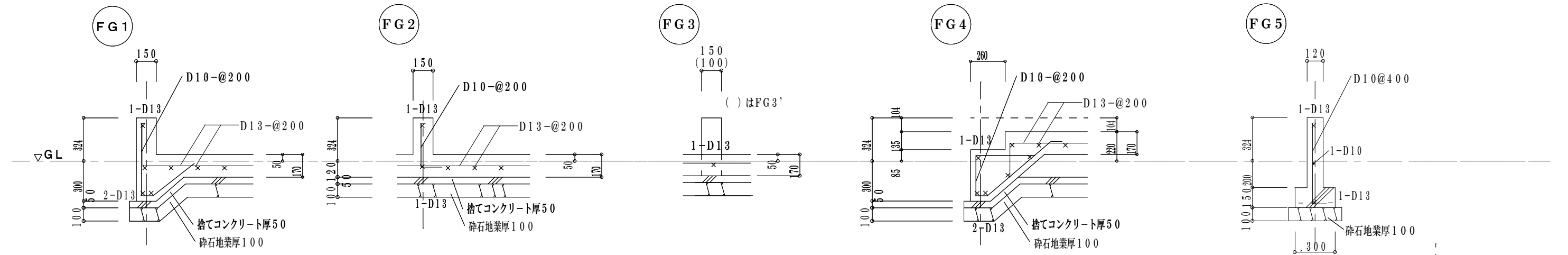




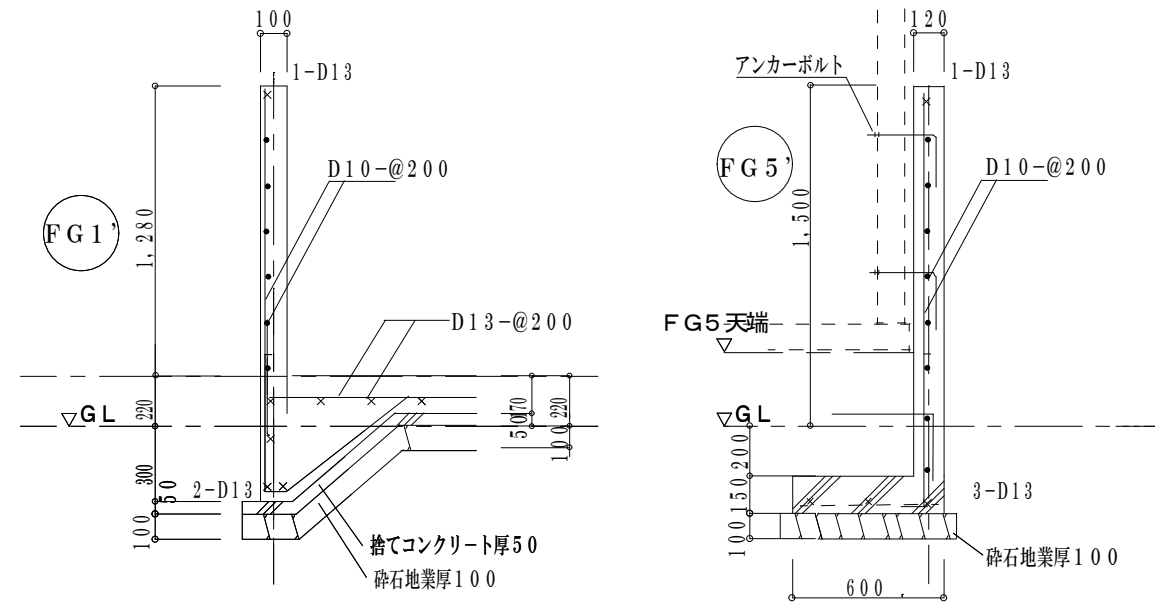


9	棟納まり図	S = 1 / 1 0	1 0	袖瓦（けらば左）	S = 1 / 1 0															
 <p>棟部分のルーフィングは、両方向へそれぞれ250mm以上重ね合わせること。 隅棟部分のルーフィングは、重ね貼りの上に両方向へそれぞれ250mm以上増し貼りをすること。</p>																				
1 1	軒先納まり図 1	S = 1 / 1 0	1 2	軒先納まり図 2	S = 1 / 1 0															
						<table><tr><td colspan="2">都市設計</td><td>工事名称 令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事</td><td>図面番号 A-23</td></tr><tr><td colspan="2">図面名称 部分詳細図 2</td><td>縮尺 1/10</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">一級建築士事務所登録(29A)第01211号 一級建築士登録第152097号 杉林俊治</td><td>製図</td><td>日付 R5.3</td></tr></table>			都市設計		工事名称 令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事	図面番号 A-23	図面名称 部分詳細図 2		縮尺 1/10		一級建築士事務所登録(29A)第01211号 一級建築士登録第152097号 杉林俊治		製図	日付 R5.3
都市設計		工事名称 令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事	図面番号 A-23																	
図面名称 部分詳細図 2		縮尺 1/10																		
一級建築士事務所登録(29A)第01211号 一級建築士登録第152097号 杉林俊治		製図	日付 R5.3																	

基礎詳細図 1 : 30



基礎伏図 S : 1 / 100



構造概要

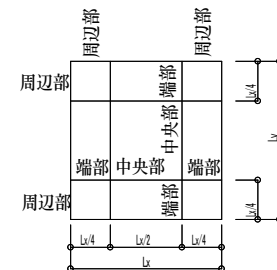
基礎	ベタ基礎
スウェーデン式サウンディング法により 支持地盤を確認済	
コンクリート	FC21-18-20 (下記以外) FC18-15-20 (捨てコンクリート)
鉄筋	SD295A (規格品)

特記なきは下記による

- × : アンカーボルト (A-60)
- : アンカーボルト (A-40) @2000以内  
FG2 FS1 とする。

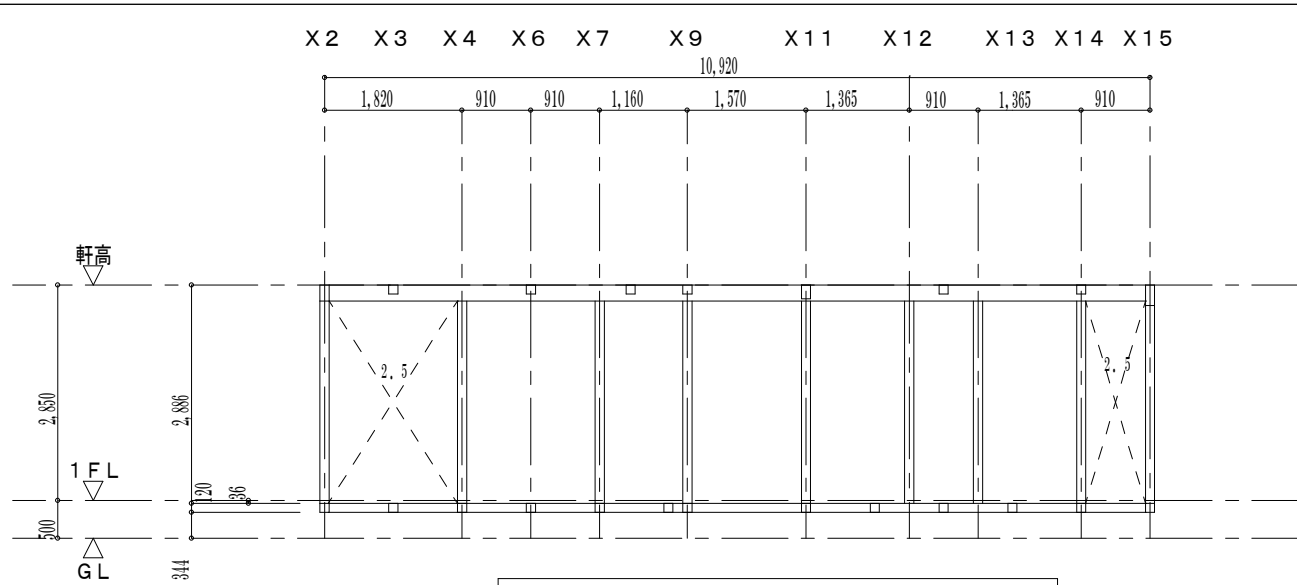
符号		端部	中央部	周辺部	版厚
FS1	短辺	D13-@200	D13-@200	D13-@200	170
	長辺	D13-@200	D13-@200	D13-@200	

鉄筋は、シングル配筋とする。  
スラブ筋の梁への定着長さは35dとする。  
スラブ下面、ポリエチレン防湿シート厚0.15敷込とする。

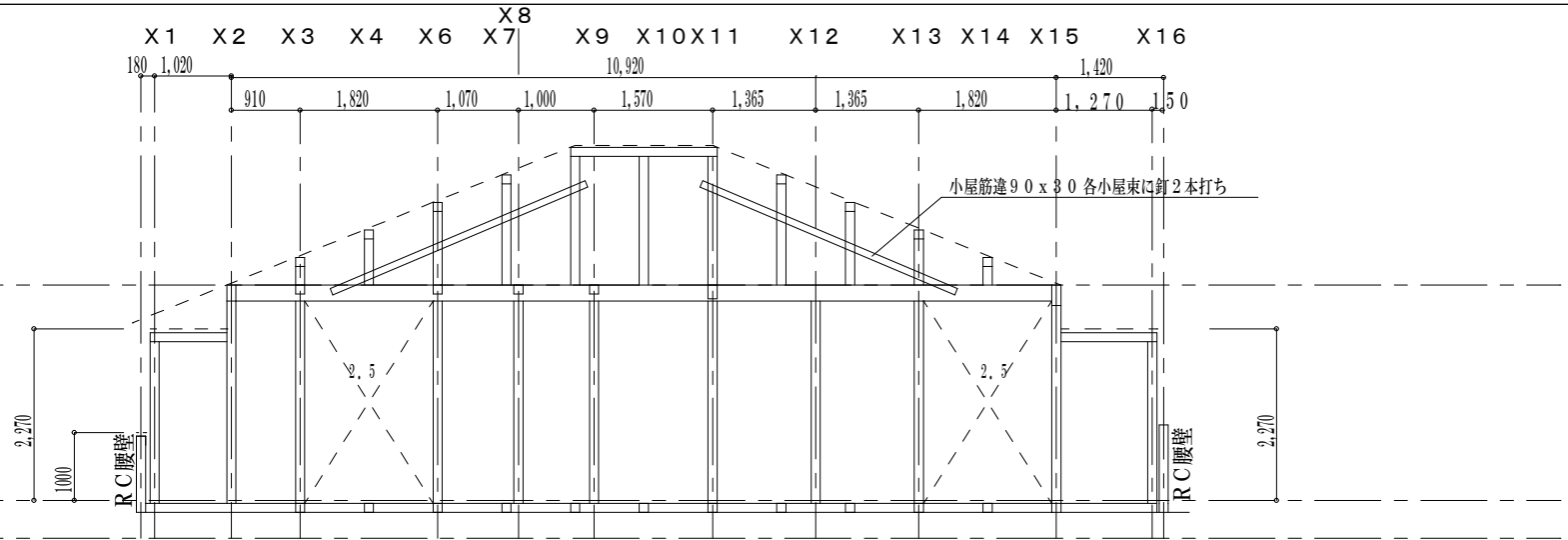


都市設計	工事名称	令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事	図面番号	A-24
	図面名称	基礎伏図	縮尺 (A-3)	1/100
	製図	ET	日付	R5.3

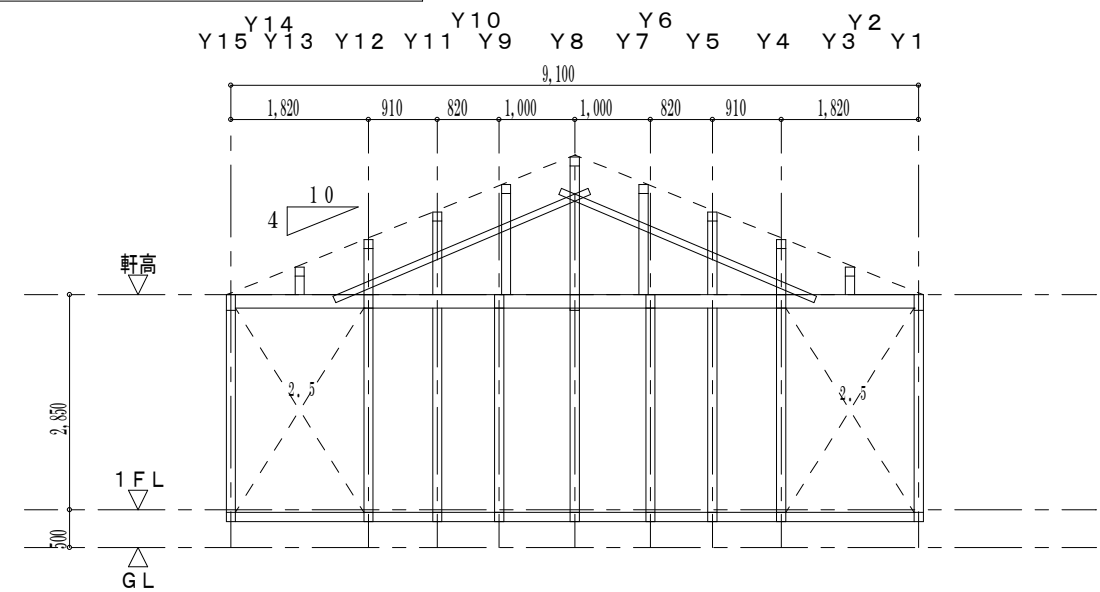




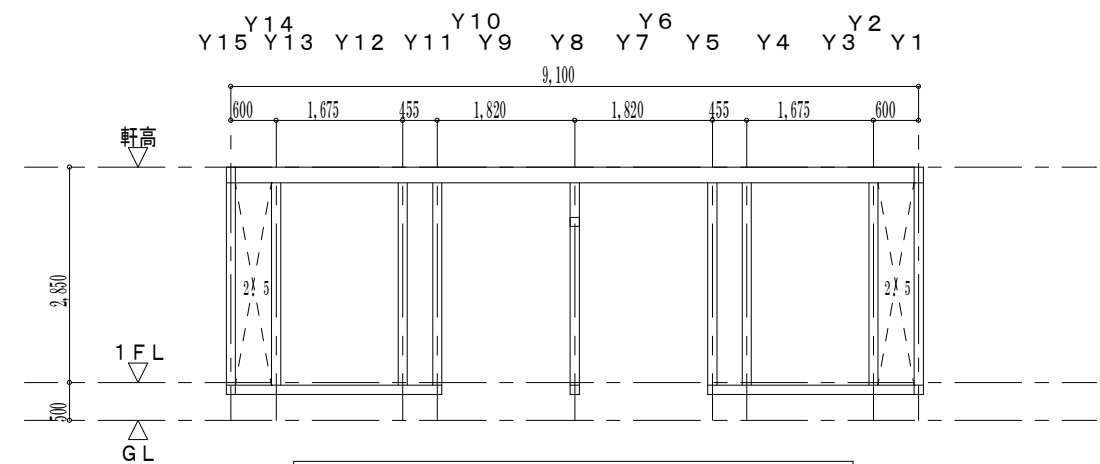
Y 15通軸組図 S : 1／100



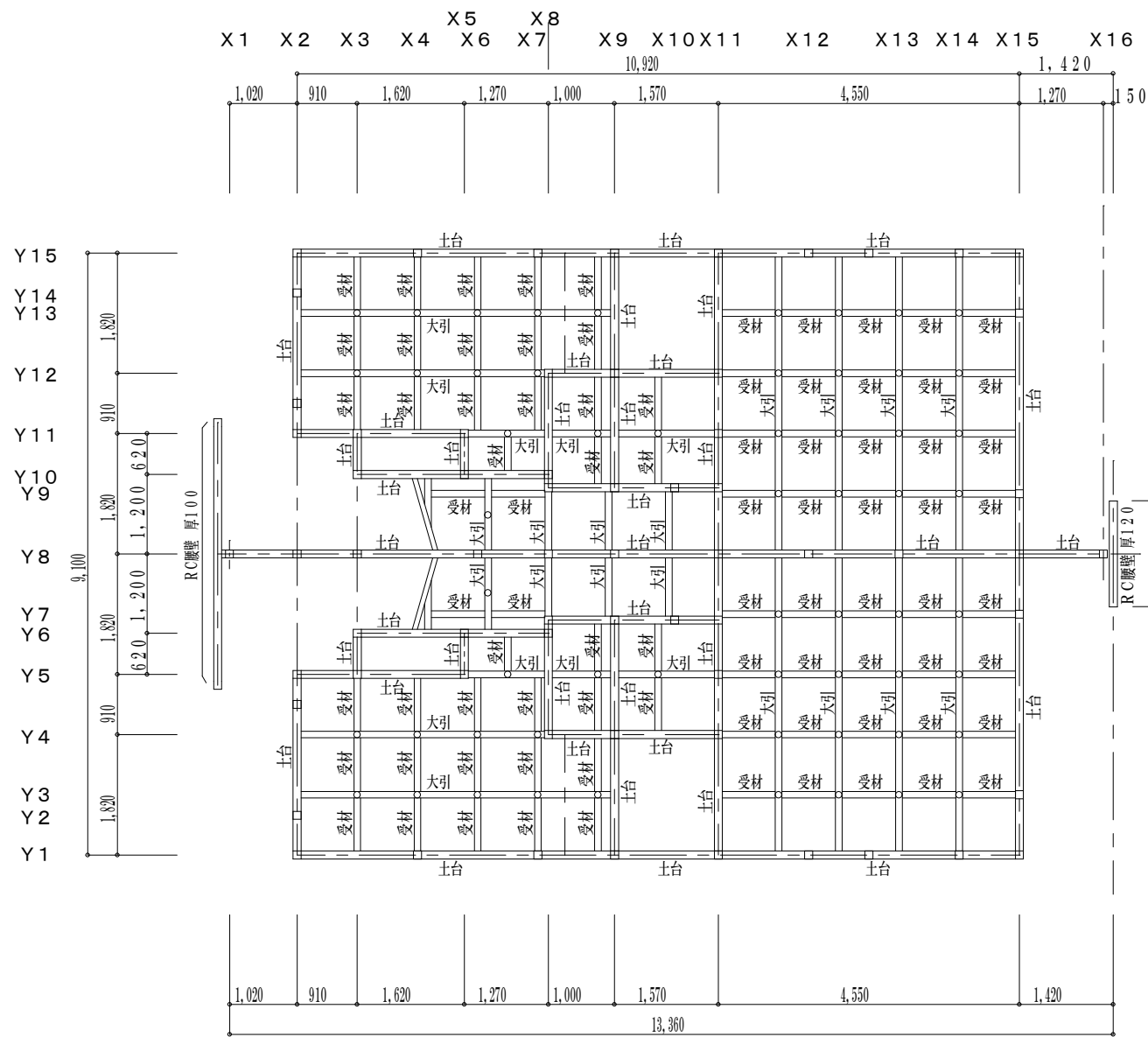
Y 8通軸組図 S : 1／100



X 11通軸組図 S : 1／100



X 2通軸組図 S : 1／100



床伏図 S : 1／100

特記なきは下記による

- 受材 105 x 105 @ 910
- 大引 105 x 105
- 土台 120 x 120

凡 例

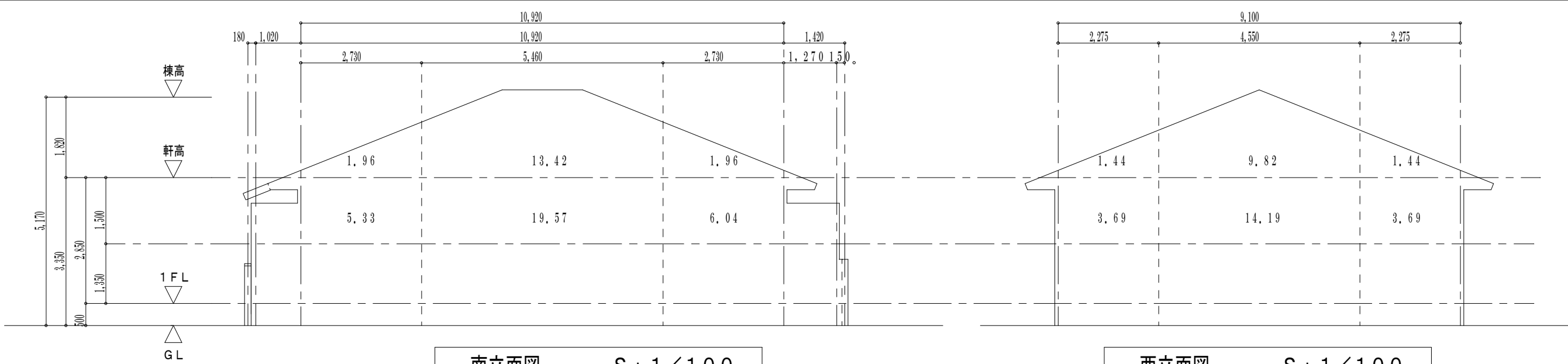
- 柱を示す。 120 x 120
- — 鋼製製束フラットタイプを示す。

都 市 設 計



一級建築士事務所登録（29A）第01211号  
一級建築士登録第152097号 村林俊治

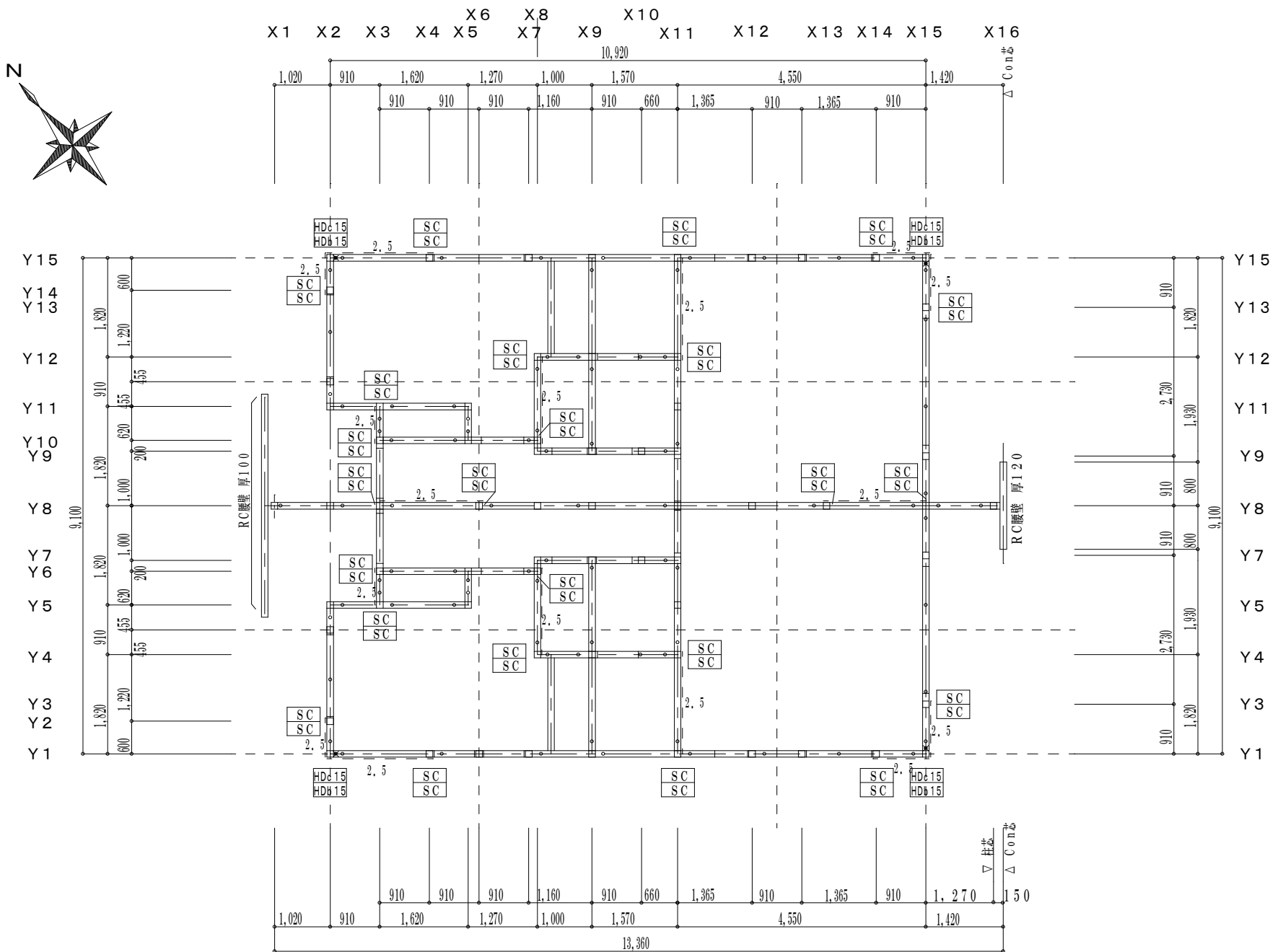
工事名称 令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事			図面番号 <b>A-25</b>
図面名称 床伏図 軸組図			縮 尺 (A-3) 1／100
		製図 ET	日 付 R 5 . 3



南立面図 S : 1 / 100

西立面図 S : 1 / 100

建築基準法施行令第46条による面積

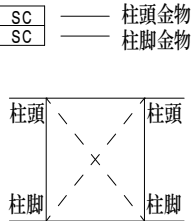


耐力壁金物伏図 S : 1 / 100

特記なきは下記による  
。 : アンカーボルトM-12 (A-40) @2000以内

アンカーボルトの埋め込み長さの検討  
SD295A  $F_c=21$  短期付着  $f_a=2.1$   
アンカーボルトM-16 (A-60) 周長=16x3.14=50.24  
 $15KN / (50.24 \times 0.0021) = 142.17 \rightarrow 15cm$  以上埋め込み必要  
(27.4cmの埋め込みとする)

凡 例		
使用欄	壁倍率	仕様
×	2	筋違い90x45を示す。
×	4	(ダブル)
×	5	90x45 たすき掛け+構造用合板厚9片面 釘N50 @150
×	5	構造用合板 厚9 両面張り 釘N50 @150
○	2.5	構造用合板 (特類) 厚9 片面張り 釘N50 @150



告示記号	略符号	要耐力 KN	金物等	略符号	(株式会社 タナカ) (メーカー商品名)	略符号	(株式会社 カナイ) (メーカー商品名)
ろ	CR-L	3.4	L字形かど金物釘CN65x5本	SC	スモールコーナー		ミニビルトコーナー
は	VP	5.1	山形プレート金物釘CN90x8本 又はT字形かど金物釘CN65x5本	CC	コンパクトコーナー		
				SP	スリムプレート TB65 8本		
へ	HD10	10	10KN用引き寄せ金物	HDc10	ホールダウンコーナー 又は シナコーナー		
と	HD15	15	15KN用引き寄せ金物	HDc15	オメガコーナー15KN用	HDb15	プレイグホールダウンB-HD15
ち	HD20	20	20KN用引き寄せ金物	HDc20	オメガコーナー20KN用	HDb20	プレイグホールダウンB-HD20
り	HD25	25	25KN用引き寄せ金物			HDb25	プレイグホールダウンB-HD25
ぬ		30				HDb30	プレイグホールダウンB-HD30
		35		HDU35	ビス止めホールダウンU35		

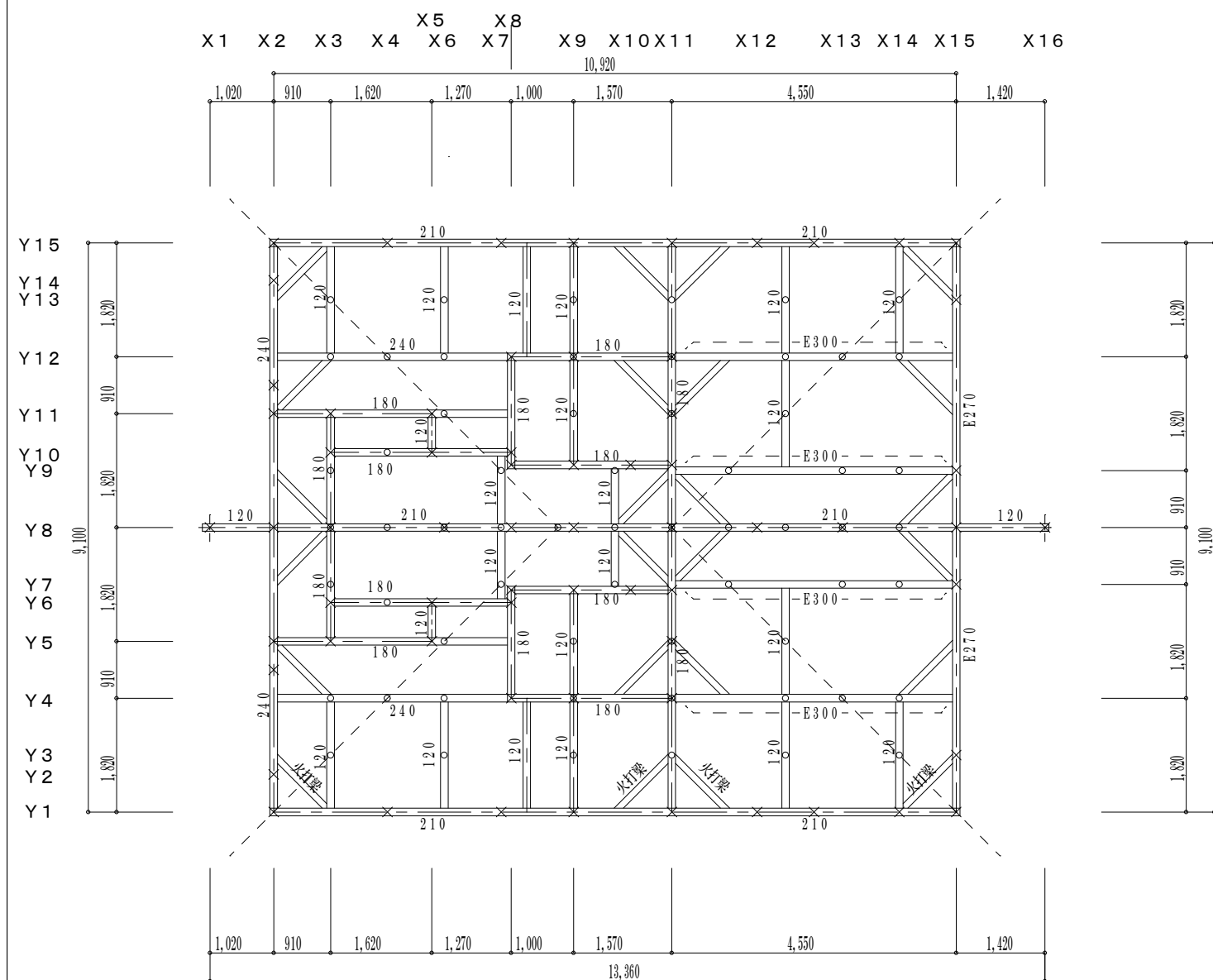
納まりに依り同等の金物使用

都 市 設 計



工事名称		図面番号	
令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事		A-26	
図面名称		縮 尺 (A-3)	
耐 力 壁 金 物 伏 図		1 / 100	
製 図		日 付	
ET		R5.3	

一級建築士事務所登録(29A)第01211号  
一級建築士登録第152097号 村林俊治



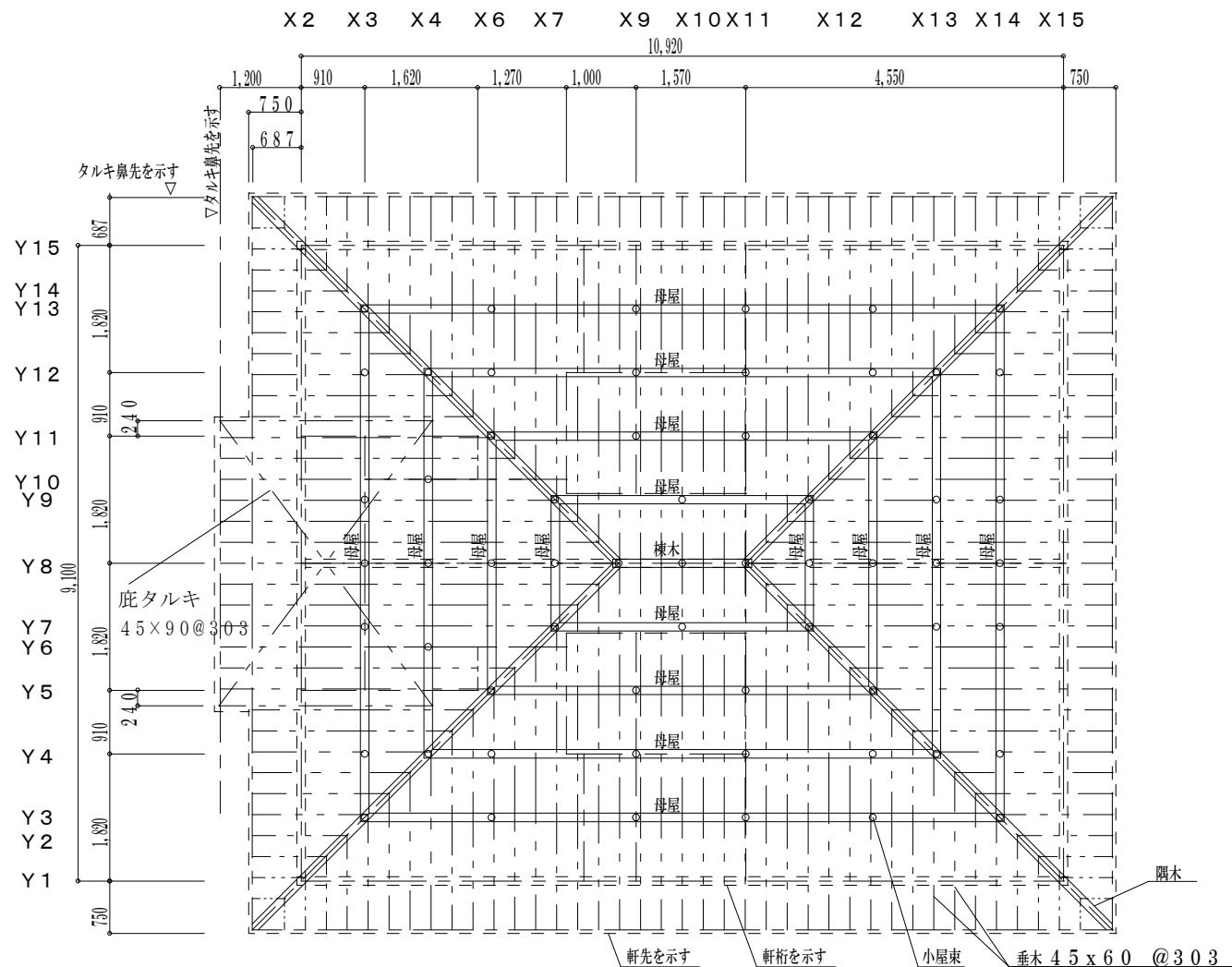
凡 例  
 — 梁下管柱を示す。

特記

小屋束は小屋筋違い、雲筋違いで結束する。  
地面より 1 m 以内は防腐、防蟻措置をする。

名称	材種	寸法	備考
棟木	杉	105 x 105	特1等
母屋	杉	105 x 105	特1等
小屋束	杉	105 x 105	特1等      カスガイ留め
隅木	杉	105 x 60	特1等
垂木	杉	45 x 60 @ 303 45 x 90 @ 303	特1等 母屋欠込納め（垂木天端揃え）
火打梁	杉	105 x 105	特1等
土台	桧	120 x 120	1等      腰掛蟻継
大引	杉	105 x 105	特1等
受材	杉	105 x 105 @ 910	特1等
管柱	杉	120 x 120	特1等
間柱	杉	30 x 120	特1等
間柱 面材耐力壁部	杉	45 x 120	特1等

(注) 構造耐力上使用する木材は節、腐れ、繊維の傾斜、丸身等耐力上欠点がない事。




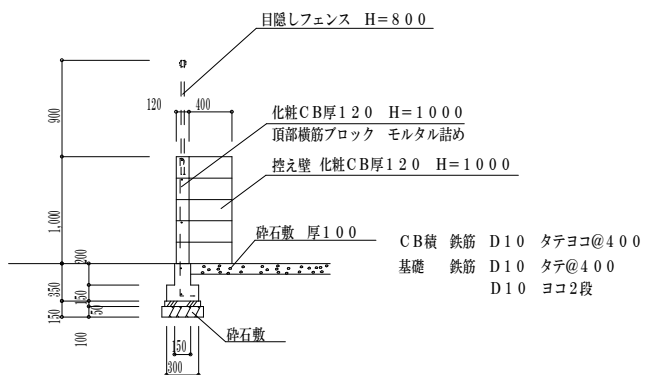
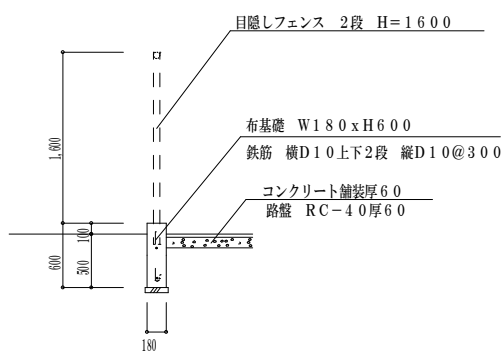
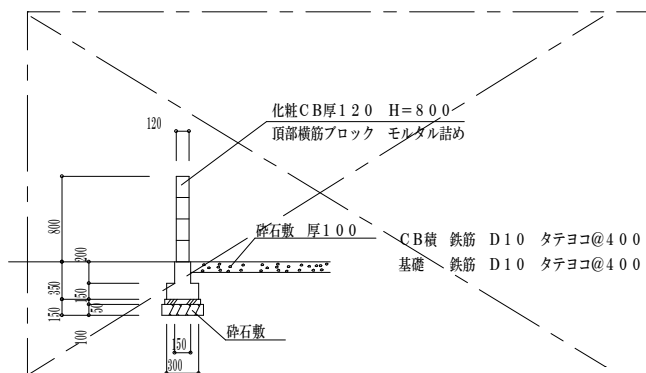
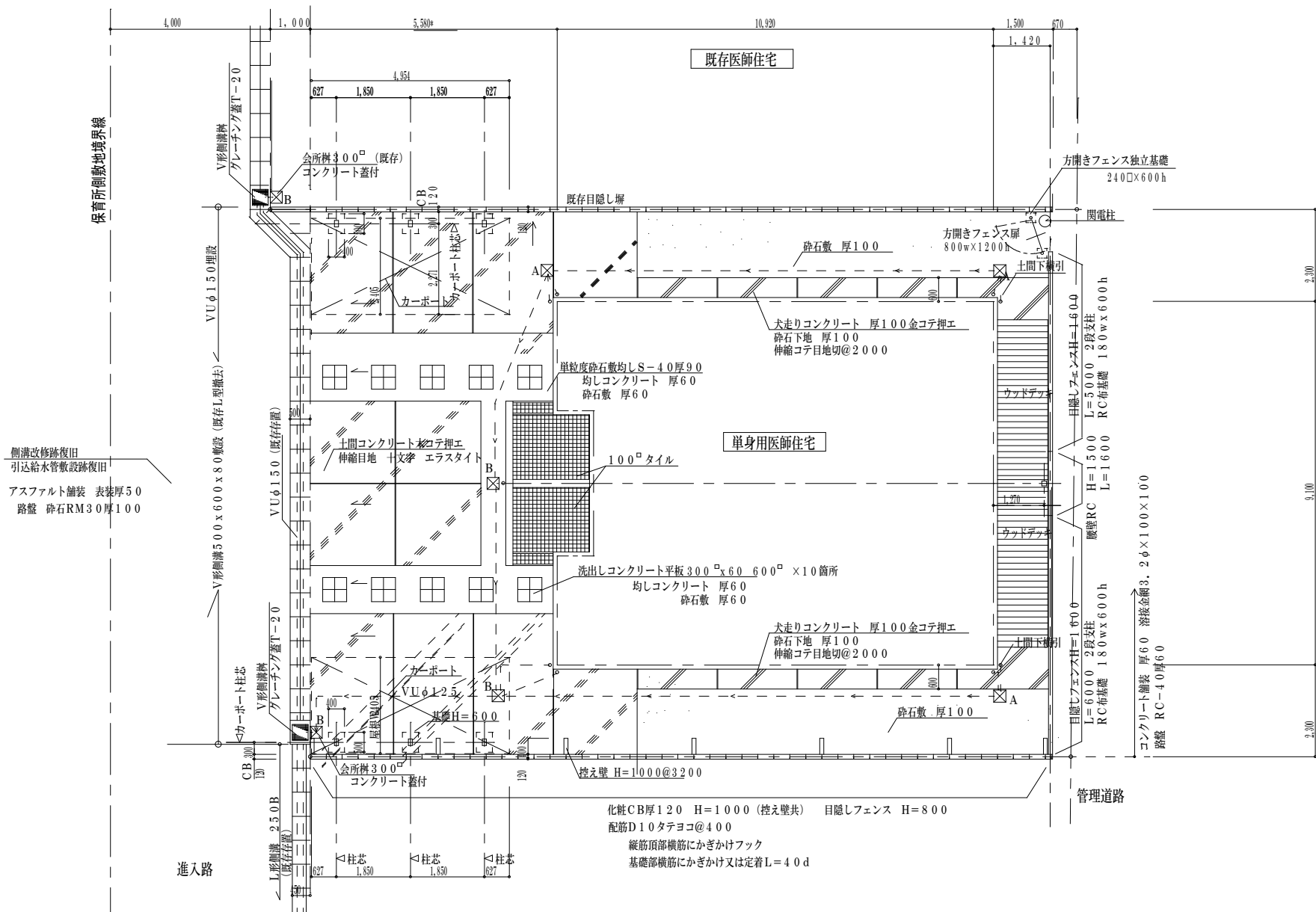
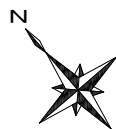
凡 例

㊦ — 小屋束を示す。ほぞ挿しの上カスガイにて上下2本ずつ留める。

勾配屋根水平構面	
面材の種類	厚さ12mmの構造用合板（特類）
面材釘打ち仕様	面材を鉄丸釘N50を用いて、@150間隔で垂木に打ち付け
垂木の仕様と間隔	幅45x成60の垂木を相互の間隔303mm以下で、 軒桁・母屋・棟木の上の勾配面に並列して設置

水平構面	
面材の種類	厚さ24mmの構造用合板（特類）
面材釘打ち仕様	面材四周を鉄丸釘N75を用いて、@150間隔で 梁組及び合板継目部分の受け材に対し打ち付け
受材の仕様と間隔	幅105x成105mm以上の受材を面材の継目に沿って土台、大引の間に落とし込み 大引、及び受材の間隔910mm以下

<div>都市設計</div> <div>  </div> <div>           一級建築士事務所登録（29A）第01211号            一級建築士登録第152097号 村林俊治         </div>	<div>工事名称</div> <div>令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事</div>		<div>図面番号</div> <div>A-27</div>
	<div>図面名称</div> <div>梁伏図 小屋伏図</div>		<div>縮尺（A-3）</div> <div>1/100</div>
		<div>製図</div> <div>ET</div>	<div>日付</div> <div>R5.3</div>



塀回り詳細図 S:1/50

- 凡 例
- — 雨水堅樋の位置を示す  
堅樋会所までの土間下横引きはVUφ65とする
  - ☒ A — 雨水排水会所2400 コンクリート蓋付を示す
  - ☒ B — 雨水排水会所3000 コンクリート蓋付を示す
  - - - 雨水排水VUφ100埋設を示す

都市設計



工事名称  
令和5年度  
国保京丹波町立病院等医師住宅新築工事

図面番号  
A-28

図面名称  
外構平面図

縮 尺  
1/100・50

日 付  
R5.3

一級建築士事務所登録(20A)第01211号  
一級建築士登録第152097号 村林俊治

製図  
ET

1	土間コンクリート舗装	S=1/10	3	コンクリート平板舗装	S=1/10	4	L形側溝	S=1/10	6	V形側溝	S=1/10
(カーポート・犬走り) 			(アプローチ) 			(既存撤去) 			(L型撤去跡V型敷設) 		
2	管理用通路コンクリート舗装	S=1/10	<del>見切縁石</del> <del>S=1/10</del> <del> </del>			5 進入路アスファルト舗装 S=1/10 (給水引込・V型側溝敷設跡舗装復旧) 			<del> </del>		
7	雨水排水会所 (A種・B種)	S=1/10	<del>U形側溝180</del> <del>S=1/10</del> <del> </del>			8 L形側溝柵 S=1/10 			9 V形側溝柵 S=1/10 		
			<del> </del>			<del> </del>			<del> </del>		

	a	b	c	d	f	g	h	t
A種	240	52	75	24	04	04	45	35
B種	300	42	03	35	03	04	25	40

電気設備工事特記仕様書 No. 1

【工事概要】

- 1 工事場所 京都府船井郡京丹波町和田地内
- 2 建物概要

建物名	構造	階数	延床面積（㎡）	消防法令別表第一	耐震安全性の分類	備考
単身用医師住宅	木造	1	96.06		○甲 ●乙 ○甲 ○乙 ○甲 ○乙 ○甲 ○乙	

工事科目	建物名称	単身用医師住宅	屋外	
工事科目				
電灯設備	●			○
動力設備	○		○	
電保護設備	○		○	○
受変電設備	○		○	
電力貯蔵設備	○		○	○
発電設備	○		○	○
構内情報通信網設備	●		○	○
構内交換設備	○		○	○
情報表示設備	○		○	○
映像・音響設備	○		○	○
拡声設備	○		○	○
誘導支援設備	●		○	○
テレビ共同受信設備	●		○	○
監視カメラ設備	○		○	○
駐車場管制設備	○		○	○
防犯・入退室管理設備	○		○	○
火災報知設備	●		○	○
中央監視制御設備	○		○	○
医療関係設備	○		○	○
構内配電線路	○		●	○
構内通信線路	○		○	○
電波障害調査	○		○	○
撤去工事	○		●	

【特記事項】

- 1 一般事項
- 1）特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）平成三十一年版」（以下、「標準仕様書」という。）、「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）平成三十一年版」（以下、「標準図」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）平成三十一年版」による。
- 2）工事種目に機械設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面及び標準仕様書による。
- 2 特記事項
- 項目及び特記事項は、●印をついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は、※印を適用する。

章	項目	特記事項
一	※設備機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するものまたは、これらと同等のものとす。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。また、〔グ〕印は「京都府庁グリーン調達方針」（以下、「グリーン調達」という。）の特定調達品目を示す。 ●京都府ホームページ参照 <http://www.pref.kyoto.jp/zaisan/kankyo.html>
	※機材の品質・性能証明	使用する機材が、（一社）公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿（最新版）」による場合は、評価書の写しをもって、標準仕様書第1編第1章第4節1．4．2（2）の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。
	※現場代理人	ただし、標準仕様書に規定される製作図・試験成績書等は除く。 本工事の施工に当たっては、請負契約書第10条に規定する現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者との直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任する。
	※電気工事士	契約電力500kW以上の場合も、第1種電気工事士による施工を行う。
	※工事用電力・水その他	本工事に必要な工事用電力・水などの費用は、引き渡し時まですべて受注者の負担とする。
	※官公署への手続き	官公署等への手続きは速やかに行い、それに要する費用は、すべて受注者の負担とする。
	※工事用仮設物	構内につくることが ※できない ○できない
	※足場・作業構台	別契約の関係者・受注者が設置したものは、無償で使用できる。
	※監督職員事務所	※設置しない ○設置する（○本工事 ○別途）
	※監督職員事務所に備え付ける図書	下記の図書を監督職員事務所に備え付ける。 ・公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編） ・電気設備工事監理指針 ・建築設備耐震設計施工指針 ・公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）編（最新版）
二	※建設副産物の処理及び建設発生土の処理	○建設副産物の処理 右記のほか、現場説明書による。 ○引き渡しを要するもの ○再生資源利用を図るもの ○特別管理産業廃棄物 ○PCB使用機器 ○SF6ガス使用機器 ○ ○建設発生土処分 ○構外指定地に搬出処理 ※（一財）城陽山砂利採取地整備公社 右記のほか、現場説明書による。 ○構外搬出適切処理 （運搬及び処分費は ○本工事 ○別途） ○構内指示場所に敷き均し
	※再生資源利用（促進）計画・実施書の提出	再生資源利用（促進）計画・実施書の提出 詳細は現場説明書「Ⅱ特記事項 1 4 建設副産物の取扱い 2）再生資源利用（促進）計画実施書について」による。
	※「建設発生土処理計画書」及び「廃棄物処理計画書」を監督職員に提出する。	1）「建設発生土処理計画書」及び「廃棄物処理計画書」を監督職員に提出する。
	※関係法令等に従い、適正に廃棄物等を処理し、「建設発生土処理計画書」及び「廃棄物処理報告書」により監督職員に報告する。	2）関係法令等に従い、適正に廃棄物等を処理し、「建設発生土処理計画書」及び「廃棄物処理報告書」により監督職員に報告する。
	○アスベスト成形成板の処理等	○アスベスト成形成板の処理等
	施工調査	アスベスト成形成板の撤去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は図面により記録し監督職員に提出する。 ・アスベスト成形成板使用部位の確認 ・アスベスト成形成板の種別、厚さ等の確認 ・アスベスト成形成板使用数量の確認 ・施工範囲等の確認
	確認範囲	※成形成板の製造年等の確認 ○X線解析法
	処理方法	※非飛散性アスベスト廃棄物の取扱いに関する技術指針」に従いあらかじめ処理計画書を作成し、適切に解体処分等を行うこと。

章	項目	特記事項
一	※工事関係書類	営繕工事契約関係提出書類書式集 ● 覧表により提出。 ●京都府ホームページ参照 <http://www.pref.kyoto.jp/eizen/index.html>
	※履行報告	月報 ※2部 ○3部 毎月末日にめ。翌月の5日までに提出する。
	※工事写真	1）国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「工事写真撮影ガイドブック電気設備工事編（最新版）」による。 2）工事完成時、整理の上、1部提出する。 3）デジタルカメラで撮影可とする。
	※完成図書	名称 内容 大きさ 部数 ○完成図 金文字製本 A4版 1部 ○完成図 ○背貼り製本（版） ○A4ファイル止め 2部 ○施工図 ○背貼り製本（版） ○A4ファイル止め 2部 ○機器完成図等 機器製作図 ファイル止め A4版 2部
	○諸官庁提出書類	副本 1式 ○原図 完成図 1部 ○完成写真 アルバム綴り 2部
	※著作権等	電子納品については、現場説明書による。 当該建物において取得する、施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。
	※付属品及び予備品	標準仕様書によるほか、別表1による。
	○耐震施工	1）設備機器の固定は、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」による。 2）下記の設計用水平震度（KH）により、機器製作固定を行う。 設置場所 特定の施設 ○一般の施設 重要機器 一般機器 重要機器 一般機器 上層階、屋上及び塔屋 2.0（2.0） 1.5（2.0） 1.5（2.0） 1.0（1.5） 中間階 1.5（1.5） 1.0（1.5） 1.0（1.5） 0.6（1.0） 1階及び地下階 1.0（1.0） 0.6（1.0） 0.6（1.0） 0.4（0.6）
	○風圧力に対する性能	建築基準法に基づき定められた風速及び地表面粗度区分 Ⅴα（○3.0 ○3.2 ○3.4） 地表面粗度区分（○Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ ○Ⅳ） 建築基準法施行令第87条に定めるところによる風圧力（耐風力）検討（計算）書を監督職員に提出する。なお、検討（計算）範囲には、それぞれの取付部分を含めるものとする。
	○風圧力（耐風力）	○受雷部システム及び引下げ導線システム ○太陽光発電装置 ○風力発電装置 ○テレビ共同受信用アンテナ及びアンテナマスト ○
二	●電線類	1）特記なきものは、EM-ⅠEとする。 2）EM電線、EMケーブルで標準仕様書に規格等の記載のないものは、ハロゲン及び鉛を含まない材料で構成されたものとし、次の記号及び仕様による。 EM-アクセスフロア JCS4502（600Vアクセスフロア用耐燃性ポリエチレンシースケーブル）による600Vアクセスフロア用ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンシースケーブル（EM-EE）及び600Vアクセスフロア用架橋ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンシースケーブル（EM-CE）を示す。 EM-MEES JCS4271に準じ、絶縁材及びシースにJCS規格によるEMケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたもの 3）長さ1m以上の通線を行わない配管には、導入線（樹脂被覆電線等）を挿入する。
	●電線管	電線管 ●PF管 ただし、露出部分は鋼製電線管とする。 分電盤等の2次側で第1ボックスまでは（※鋼製電線管●PF管）とする。 ○ねじなし電線管 1）雨線外及び湿気が多い場所または水気のある場所に使用する露出電線管は、厚鋼電線管とする。 2）スラブ厚の1/4を超える外径の配管及び（PF22）又は（E31）相当を超えるものは、コンクリート埋設配管を行わない。 最上階の埋込配管 最上階のスラブでモルタル防水及び樹脂防水の場合、埋込配管は避けるのを原則とする。 下記の露出配管は塗装（指定色塗装）を行う。 ○屋外（○屋上を除く） ○屋内居室 ○屋内PS・EPS ○屋内機械室 ○
	●電線本数、管路等	分電盤、制御盤、端子箱等の2次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径等は監督職員の承諾を受けて変更することができる。 樹脂管で配管する場合は、合成樹脂製ボックスを使用する。 分電盤の予備の配線用遮断器が4個以下の場合（26）を1本、5個以上の場合（26）を2本天井内まで立上げる。ケーブルラックの床の防火貫通部に（51）を1本以上立上げる。
	●ボックス	和室 ●樹脂製 ○金属製（○新金属製 ○ステンレス製） その他 ●樹脂製 ○金属製（○新金属製 ○ステンレス製） 水平高低調整式（空転防止リング付、○フロア一部分を除く）とする。 ○砲金製 ○アルミ合金製
	○予備配管	寸法 盤その他機器類について図示した寸法は、約寸法とする。 接続 電動機への接続は、本工事とする。 アンカーボルト アンカーボルト及びナットは、下記による。 屋外・多湿室等（○溶融亜鉛メッキ ○SUS） その他（○一般品 ○）
	●フラッシュプレート	
	○フロアプレート・ベース	
	●機器	
	○あと施工アンカー	施工後確認試験 ○行う ○行わない 試験方法 引張試験機による引張試験とし、国土交通省大臣官房官庁営繕部の公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成三十一年度版）「8.12.7施工確認試験」による。 確認強度 監督職員との協議による。

章	項目	特記事項
一	●機器内配線等	下記の機器内配線及びケーブルには、EM電線及びEMケーブルを使用する。 ただし、高圧主回路配線はこの限りでない。 ●分電盤 ○OA盤 ○実験盤 ○開閉器箱 ○制御盤 ○キュービクル式配電盤 ○直流電源装置 ○交流無停電電源装置（UPS）（簡易型を除く）
	○はつり	1）既存のコンクリート床・壁等の配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターを使用する。 2）復旧はモルタル補修までとする。
	○再使用機器	取り外した上再使用する機器は、清掃し絶縁抵抗測定の上取付ける。なお照明器具等の見え掛かり部分は、洗剤を使用するなどして、十分に清掃する。
	●その他	屋外の盤類・開閉器箱 ○SUS ●鋼板製 屋外のバルボックス ●SUS ○鋼板製
	●工事範囲	●配管 ●配線 ●機器取付
	●電気方式	幹線 ○単相3線式 100V/200V ○直流2線式 100V 分岐 ●単相2線式 ●100V ○200V ○直流2線式 100V
	○照明制御による効果の評価	社団法人日本照明器具工業会技術資料130「照明制御装置による消費電力削減効果の評価手法」により、消費電力削減効果の評価を行い監督職員に提出する。
	○照明制御装置（グ）	照明制御装置の各センサー設定は、監督職員と協議する。センサー設定器を附属させる。
	○多重伝送制御システム	多重伝送制御システムの設定は、監督職員の指示による。システム設定器を附属させる。
二	●LED制御装置の種類	LED制御装置・電圧は、標準図及びJIL5004-2015「公共施設用照明器具」に指定のあるもの、図面特記があるものを除き下記による。 器具の種類 安定器等の種類 電圧（V） LED灯 調光信号線が接続された器具 L×又はLZ 回路電圧による （個別通信制御を除く） 上記以外 L×又はLJ 回路電圧による
	●LED照明器具の規格	LED照明器具の定格消費電力等の規定が標準図とJILで異なる場合、JILの規定を適用する。
	●RP又はMP形照明器具	標準図において、防雨形または防湿形の器具本体の材質に、SUSを含む複数の材料が適用されている場合は、SUSを適用する。
	○非常用照明の形式	○電池内蔵形 ○電池別置形
	○フロアコンセント	○引出し形 ○飛び出し形 ○内部固定形 ○外部固定形 ○OAフロア用
	●分電盤等	1）本工事の分電盤、OA盤、実験盤で、分岐に用いる配線用遮断器及び漏電遮断器の寸法は、JISC 8201-2-1「回路遮断器」、同付属書JC「電灯分電盤用協約形回路遮断器」、JISC 8201-2-2「漏電遮断器」、同付属書JC「電灯分電盤用協約形漏電遮断器」による。 2）特記なき場合、分岐に用いる2種の配線用遮断器及び漏電遮断器は、1種サイズのものとする。 3）SPD分離器（配管用遮断器）は（○警報接点付 ○警報接点無）とする。 4）SPD分離器は、監督職員の承諾を受けて、SPD内蔵とすることができる。 端子盤部に ○通気口 ○冷却ファン を設ける ○開閉器を設ける（○配線用遮断器 ○カットアウトスイッチ） ○開閉器を設けない 実施 ○する ●しない
	○照明用ポール	
	●一般照明の照度測定	
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
三	○電気方式	幹線 ○三相3線式 200V ○ 分岐 ○三相3線式 200V ○
	○制御盤	1）単位装置の電流計は負荷端子の手前に接続する。（インバータ回路を除く） 2）制御回路に用いる変圧器は絶縁変圧器とする。 3）インバータ発熱対策用冷却装置を扉面に取り付けた場合、開扉時に冷却装置を休止させる。 4）インバータ発熱対策用冷却装置の故障を盤面に表示（○させる ○させない）
	○監視方法	○警報盤による代表監視 ○中央監視制御装置による監視
	○インターロック	自動火災報知設備の受信機、連動制御器及びガス漏れ火災警報受信機と連動して、空調機を停止させる。
	○インバータ装置の規約効率	三相可変性電動機用インバータ装置の規約効率は、次表の値以上とする。 電動機出力（kW） 0.4 0.75 1.5 2.2 3.7 5.5 7.5 インバータ効率（%） 86.0 88.5 92.0 93.0 94.0 94.0 94.5 電動機出力（kW） 11 15 18.5 22 30 37 45 インバータ効率（%） 94.5 95.0 95.5 95.5 95.5 95.5 95.5 備考）1）電動機の供給電圧は100V又は200Vとする。 2）インバータ効率は、1.00倍負荷時の値とする。
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○保護レベル	○Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ ○Ⅳ
	○受雷部システム	突針支持管 ○鋼製 ○ステンレス製
	○接地システム	OA型接地極（○板状接地極 ○垂直接地極 ○放射状接地極） OB型接地極（○環状接地極 ○網状接地極）
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付

課長補佐	担当	工事名	令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事	図番	No001
		図名	電気設備工事特記仕様書No. 1		009 枚の内

電気設備工事特記仕様書 No. 2

章	項 目	特 記 事 項
電力貯蔵設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○直流電源装置	用途 ○建築基準法用 ○消防法用 ○受変電設備専用 その他 ○過放電防止保護装置（直流不足電圧継電器）の設定電圧は、90Vとする。
	○交流無停電電源装置（UPS）	用途 ○ 方式 ○一般形 ○簡易形
発電設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○形式	○オープン形 ○簡易形 ○キュービクル
	○連続運転可能時間	○10時間（乙） ○72時間（甲） ○
	○発電機	電気方式 三相3線式 電 圧 ○210V ○6.6kV ○415V 定格出力 kVA以上 力率 0.8
	○原動機	種 別 ○ガスタービン ○ディーゼル機関 ○ガスエンジン ○マイクロガスタービン ○燃料電池 ○コージェネレーション kW（PS）以上 定格出力 ○電気式 ○空気式 始動方式 ○ラジエーター式 ○水槽循環式 冷却方式 ○行方 ○行わない 現地負荷試験
	○燃料	種類 ○重油 ○軽油 ○灯油 ○ガス（ ） ○燃料小出槽 ○主燃料槽
	○監視方式	○警報盤による代表監視 ○中央監視盤による監視
	○太陽光発電装置	太陽電池 アレイ 公称最大出力 kW以上 設置可能建築面積 m2以下（長辺 m x 短辺 m） 系統連系 ○受動 ○能動 パワーコンディショナ出力 相 線式 V kW以上 逆潮流 ○有 ※無 交流出力電力 ○100V ○200V 出力電気方式 ○三相3線式 ○単相3線式 ○単相2線式
	○外部移報	○有 ○無
	通信内情報設備	●工事範囲 ●配管 ●配線 ●機器取付 ●施工方法 ○金属管配線 ○ケーブル配線 ●合成樹脂管配線
	構内交換設備	●工事範囲 ●配管 ●配線 ●機器取付 ○保安器用接地 ○本工事 ○別途工事 ○形式 ○電子交換機 ○ボタン電話装置
情報表示設備	○工事種類	○マルチサイン装置 ○出退表示設備 ○時刻表示設備
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○親時計及び付属装置	○CR -P M ○CW -P M ○プログラムタイマ（○カード式 ○キー式 ○ ）
映像設備音響	○子時計	特記なきものは ○SWA33-G R B 2 ○
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○施工方法	○金属管配線 ○ケーブル配線 ○合成樹脂管配線
拡声設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○増幅器	用途 ○全館放送用（○一般放送 ○非常放送） ○ローカル放送用 ○自動放送はアッテネーターを経由した回路とする。
	○スピーカ	特記なきものは ○SC6H i -1V 3-M ○
誘導支援設備	●工事範囲	○配管 ●配線 ●機器取付
	●工事内容	○音声誘導装置 検出方式（○磁気式 ○無線式 ○画像認識） ○インターホン ○電話式 ○相互式 ●テレビインターホン ○親機に子機カメラ角度調整機能（上下）を設ける。 ○ ○トイレ等呼出し装置 ○1室 ○3室 ○5室 ○ 呼出しボタン ○壁付ボタン（プルスイッチの長さは、0.2m以上とする） ○壁付握りボタン（握りボタンの長さは、1.2m以上とする） ○通話機能 ○受付呼出し装置 ○誘導音
	●工事範囲	○配管 ●配線 ●機器取付
	●アンテナ	○UHF用 ○BS用 ○CS用 ○AM用 ○FM用 ●CATV
	○アンテナマスト	○壁面取付形 ○自立形 ○配管用ステンレス鋼鋼管 ○一般構造用炭素鋼鋼管（溶融亜鉛メッキ仕上げ） ○圧力配管用炭素鋼鋼管（溶融亜鉛メッキ仕上げ）
	○電界強度測定	電界強度及び面画は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付予定位置、またその周辺で測定し、その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 測定チャンネルは、監督職員と協議する。
	通信内情報設備	●工事範囲 ●配管 ●配線 ●機器取付 ●施工方法 ○金属管配線 ○ケーブル配線 ●合成樹脂管配線
	構内交換設備	●工事範囲 ●配管 ●配線 ●機器取付 ○保安器用接地 ○本工事 ○別途工事 ○形式 ○電子交換機 ○ボタン電話装置
	情報表示設備	○工事種類 ○マルチサイン装置 ○出退表示設備 ○時刻表示設備 ○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○親時計及び付属装置 ○CR -P M ○CW -P M ○プログラムタイマ（○カード式 ○キー式 ○ ） ○子時計 特記なきものは ○SWA33-G R B 2 ○
	映像設備音響	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○施工方法 ○金属管配線 ○ケーブル配線 ○合成樹脂管配線

章	項 目	特 記 事 項
監視カメラ設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○画像	○カラー ○白黒
	○伝送方式	○アナログ伝送方式 ○ネットワーク伝送方式 ○デジタル同軸伝送方式
管制設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○車両検出方式	○ループコイル方式 ○光線方式
防犯・侵入管理・退室設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○工事種類	○機械警備用配管 ○防犯装置 ○入退室管理制御装置
火災報知設備	●自動火災報知装置	●工事範囲 ○配管 ○配線 ●機器取付 ○受信機 ○形 級 回線 ○壁掛形 ○自立形 ○単独形 ○複合形 ○副受信機 窓 ○盤面に消火ポンプ運転表示灯を設ける。 ○光警報装置 ○ ○消火ポンプ始動 ○消火栓箱内押ボタン ○発信機と連動（総合盤に始動表示灯を設ける。） ○機器収容箱 ○消火栓一体形 ○単独形 ○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○連動制御器 回線 【予備電源（蓄電池）内蔵】 ○単独 ○自火報受信機と一体 ○自動閉鎖装置 ○防火戸用【DC24V 0.6A以下電磁式またはラッチ式】 ○防煙ダンパ用 【別途工事 瞬時通電式又は電動式 DC24V 0.6A以下 遠方復帰機構（電動式）DC24V 0.7A以下】 ○防火シャッター用 【別途工事 DC24V 0.6A以下】 ○非常警報装置 ○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○電気方式 DC24V ○電源装置 ○非常電源（蓄電池） ○自動火災報知設備と兼用 ○ガス漏れ火災警報装置 ○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○受信機 ○単独形 ○自火報受信機と一体 ○ガスの種類 ○都市ガス（13A） ○液化石油ガス ○諸警報表示 受信機に諸警報表示窓（ 窓）を設ける。
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○監視方式	○警報盤 ○監視制御装置
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○非接地電源用分電盤	キャビネット ○鋼製 ○ステンレス製
	○ナースコール装置	トイレ及び浴室等の呼出押ボタン ○有線式 ○無線式 ○防滴 ○防湿
	○その他	○オプション等の試験は、監督職員の指示による。
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○電気方式	高圧 ○三相3線式 6kV 低圧 ○三相3線式 200V ○ ○単相3線式 100/200V ○単2線式 (○100V ○200V)
	○ふ設方式	○地中線 ○管路式 ○波付硬質合成樹脂管（FEP） ○ポリエチレン被覆管（PLP） ○埋設深さ 特記なきものはGL（舗装がある場合は、舗装下面） から300mm以上とする。 ○架空線 電柱 ○遠心力プレストレストコンクリートポール ○高圧負荷開閉器 7.2kV 300A 用途 ○架空引込用 ○地中引込用 構造 ○耐中塩じん用 ○耐重塩じん用 形式 ○引外し装置付き（SOG形） ○引外し装置なし ○避雷器内蔵 ○制御電源用変圧器内蔵
配線	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法 ○標準図による ○図示による。 蓋の文字 ○蓋の用途表示は電力とする。 ○ ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。
	○余長	高圧ケーブルは、受変電設備までの配線経路中、1ヶ所で3m余長をとる。
	○端子、高圧ケーブル端末処理	○一般用 ○耐塩用 ○重耐塩用
	○避雷器	○屋外形 ○耐塩形
	○装柱材	○一般用 ○耐塩形
	●外灯	基礎 ●本工事 ○別途工事 ○外灯ボールの材質が鋼製（SPC）の場合で特記がない場合は溶融亜鉛メッキとし、指定色塗装とする。
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○ふ設方式	○地中線 ○管路式 ○波付硬質合成樹脂管（FEP） ○ポリエチレン被覆管（PLP） ○埋設深さ 特記なきものはGL（舗装がある場合は、舗装（表層）下面） から300mm以上とする。 ○架空線 電柱 ○遠心力プレストレストコンクリートポール
	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法 ○標準図による ○図示による。 蓋の文字 ○蓋の用途表示は通信とする。 ○ ハンドホールにおいてもケーブル指示材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。
	構内通信線路	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○ふ設方式 ○地中線 ○管路式 ○波付硬質合成樹脂管（FEP） ○ポリエチレン被覆管（PLP） ○埋設深さ 特記なきものはGL（舗装がある場合は、舗装（表層）下面） から300mm以上とする。 ○架空線 電柱 ○遠心力プレストレストコンクリートポール

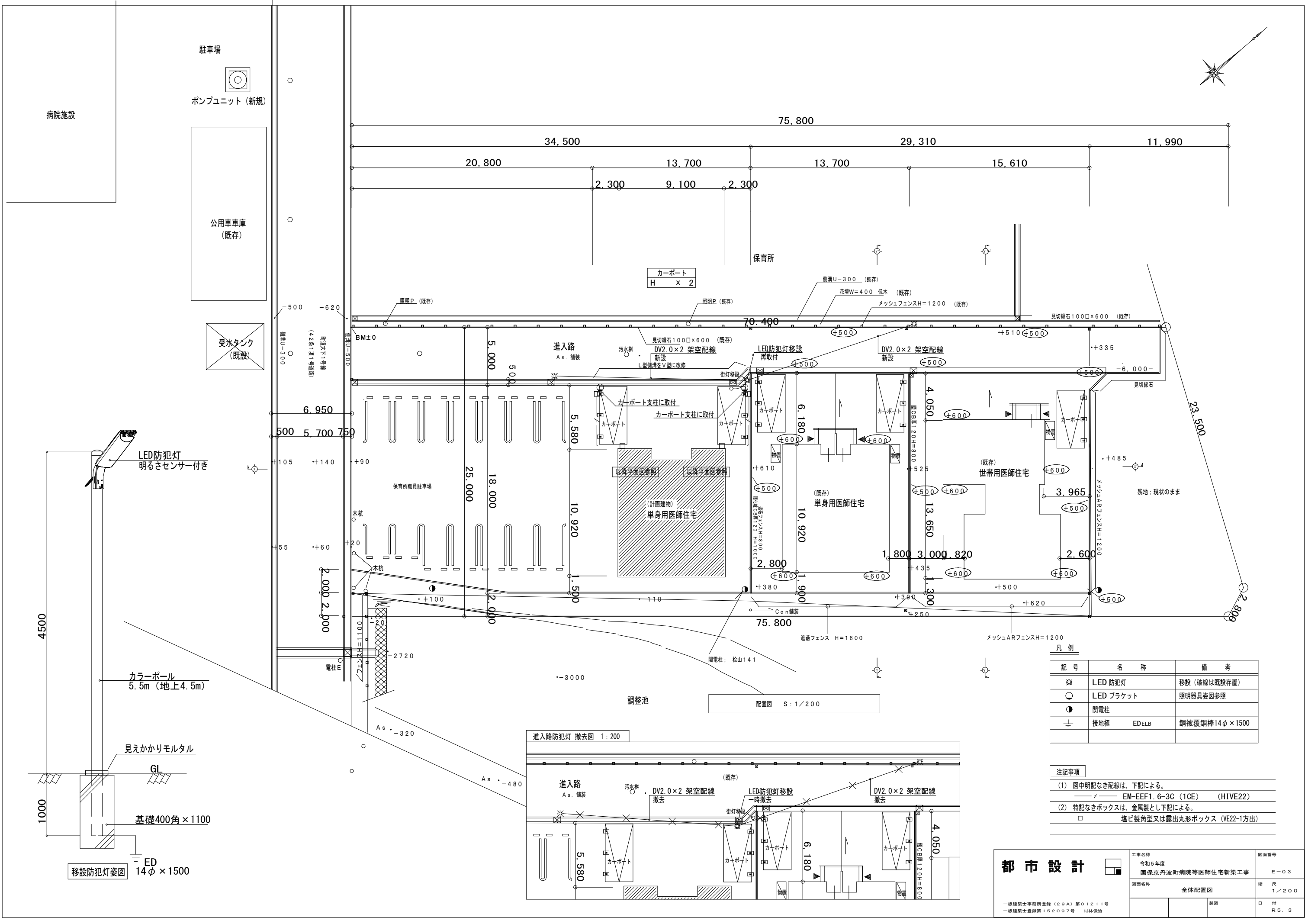
章	項 目	特 記 事 項
電波障害調査	○調査範囲	○測定のみ ○対策工事実施設計書作成まで
	○測定時期	○工事前 ○工事中 ○完成後
	○測定箇所	箇所
	○測定内容	受信可能な全チャンネルとし、結果報告書を提出する。

別表 1 付属品・予備品

○イーザーキャビネット	箱	○キーボックス	○テスター	○マンホールフック
○工具箱（ドライバー、モンキーレンチ、組スパナ、ハンマー）				
受変電設備・盤		ランプ及びヒューズの予備品は、20%とする。		

<div>1/1000 1/500 1/300 1/200 1/150 1/100 1/75 1/50 1/30 1/20 1/15 1/10 1/7.5 1/5 1/3 1/2 1/1.5 1/1 1/0.5 1/0.3 1/0.2 1/0.15 1/0.1 1/0.075 1/0.05 1/0.03 1/0.02 1/0.015 1/0.01 1/0.0075 1/0.005 1/0.003 1/0.002 1/0.0015 1/0.001 1/0.00075 1/0.0005 1/0.0003 1/0.0002 1/0.00015 1/0.0001</div>				決 裁 欄			課 長	参 事	主 幹	課長補佐	担 当	工 事 名	令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事	図 番
												No001	009 枚の内	
Ver. H30_04							設 計 番 号	設計年度	令和 年 月			図 名		電気設備工事特記仕様書No. 2





凡 例		
記 号	名 称	備 考
○	LED 防犯灯	移設（破線は既設存置）
○	LED ブラケット	照明器具委図参照
●	開電柱	
⊕	接地極	ED ELB 鋼被覆鋼棒14φ×1500

- 注記事項
- (1) 図中明記なき配線は、下記による。  
——メ—— EM-EEF1.6-3C (1CE) (HIVE22)

(2) 特記なきボックスは、金属製とし下記による。  
□ 塩ビ製角型又は露出丸形ボックス (VE22-1方出)

都市設計

工事名称

令和5年度  
国保京丹波町病院等医師住宅新築工事

図面番号

E-03

図面名称

全体配置図

縮 尺

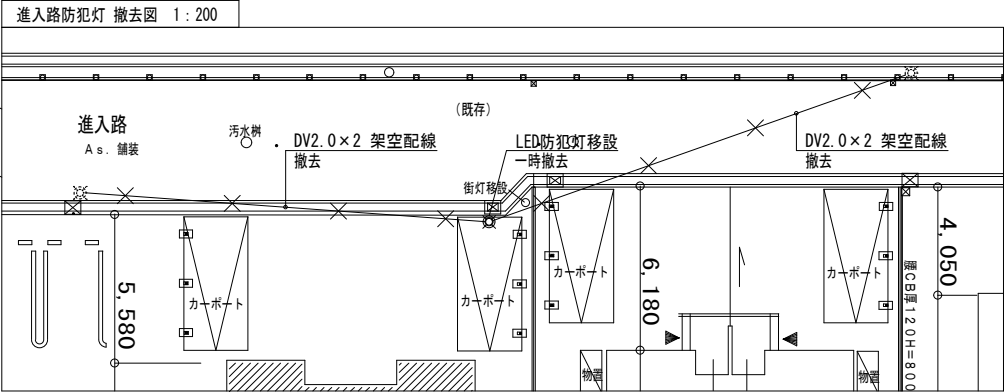
1/200

一級建築士事務所登録（20A）第01211号  
一級建築士登録第152097号 村林俊治

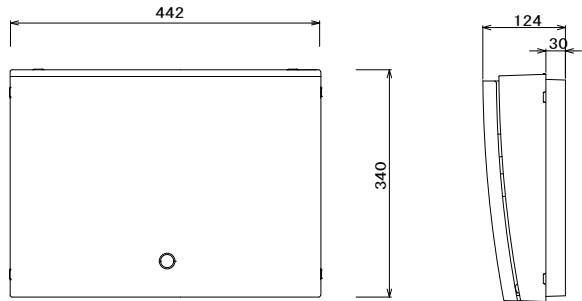
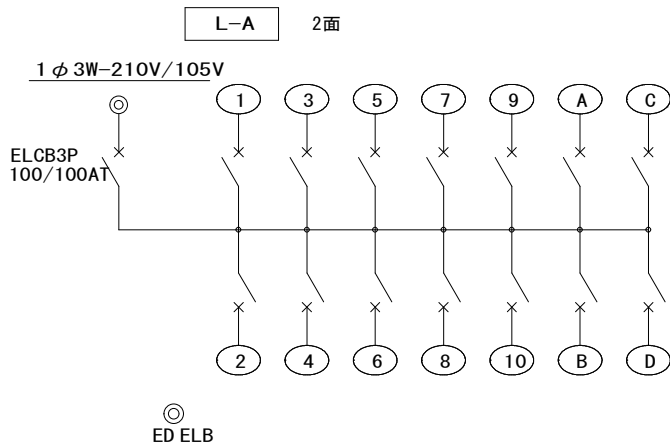
製図

日 付

R5. 3



住戸分電盤単線結線図



分電盤参考外觀姿図

住戸分電盤回路		
	住戸分電盤L-A	
①	電灯	100V
②	寝室1差込	100V
③	LDK1差込	100V
④	便所洗濯機差込	100V
⑤	LDK1食器棚差込	100V
⑥	電子レンジ	100V
⑦	寝室1エアコン	100V
⑧	屋外コンセント	100V
⑨	食器洗淨乾燥機	100V
⑩	予備	100V
⑪	予備	100V
⑫	予備	100V
A	電磁調理器	200V
B	オープン	200V
C	LDK1エアコン	200V
D	給湯器EH-2	200V

住戸分電盤結線図・参考図	
市販品樹脂製露出・半埋込型	
BHM810181B3 (P社同等品)	
1～12	: BS MCCB2P20A (2P1E) × 12
B～D	: BS MCCB2P20A (2P2E) × 3
A	: BS MCCB2P30A (2P2E) × 1
A～D : 200V回路	

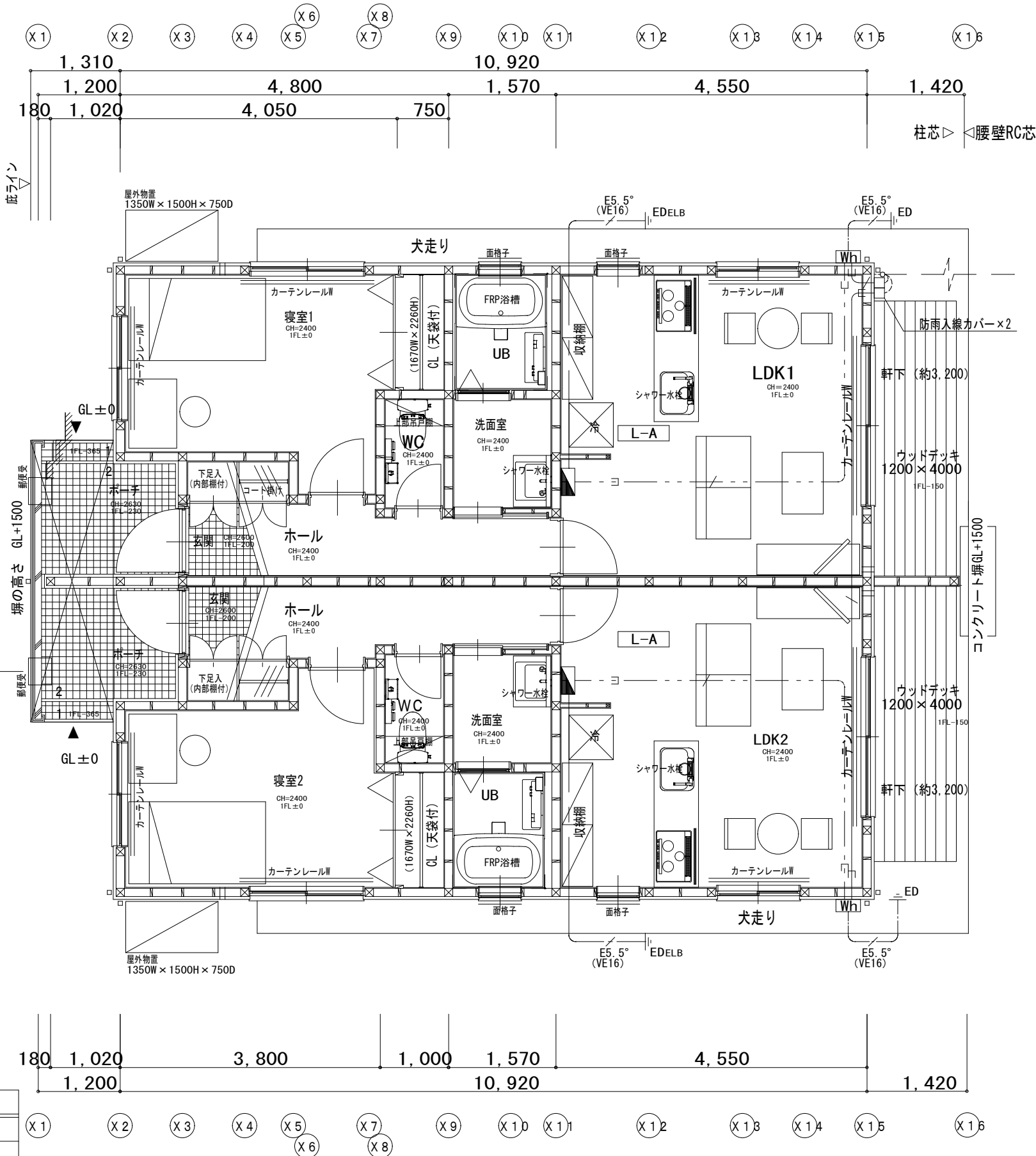
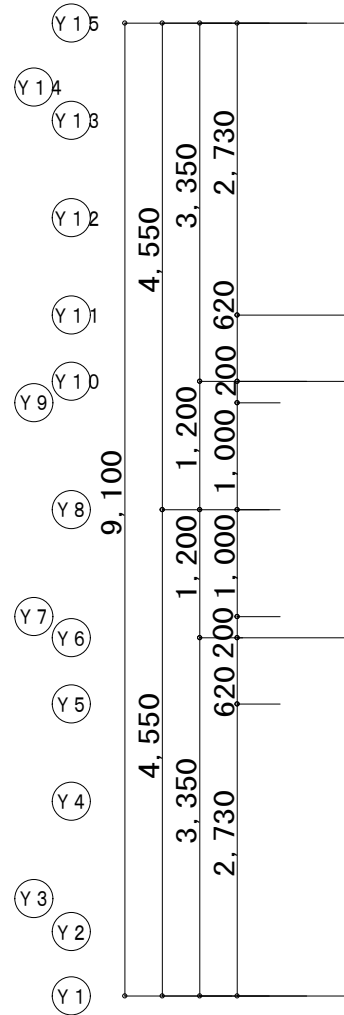
凡例		
図記号	名称	備考
	MCCB 2P1E50AF/20AT	分岐100V回路
	MCCB 2P2E50AF/20AT	分岐200V回路
① ～ ⑫	AC100V 電灯回路 コンセント回路	
A ～ ⑫	AC200V コンセント回路	

特 記 事 項	1. 住宅用分電盤は露出半埋込兼用型とする。
	2. 単相3線式回路に設ける400A以下のものは、中性線欠相保護機能付き配線用遮断器・漏電遮断器とする。
	3. 分岐回路に用いる配線用遮断器・漏電遮断器は、JIS協約型IPモジュール（定格遮断容量は2.5kA以上）とする。
	4. 漏電遮断器は、高感度高速形（定格感度電流は30mA以下、漏電引外し動作時間は、0.1秒以内）、雷インパルス不動作形とする。
	5. 盤内機器、遮断器、電磁接触器等には負荷名称を記入する。
	6. ELCB接地端子を個数分設けること。
	7. 200V回路の負荷は赤色で電圧表示を施すこと。

都 市 設 計

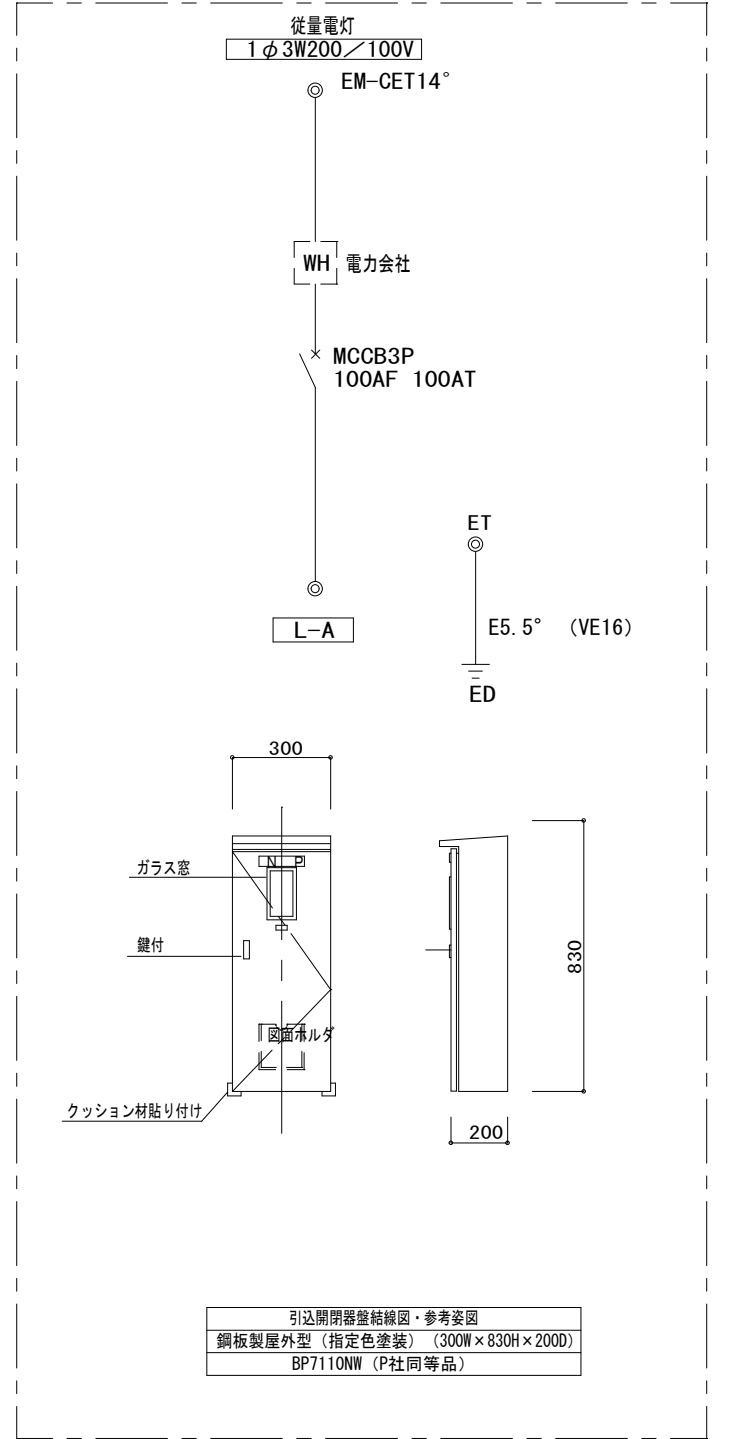


工事名称 令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事		図面番号 E-04
図面名称 分電盤結線図		縮 尺 N1:1
一級建築士事務所登録（2024）第01211号 一級建築士登録第152097号 村林俊治	製図	日 付 R5. 3



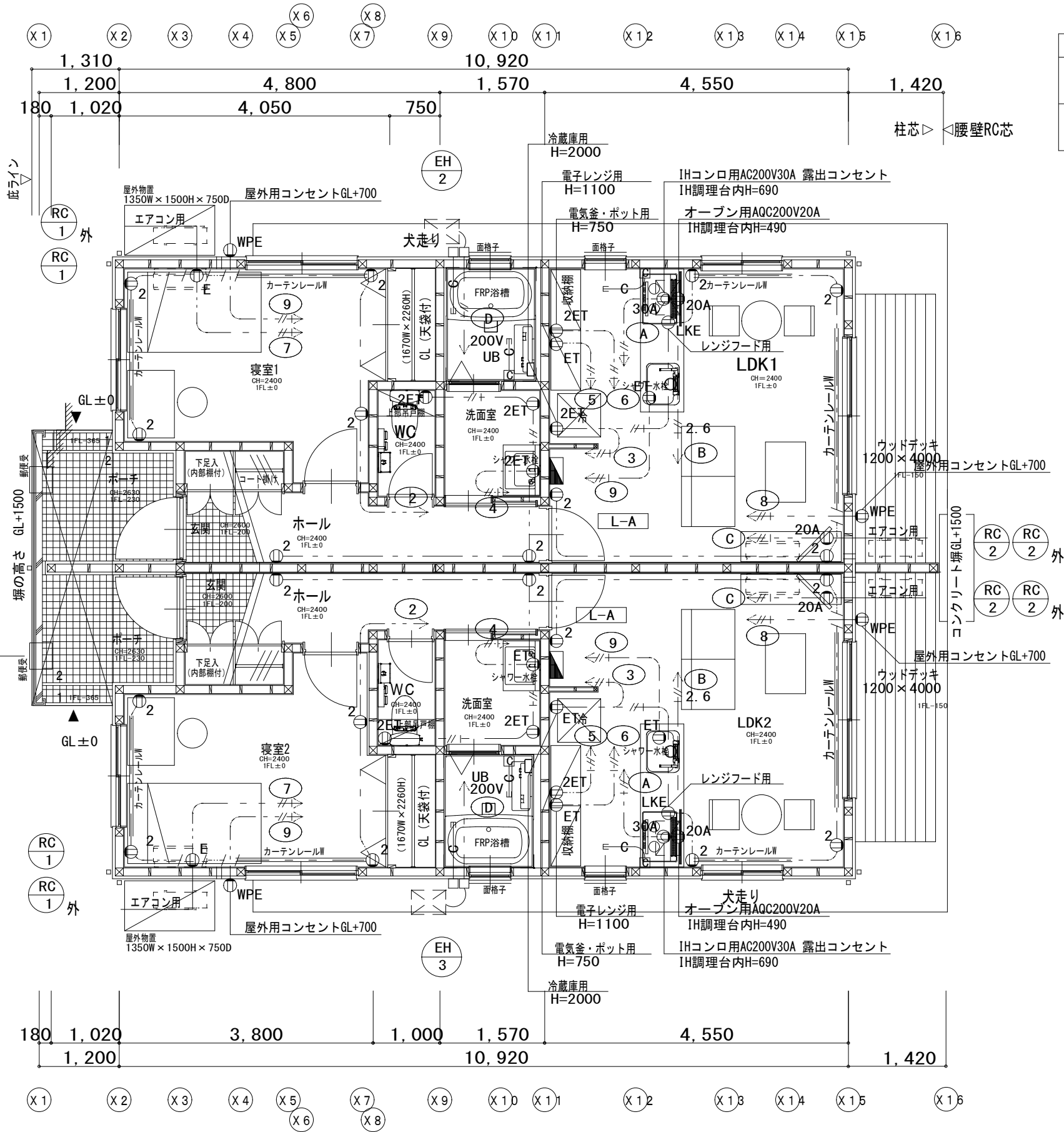
1階平面詳細図 S : 1 / 50

記号	名称	備考
Wh	引込開閉器	結線図参照
電灯分電盤	樹脂製	結線図参照
ED	接地極	銅被覆鋼棒14φ×1500
ED ELB	接地極	銅被覆鋼棒14φ×1500
○	引込み金物	別途工事
□	防雨入線カバー	WP91319同等品



注記事項
1) 図中明記なき配線は、下記による。
EM-CET14° 保護管 (PF28)
壁面立下り 保護管 (PF28)
天井内は、ケーブルころがしとする。

都市設計	工事名称	図面番号
	令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事	E-05
	図面名称	総尺 1/50
	幹線設備 平面詳細図	日付 R5. 3
一級建築士事務所登録(29A)第01211号 一級建築士登録第152097号 村林俊治		製図



記号	名称	電気仕様	備考
EH-2	給湯器	AC1φ200V 3.95KW	
	エコキュート	EM-EEF2.0-3C (1CE)	
EH-3	給湯器	AC1φ200V 3.95KW	
	エコキュート	EM-EEF2.0-3C (1CE)	

住戸分電盤回路		
	住戸分電盤L-A	住戸分電盤L-A
①	電灯	電灯
②	寝室1差込	寝室2差込
③	LDK1差込	LDK2差込
④	便所洗濯機差込	便所洗濯機差込
⑤	LDK1食器棚差込	LDK2食器棚差込
⑥	電子レンジ	電子レンジ
⑦	寝室1エアコン	寝室2エアコン
⑧	予備	予備
⑨	屋外用コンセント	屋外用コンセント
⑩	食器洗浄乾燥機	食器洗浄乾燥機
A	電磁調理器	電磁調理器
B	オープン	オープン
C	LDK1エアコン	LDK2エアコン
D	給湯器EH-2	給湯器EH-3

凡 例

記 号	名 称	備 考
②	埋込コンセント	2P15A×2
②ET	埋込コンセント	2P15A×1 ET付
②2ET	埋込コンセント	2P15A×2 ET付
②E	埋込コンセント	2P15A×1 E付 100V
②20A	埋込コンセント	2P20A×1 E付 200V
②30A	露出コンセント	2P30A×1 E付 200V
②LKE	埋込抜きコンセント	2P15A×1 E付
②WPE	防水型コンセント	2P15A×1 E付
□	防雨入線カバー	WP91319同等品
②	給湯器コントローラー	機械設備工事

注記事項

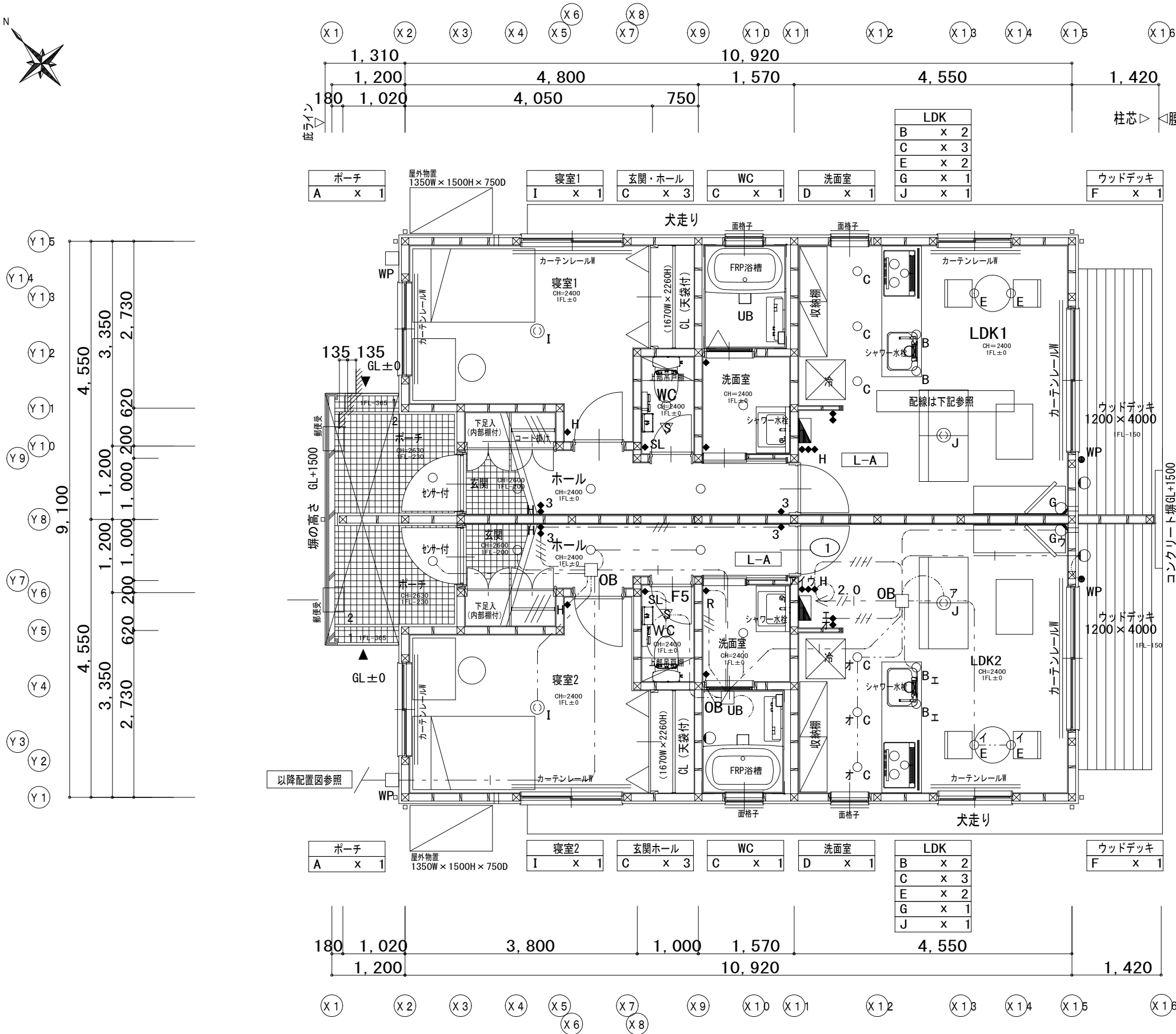
- 1) 図中明記なき配管配線は下記による
- — — EM-EEF2.0-2C
  - /+ — EM-EEF2.0-3C (1CE)
  - /+ — EM-EEF2.0-2C×2
  - H/H — EM-EEF2.0-2C+2.0-3C
  - — — EM-IE 2.0×2
  - /+ — EM-IE 2.0×2E1.6
  - G — 壁空配管 (PF14)
- 天井内はケーブルこしがし配線とする
- 2) 木間仕切り部ケーブル立下げは釘打ち防止のケーブル保護金具を用いること。  
ケーブル保護金具 (都市再生機構仕様) 丸形EC107A (日動) 同等品

1階平面詳細図 S : 1 / 50

都市設計

工事名称	令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事	図面番号	E-06
図面名称	コンセント設備 平面詳細図	縮 尺	1 / 50
一級建築士事務所登録 (29A) 第01211号 一級建築士登録第152097号 村林俊治	製図	日 付	R5. 3





1階平面詳細図 S : 1 / 50

凡 例

記 号	名 称	備 考
■	電灯分電盤	住宅用
○	LED ダウンライト	照明器具姿図参照
○	LED ブラケット	照明器具姿図参照
□OB	接続用アウトレットボックス	四角深型カバー付き
□	露出ローゼット 6A125V	和室用丸型WG5015Y
◎	埋込ローゼット 6A125V	洋室用丸型WG4425W
◆	埋込ワイドスイッチ 1P15A×1	
◆ 3/4	埋込ワイドスイッチ 15A×1	3W (4W) 3路/ (4路)
◆ H	埋込ワイドスイッチ 1P15A×1	位置表示灯内蔵
● WP	埋込スイッチ 1P15A×1	防雨形
▽	熱線センサ付自動スイッチ トイレ用	換気扇連動 消し遅れ機能付 WTK2614K同等品
◆ SL	熱線式自動スイッチ	WTC58207W同等品
□R24	24時間換気スイッチ	機械設備支給品取付
□WP	中継ボックス	

注記事項

- 1) 図中明記なき配管配線は、下記による  
— H12.0 — EM-EEF2.0-3C (1CE)  
— - - - EM-EEF1.6-2C  
— ト - - EM-EEF1.6-3C (1CE)  
— H/ト — EM-EEF1.6-2C×2 (1CE)  
— H/ - — EM-EEF1.6-3C  
— H/ト — EM-EEF1.6-2C×2  
— F5 — EM-EEF1.6-2C+1.6-3C
- 分電盤から第一分岐点までは2.0とする
- 2) 天井内は、ケーブルころがし配線とする
- 3) 浴室照明器具及び浴室換気扇 (リモコン含む) の結線は本工事とする。
- 4) 木間仕切り部ケーブル立上げは、釘打ち防止のケーブル保護金具を用いること。  
ケーブル保護金具 (都市再生機構仕様) 丸形EC107A (日動) 同等品

都 市 設 計

一級建築士事務所登録 (29A) 第01211号  
一級建築士登録第152097号 村林俊治

工事名称  
令和5年度  
国保京丹波町病院等医師住宅新築工事

図面番号  
E-08

図面名称  
電灯設備 平面詳細図

縮 尺  
1 / 50

日 付  
R5. 3



① 親機 ④ 子機

カラーテレビドアホンセット

モニター付親機

カメラ付玄関子機

JS-12 (JS-1M-T, JS-DA)

電源電圧

AC100V 50/60Hz

形 状

壁取付型 (JIS1個用スイッチボックス)

材 質

本体: 自己消火性樹脂  
パネル部: 難燃性樹脂

通話方式

拡声自動交互通話/プレストーク通話

ディスプレイ

3.5型TFTカラー液晶

電源電圧

モニター付親機から供給

形 状

壁取付型 (JIS1個用スイッチボックス)

材 質

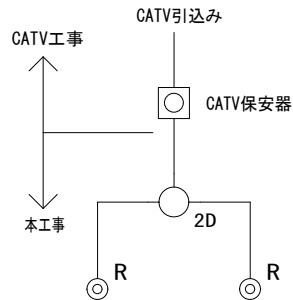
自己消火性樹脂

通話方式

自動交互通話

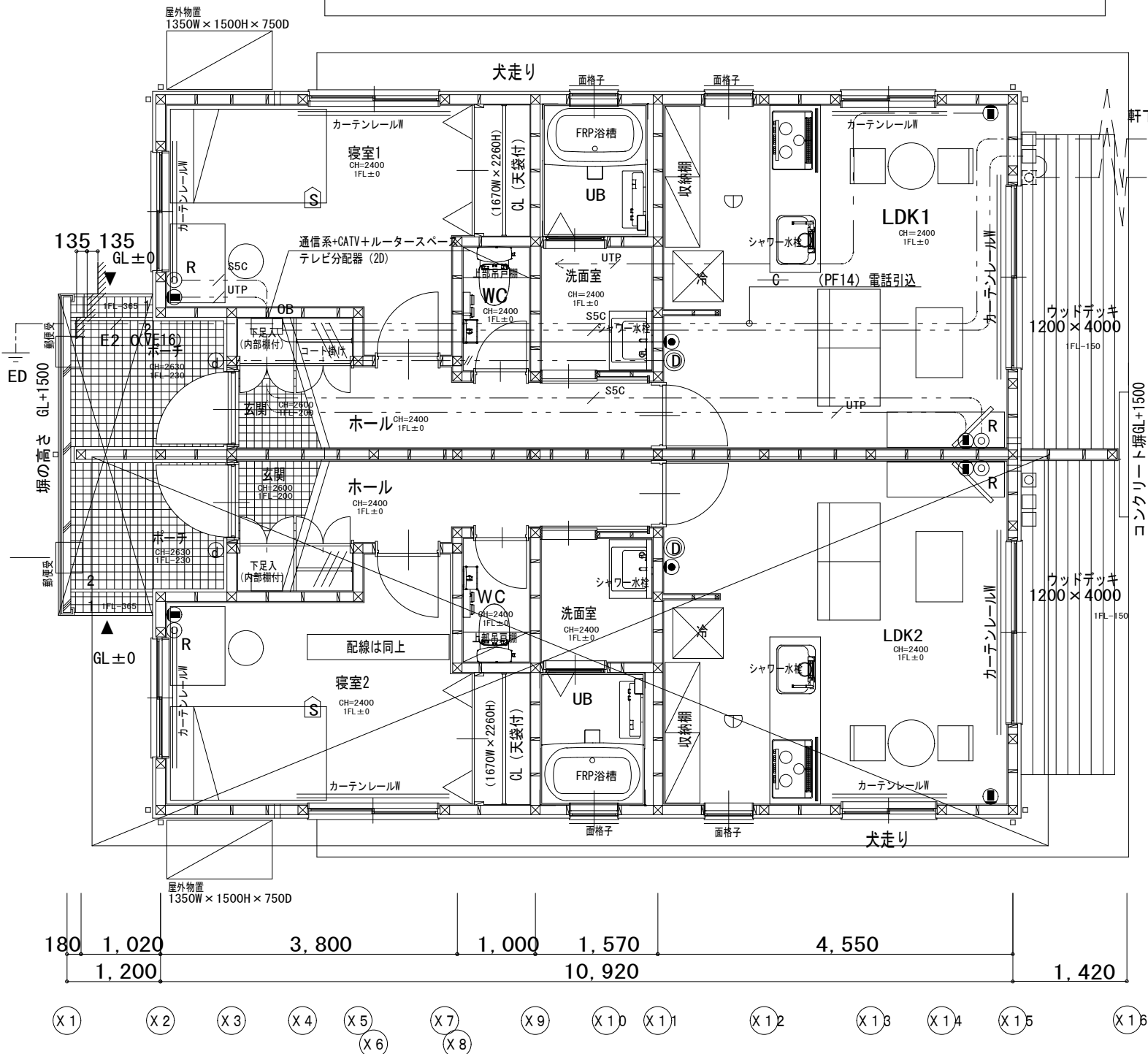
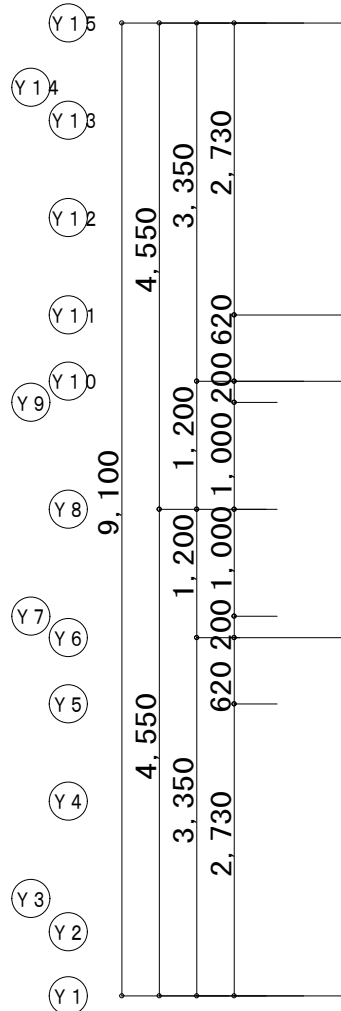
カメラ

1/5型カラーCMOS



記号	名 称
▽	増幅器 BS/CS/UV-140dB
Φ	1分岐器
Φ	2分岐器
○	2分配器
⊗	4分配器
⊗ R	テレビ端子 CS-7F-RW

機器は、全て地デジ対応とする。



凡 例

記 号	名 称	備 考
Ⓜ	電話保安器箱	別途工事
□	機器収容箱	別途工事
①	ドアホン	親機
④	ドアホン	子機
●	電話用アウトレット	
●	情報用アウトレット	
⊗ R	直列ユニット (75Ω)	R : 終端抵抗付
□	防雨入線カバー	
⊗	テレビ保安器	別途工事 (CATV)
Ⓜ	住宅用火災警報器 (煙式)	電池式
▽	住宅用火災警報器 (子機)	電池式

注記事項

- (1) 図中明記なき配線は、下記による。

電話	- G -	空配管	(PF14)
情報	- UTP -	EM-UTP0.5-4P	Cate6
インターホン	- // -	EM-AE1.2-2C	
テレビ	- / S5C -	EM-S5C-FB	
	- G -	壁空配管	(PF14)

天井内はケーブルころがし配線とする
- (2) 木間仕切り部ケーブル立下げは釘打ち防止のケーブル保護金具を用いること。  
ケーブル保護金具 (都市再生機構仕様) 丸形EC107A (日動) 同等品

1階平面詳細図 S : 1 / 50

都 市 設 計

一級建築士事務所登録 (29A) 第01211号  
一級建築士登録第152097号 村林俊治

工事名称	令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事	図面番号	E-09
図面名称	弱电設備 平面詳細図	縮 尺	1 / 50
	製図	日 付	R5. 3

## 機械設備工事特記仕様書 No. 1

### 【工事概要】

1 工事場所 京都府船井郡京丹波町和田地内

## 2 建物概要

建 物 名	構 造	階 数	延床面積 (m <sup>2</sup> )	消防法令別表第一	耐震安全性の分類	備 考
単身用医師住宅	木造	1	100.00		○甲 ●乙	
					○甲 ○乙	
					○甲 ○乙	
					○甲 ○乙	

### 3 工事科目

●印をついたものを適用し、各一式とする。

工事科目	建物名称	単身用医師住宅	屋外	
空気調和設備		●	○	○
換気設備		●	○	○
排煙設備		○	○	○
自動制御設備		○	○	○
衛生器具設備		●	○	○
給水設備		●	●	○
排水設備		●	●	○
給湯設備		●	○	○
消火設備		○	○	○
ガス設備		○	○	○
厨房機器設備		○	○	○
浄化槽設備		○	○	○
医療ガス設備		○	○	○
撤去工事		○	○	○
		○	○	○

【特記事項】

### 1 一般事項

1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）平成三十一年版」（以下、「標準仕様書」という。）、「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）平成三十一年版（以下「標準図」という。）」及び「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）平成三十一年版」による。

## 2) 工事種

## 2 特記事項

項目及

章	項 目	特 記 事 項
一	※設備機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するものまたは、これらと同等のものとする。 ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。 また、「グ」印は「京都府庁グリーン調達方針*」（以下、「グリーン調達」という。）の特定調達品目を示す。 ◆京都府ホームページ参照 <http://www.pref.kyoto.jp/zaisan/kankyo.html>
	※機材の承諾	機材の承諾に際しては、原則として国土交通省大臣官房官庁営繕部建築課管轄技術管理室監修の機械設備工事機材承諾図様式集（最新版）によるものとする。
	※機材の品質・性能証明	使用する機材が、（一社）公共建設協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価指針（最新版）」による場合は、評価書の写しをもって、標準仕様書第1章第4節1. 4. 2（3）の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。 ただし、標準仕様書に規定される製作図・試験成績書等は除く。
	※現場代理人	本工事の施工に当たっては、請負契約書第10条に基づく現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者との直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任する。
	※電気保安技術者 ○技能士（一級）	※適用する ○適用しない ※配管（配管工事） ○冷凍空調調和機器施工 ○建築板金（ダクト製作及び取付け）
般	※工事用電力・水その他	本工事に必要な工事用電力・水などの費用は、引き渡し時まですべて受注者の負担とする。
	※官公署への手続き	官公署等への手続きは速やかに行い、それに要する費用は、すべて受注者の負担とする。
	※工事用仮設物	構内につくことが できる ○できない
	※足場・作業橋台	別契約の関係者・受注者が設置したもの、無償で使用できる。
	※監督職員事務所 ※監督職員事務所に備え付ける図書	※設置しない ○設置する（○本工事 ○別途） 下記の図書は監督職員事務所に備え付ける。 ・ 公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編） ・ 公共建築設備工事標準図（機械設備工事編） ・ 機械設備工事監理指針 ・ 機械設備工事施工チェックシート ・ 建築設備耐震設計施工指針 ・ 工事写真撮影ガイドブック機械設備工事（最新版） ・ 公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）
事	※建設副産物の処理 及び建設発生土の処理	○建設副産物の処理 右記のほか、 現場説明書による。      ○引き渡しを要するもの 【 】 ○再生資源利用を図るもの 【 】 ○特別管理産業廃棄物 ○PCB使用機器      ○臭化リチウム      ○ ○建設発生土の処理 右記のほか、 現場説明書による      ○構外指定地に搬出処理 ※（一財）城陽山砂利採取地整備公社 ○構外搬出適切処理 （運搬及び処分費は      ○本工事      ○別途） ○構内指示場所に敷き均し
		再生資源利用（促進）計画・実施書の提出 詳細は現場説明書「Ⅱ特記事項 14 建設副産物の取扱い 2）再生資源利用（促進）計画・実施書について」による。
		1）「建設発生土処理計画書」及び「建設副産物等処理計画書」を監督職員に提出する。 2）関係法令等に従い、適正に廃棄物等を処理し、「建設発生土処理報告書」及び「建設副産物処理報告書」により監督職員に報告する。 3）冷媒については関係法令に従い適切に破壊処分を行う（家電リサイクル法対象機器を除く） （積込：※本工事 ○別途    処分費：※本工事 ○別途    運搬費：※本工事 ○別途）
		○アスベストの処理等 1）次の資機材のアスベスト含有の有無は以下による。 ○ダクトパッキン      ○含有 ○不含      ○要調査（分析資料数： ） ○配管エルボ部保温材      ○含有 ○不含      ○要調査（分析資料数： ） ○煙道の断熱材      ○含有 ○不含      ○要調査（分析資料数： ） ○アスベスト成形板      ○含有 ○不含      ○要調査（分析資料数： ） アスベスト成形板の処理等 施工調査 アスベスト成形板の撤去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は図面により記録し監督職員に提出する。 ・ アスベスト成形板使用部位の確認・アスベスト成形板の種類、厚さ等の確認 ・ アスベスト成形板使用数量の確認・施工範囲等の確認 確認範囲 ※成形板の製造年等の確認 ○X線解析法
		2）アスベスト含有調査は以下のとおりとする。 （ただし、調査費用は ※本工事 ○別途 とする。） ※JIS A 1481-1 2 「建材製品中のアスベスト含有率測定方法—第2部試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法」又はJIS A 1481-1 3 「建材製品中のアスベスト含有方法—第3部：アスベスト含有率の X 線回折定量分析方法」による。 3）アスベスト含有資機材は関係法令に従い適切に処理する。 調査の結果アスベスト含有が確認された場合の処理方法は監督員との協議による。
項		

章

項目

特記事項

一

※工事関係書類

営繕工事契約関係書類提出書類書式集\*一覧表により提出。  
◆京都府ホームページ参照 <http://www.pref.kyoto.jp/eizen/index.html>

※履行報告

月報 ※2部 ※3部 毎月末にメ、翌月の5日までに提出する。

※工事写真

1) 国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修「工事写真撮影ガイドブック機械設備工事編(最新版)」による。  
2) 工事完成時、整理の上、1部提出する。  
3) デジタルカメラで撮影可とする。

※完成図書

名称	内容	大きさ	部数
○完成図	金文字製本	A4版	1部
○完成図	○背貼り製本(版)	○A4ファイル止め	2部
○施工図	○背貼り製本(版)	○A4ファイル止め	2部
○機器完成図等	機器製作図	ファイル止め	A4版
	機器性試験成績書・保証書・施工の試験成績書		2部

○諸官庁提出書類 副本

○原図 完成図

○完成写真 アルバム綴り

※著作権等

当該建物において取得する、施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。

※付属品及び予備品

標準仕様書によるほか、別表1による。

※総合試運転調整  
(測定結果は報告書にて提出)

○風量調整(測定共)

○水量調整(測定共)

○室内外空気の温湿度測定

○室内気流及びじんあいの測定

○騒音の測定

○飲料水の水质の測定

○雑用水の水质の測定

般

○耐震施工

1) 設備機器の固定は、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」による。  
2) 下記の設計用水平震度(KH)により、機器製作固定を行う。

設置場所	○特定の施設		○一般の施設	
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階、屋上及び塔屋	2.0(2.0)	1.5(2.0)	1.5(2.0)	1.0(1.5)
中間階	1.5(1.5)	1.0(1.5)	1.0(1.5)	0.6(1.0)
1階及び地下階	1.0(1.0)	0.6(1.0)	0.6(1.0)	0.4(0.6)

設置場所	○特定の施設	○一般の施設
	水槽	水槽
上層階、屋上及び塔屋	2.0	1.5
中間階	1.5	1.0
1階及び地下階	1.5	1.0

注1 耐震安全性の分類が甲類の建物は特定の施設を、乙類の建物は一般の施設を適用する。屋外に設置する機器は建物の耐震安全性の分類に準じる。ただし、敷地内に甲類の建物と乙類の建物が混在する場合は、特定の施設を適用する。  
注2 ( )内の数値は、防震支持の機器の場合に適用する。  
注3 設計用鉛直震度は、設計用水平震度の1/2とする。  
注4 上層階の定義は、6階建以下の場合は最上階、7～9階建の場合は上階2階。  
注5 重要機器(水槽類)は、下記に示すものとする。(水槽類にはオイルタンク等を含む。)  
【 1】  
注6 「建築設備耐震設計・施工指針(2014年版)」による形鋼振れ止め支持を行う場合はS・槽とする。ただし、取付け金物については標準図に準ずる。

通

●一般用弁

標準仕様書第2編2.2.1(ア)～(シ)によるほか、下記による。  
1) 水道連結部及び図面特記部の耐圧は10K以上、その他は5K以上とする。  
2) 給水・給湯用の青銅製弁は、給水用青銅弁を使用する。

○フレキシブルジョイント

機器取りに取付けるフレキシブルジョイントは、鋼板に対してはペローズ形、FRPに対しては合成ゴム製とする。

○伸縮管継手(鋼管用)

鋼管用伸縮管継手は下記による。  
○ペローズ形 ○スリッパ形

○溶接接合

溶接部の非破壊検査は、  
○適用しない  
○適用する(○放射線透過検査 ○浸透深傷検査又は磁粉深傷検査)

事

●地中埋設管及び埋設表示用テープ

1) 給水管 地中埋設管(○要 ○不要) 埋設表示用テープ(○要 ○不要)  
2) 消火管 地中埋設管(○要 ○不要) 埋設表示用テープ(○要 ○不要)  
3) ガス管 地中埋設管(○要 ○不要) 埋設表示用テープ(○要 ○不要)  
4) 油管 地中埋設管(○要 ○不要) 埋設表示用テープ(○要 ○不要)  
5) ブライン管 地中埋設管(○要 ○不要) 埋設表示用テープ(○要 ○不要)  
用途表示のあるテープ(幅は150mm以上)で、2倍長さ以上重ね合わせて使用する。

○防食処理

土中埋設の排水用塩化ライニング鋼管は、防食処置を行う。

●保温

1) 保温材の使用は、下記による。

	給水管・排水管	●ポリスチレンフォーム保温材	○
排煙ダクト・煙道、排気筒	○ロックウール保温材	○	
その他	●グラスウール保温材	○	

2) 膨脹管及び膨脹水槽からの補給水管の保温は、冷水管に準ずる。  
3) 鋼板製タンクの保温 ○必要 ○不要  
4) 保温を施す膨脹水槽等の蓋の保温 ○必要 ○不要  
5) エア抜管の保温厚は20mmとし、仕様は当該配管の項に準ずる。また、保温を行う範囲はエア抜弁までとする。  
6) 露出配管の保温外装種別は、下記による。  
・屋内 ○合成樹脂カバー1 ○合成樹脂製カバー2 ○  
・屋外 ○ステンレス鋼板 ●合成樹脂カバー ●カラー亜鉛鉄板  
7) 弁、ストレーナ等の金属製カバー外装種別は、下記による。  
・屋内 ○カラー亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板 ○  
・屋外 ○カラー亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板 ○  
8) 車庫内のダクト及び配管の保温は、機械室による。  
9) 合成樹脂製支持受 ○硬質ウレタンフォームに準ずるもの  
○ビーズ法ポリスチレンフォームに準ずるもの

○塗装

標準仕様書による他下記の配管は塗装(指定色塗装)を行う。ただし保温を行う配管ダクトを除く  
○屋外(○ダクト ○配管) ○屋内PS・EPS(○ダクト ○配管)  
○屋内機械室・電気室(○ダクト ○配管)

項

○吹出口及び吸込口ボックス

ボックスの材質について、特記がない場合は亜鉛鉄板製とする。ただし、ガラスウール製とする場合はJIS A 4009(空気調和及び換気設備用ダクトの構成部材)によるものとし、厚さ0.6mm以上の亜鉛鉄板で補強を施したものとする。  
ボックスの吊りは3点支持を標準とし、これによれない場合は監督職員との協議による。

○ステンレス製の板厚

ステンレス製ダクトの板厚は JIS A 4009 2017による

●ボックス

P/F管で配管する場合は、樹脂製ボックスを使用する。

●容量等の表示

機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。ただし、電動機の出力、燃料消費量及び圧力損失は、表示された数値以下とする。

○誘導電動機

電動機出力が、7.5kW以上の低圧三相かご形誘導電動機の規格は、JIS C 4213(低圧三相かご形誘導電動機-低圧トッパンナーモータ)による。

○開放形膨脹タンク等

開放形膨脹タンク、補給水タンク及び消火用充水タンクの材質は次による  
○鋼板製 ○ステンレス鋼板製

○電線及び電線管

電線及び電線管については標準仕様書第4編第1章第5節による

章	項 目	特 記 事 項
共 通 事 項	○はつり	1) 既存のコンクリート床・壁等の配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターを使用する。 2) 復旧はモルタル修繕までとする。
	○インサート及びアンカー	あと施工アンカー等を行う場合は、改修標準仕様書第2編第5章による。 施工後確認試験 ○行う (国土交通省大臣官房官庁営繕部の公共建築改修工事標準仕様書 (建築工事編) (平成31年度)) による。 ○行わない
	○防煙ダンパー及び防火防煙ダンパー	復帰方式は ○遠方復帰式 (電気式 (定格入力 DC24V 0.6A以下)) ○手動復帰式
	○消音内貼	ダクト及びチャンパー、消音エルボの内貼り (箇所図示) は下記による。 ・消音内貼り部分の外部保温は ○不要 ○必要 ・チャンパーの寸法は、外形寸法を示す。 (ただし、ダクト及び消音エルボは、内形寸法を示す。) ・点検口は内貼り仕様又は断熱戸とする。
	○ドレン抜き	外壁に面するガラリに直接取付けるチャンパー類に必要に応じ付ける。
	○取付枠	防火区画部に取付ける取出口、吸入口等で取付枠を必要とするものは鋼枠を使用する。
	○機器の基礎	アンカーボルト及びナットは、下記による。 ・屋外、多湿室等 (○溶融亜鉛メッキ ○SUS) ・その他 (○一般品 ○) ○機器側の材質がSUS製の場合は、SUS製とする。
	○防火区画	○平面図 ○図示 ○
	○掲示板	機械室に操作順序、注意事項、連絡先及び系統図などを画いた掲示板を設ける。
	○天井仕上区分	( ) 書きの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。
事 項	○給油設備	地下オイルタンク ○設ける ○設けない 遠隔油量指示計 ○設ける ○設けない 副指示計 ○設ける ○設けない オイルサービスタンク 油面計 ○ゲージ式 ○ガラス管式 油面制御装置の機能は下記による。 ○給油ポンプの起動、停止制御用 ○返油ポンプの起動、停止制御用 ○満油警報 ○遠隔警報 (○減油 ○満減油) 油管 (露出、トラフ内) ○配管用炭素鋼管 (黒) ○ 油管 (地中) ○ポリエチレン被覆鋼管 ○
	●建物導入部配管 (排気及び通気を除く)	○標準図 施工4(a) (フレキシブルジョイントを使用) ○標準図 施工5(b) (ボートジョイントを使用) ●標準図 施工5(c) (スリッパジョイントを使用)
	●鋼材	屋外部分 ○溶融亜鉛めっき (○2種35) ●ステンレス鋼製 (SUS304)
	○制御及び操作盤	構成 ○進相コンデンサー ○運転時間計 表示等 ○運転 (赤色) 及び停止 (緑色) 表示 ○保護継電器の動作表示 接点及び端子 ○遠方発停用端子 ○湿度調節器用端子 ○運転時間表示用端子 ○温水出入口温度用端子 ○冷水出入口温度用端子 ○消費電力表示用端子 (ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用) ○給水量表示用端子 (ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用) ○燃料消費量表示用端子 (ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用)
	●主方式	○全空気方式 (○中央 ○各階ユニット) ○ファンコイル・ダクト併用方式 ●個別方式 ○
	●主要熱源機器	○吸収冷凍水機 ○チリングユニット ○空気熱源ヒートポンプユニット ●空気ヒートポンプ式パッケージ形空気調和機 (○EHP ○GHP ○) ○空冷
	○設計時の温湿度条件	場 所 屋 外 屋内 (調整目標値) 時 期 温度 (DB) 湿度 (RH) 温度 (DB) 湿度 (RH) 温度 (DB) 湿度 (RH) 冬 期 ℃ % 19 ℃ 40 % ℃ % 夏 期 ℃ % 28 ℃ 50 % ℃ %
	○長方形ダクトの工法	○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法 (○共板フランジ工法 ○スライドオンフランジ工法)
	○ダクトの分岐方法	○割込み工法 ○直付け工法
	調 和	●配管材料 (図面特記部分は除く)
設 備	○温度計	○パッケージ形空気調和機の2次側電気配管配線の仕様は製造者の標準仕様とする。 ○工業用バイメタル式温度計 ○ガス製棒状温度計 ○ガラス製二重管温度計
備	○定風量ユニット 変風量ユニット	○メカニカルタイプ ○風速センサータイプ (○プロベラ形センサー ○熱線センサー)
	○ファンコイルユニット がt形フロンヒートユニット	風量分配ダクトは ○亜鉛鉄板製 ○自己消火性のポリスチレンフォームなど
	○バーナー制御方式	○オン・オフ制御 ○ハイ・ロー制御 ○比例制御
	○電動機盤	○進相コンデンサー (○要 ○不要)
	○熱投入形再生器	直に吸収冷温水機に (○要する。 ○不要である。)
	○高温再生器の構造	※図面による。
	○コージェネレーション装置	発電方式 ○原動機、発電機 ○燃料電池 熱回収装置 ○温水熱交換機 ○排ガスボイラー ○排ガス熱交換機 ○熱回収ポンプ ○その他 その他装置等 ○補機付属制御装置 ○冷却塔 (放熱用) ○
	○集中リモコン	表示機能 ○屋外機吸込温度 ○空調エネルギー使用量按分 ○運転時間積算 ○室内温度 データー管理機能 ○屋外機吸込温度 ○空調エネルギー使用量按分 ○運転時間積算 ○室内温度 ○外部記憶媒体への出力

				決 裁 欄	課 長	参 事	主 幹	課長補佐	担 当	工事名	令和 5 年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事	図 番 No. 001 009 枚の内	
					設 計 番 号	設計年度	令和    年    月				図名		機械設備工事特記仕様書 No. 1
Ver. R02.04													



## 機械設備工事特記仕様書 No. 2

章	項 目	特 記 事 項													
空 気 調 和 設 備	○鋼板製煙道	厚さ           ○3. 2mm           ○4. 5mm ○ばい煙濃度計の取付座           ○ばいじん量測定口 ○伸縮継手           ○補隙口													
	○ばい煙濃度計	○ファン付           ○ファンなし （電源は熱源機器付風制御盤より取出し、配管配線共本工事に含む）													
	○瞬間流量計	○固定形           個													
	○保温 （図面特記部分は除く）	○着脱可能形           （測定用タッピング           個           本体           個） 1）冷媒管の保温外装は下記による。 ・屋内   隠ぺい部           ●不要           ○必要 露出部           ○保温化粧ケース（塩化ビニル樹脂製） ○ ・屋外   ○ステンレス鋼板           ●樹脂製           ○アルミ合金製 ○保温化粧ケース           ○ステンレス鋼板製           ○溶融亜鉛メッキ鋼板製） ・保温化粧ケースの下部カバー           ○必要           ○不要 2）ファンコイルユニット等のドレン管の保温は、給排水設備工事の排水管による。 3）加温用給水水槽の保温は膨張タンクに準ずる。 4）トラフ内の油管はプラスチックテープ1／2重ね1回巻きとする。													
換 気 設 備	●ダクトの工法	○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（○共板フランジ工法   ○スライドオンフランジ工法） ●スパイラルダクト													
	○ダクトの分岐方法	給気ダクト           ○割込み方式           ○直付け方式 排気ダクト           ○割込み方式           ○直付け方式													
	○厨房排気ダクトの板厚	厨房排気ダクトは亜鉛鉄板製とし、板厚は下記による。 <table><tr><th>ダ ク ト の 長 辺</th><th>板 厚</th></tr><tr><td>4 5 0mm以下</td><td>0. 6mm</td></tr><tr><td>4 5 0mmを超え1 2 0 0mm以下</td><td>0. 8mm</td></tr><tr><td>1 2 0 0mmを超え1 8 0 0mm以下</td><td>1. 0mm</td></tr><tr><td>1 8 0 0mmを超えるもの</td><td>1. 2mm</td></tr></table>				ダ ク ト の 長 辺	板 厚	4 5 0mm以下	0. 6mm	4 5 0mmを超え1 2 0 0mm以下	0. 8mm	1 2 0 0mmを超え1 8 0 0mm以下	1. 0mm	1 8 0 0mmを超えるもの	1. 2mm
	ダ ク ト の 長 辺	板 厚													
4 5 0mm以下	0. 6mm														
4 5 0mmを超え1 2 0 0mm以下	0. 8mm														
1 2 0 0mmを超え1 8 0 0mm以下	1. 0mm														
1 8 0 0mmを超えるもの	1. 2mm														
○排気フード	1）排気フードの補強・支持金物・接合剤等は、亜鉛鉄板製ダクトの当該事項によるものとし、材質は下記による。 ○ステンレス鋼板（補強共）           ○亜鉛鉄板 2）排気フード廻りに取付ける幕板は、上記フードと同材質とする。 ○本工事           ○別途工事 3）グリッドフィルターの予備           ○不要           ○必要														
排 煙 設 備	○保       温	浴室・厨房（多湿箇所）の外気取入ダクトの保温           ○不要           ○必要 外気取入ダクトの保温（空調を行っている室について）           ○不要           ○必要 全熱交換器までの外気取入ダクトの保温（空調を行っている室について）           ○不要           ○必要 全熱交換器以降の外気取入ダクトの保温（空調を行っている室について）           ○不要           ○必要 保温を行う場合の仕様は標準仕様書第2編第3章第1節による。													
	○排煙対象部分	○廊下           ○事務室           ○図示           ○最大面積           m <sup>2</sup>													
	○ダクトの種別	○高圧1ダクト           ○高圧2ダクト													
	○ダクトの工法	○アングルフランジ工法													
設 備	○ダクトの材料	○亜鉛鉄板製           ○普通鋼板製													
	○排煙口	1）形   状           ○スリットフェース形           ○パネル形           ○ダンパー形 2）排煙口の開放           ○手動           ○機械式           ○電気式           ○煙感知器連動 3）復帰装置           ○手元復帰式（○手動式           ○電気式）           ○遠方復帰式 4）ダンパー本体及び操作部との取り回しは本工事とし、それ以降の制御配管配線は別途工事とする。													
	○保温	床下及び暗渠内の保温           ○不要           ○必要（図示）													
		※図面による。													
自動制御設備															
衛 生 器 具 設 備	○小便器用節水装置	電気供給方式	○AC電源           ○乾電池           ○水流発電充電電池												
	○自動水栓	電気供給方式	○AC電源           ○乾電池           ○水流発電充電電池												
		手動スイッチ	○無し           ○有り												
	○大便器用洗浄弁	操作方式	○手動式           ○電気閉閉式（○センサー式           ○タッチスイッチ式）												
給 水 設 備	○水石けん入れ	○手洗器一体型           ○手洗器分離型           ○													
	○身障者用器具	1）大便器洗浄弁           ○センサー式           ○タッチスイッチ式           ○レバー式 2）洗面器の水栓は自動水栓とする。													
	●給水方式	●水道直結方式           ○高置タンク方式           ○増圧ポンプ方式（水道用直結加圧形ポンプユニット） ○ポンプ直送方式（小型給水ポンプユニット）													
	●配管材料 （図面特記部分は除く）	一般配管           ○ステンレス鋼管（SUS304） （呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合） ●ビニル管（HIVP） ○ポリ粉体ライニング鋼管（SGP-PA、SGP-FPA） ●塩ビライニング鋼管（SGP-VA、SGP-FVA） ○ 地中配管〔屋内〕           ○ステンレス鋼管（SUS316） （呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合） ○水道用ポリエチレン二層管（50φ以下）（※2種   ○1種） （ポリエチレン管の接合方法は   ○電気融着   ○メカニカル） ●ビニル管（HIVP） ○ポリ粉体ライニング鋼管（SGP-PD、SGP-FPD） ○塩ビライニング鋼管（SGP-VD、SGP-FVD） ●架橋ポリエチレン管（JIS K6769） 地中配管〔屋外〕           ○ステンレス鋼管（SUS316） （呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合） ○水道用ポリエチレン二層管（50φ以下）（※2種   ○1種） ●ビニル管（HIVP） ○ポリ粉体ライニング鋼管（SGP-PD、SGP-FPD） ○塩ビライニング鋼管（SGP-VD、SGP-FVD） ●架橋ポリエチレン管（JIS K6769）													
緊急遮断弁装置	○要	○不要													
	駆動方式	○電気式           ○機械式													
●量水器	●現地表示式（直読式） ○遠隔表示式														

項目		特記事項	
給 水 設 備	●水栓柱	●合成樹脂製（700×700×1300H） ○ステンレス製（ ） ○アルミニウム合金製（ ） 特記なき場合、水栓取付け高さは約600とする。	
	●管の埋設深さ	1）一般敷地 ●300mm ○ 2）構内車両通路 ●600mm ○ 3）寒冷地では凍結深度以上とする。	
	●加入金・負担金	●不要 ○必要（○別途 ○本工事）	
	○本管引込工事	○本工事 ○別途工事	
排 水 設 備	●排水方式	汚水と雑排水 [屋内] 汚水・雑排水と雨水[屋外] ポンプ排水	○分流式 ○合流式 ●分流式 ○合流式 ●有り(○雑排水 ○汚水 ○雨水 ○湧水 ○浄化槽2次側) ○なし
	○放流式	汚水 雑排水 雨水ポンプアップ 湧水ポンプアップ	○直放流水管 ○浄化槽 ○ ○直放流水管 ○浄化槽 ○別途料・側溝 ○直放流水管 ○雨水側溝 ○雨水料 ○直放流水管 ○雨水側溝 ○雨水樹
	●配管材料 (図面特記部分は除く)	屋内雑排水管	○排水用塩ビライニング鋼管 ○鋼管(SGPW)(○ねじ接合 OMDジョイントによる接合) ●ビニル管(VP) ○耐火二層管 ○
		屋内汚水排水管	○排水用塩ビライニング鋼管 ●ビニル管(VP) ○RF-VP ○耐火二層管 ○
		通気管	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP) ○鋼管(SGPW)(○ねじ接合 OMDジョイントによる接合) ●ビニル管(VP) ○耐火二層管 ○
		地中配管[屋内]	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管(REP-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管(RS-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP) ●ビニル管(VP) ○ビニル管(VU) ○
		地中配管[屋外]	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管(REP-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管(RS-VU) ●ビニル管(VP) ○ビニル管(VU) ○コンクリート管 ●耐熱性塩ビライニング鋼管
		鋼管類のポンプアップ排水用の配管は、塩ビライニング鋼管(SGP-VA、SGP-FVA) (地中配管はSGP-VD、SGP-FVD)とし、継手はフランジ又はハウジング形継手とする。	
	○満水試験継手	○必要(図示箇所に取付ける) ○不要	
	○負担金	○不要 ○必要(○別途 ○本工事)	
	○本管接続工事	○本工事 ○別途工事	
	給 湯 設 備	●給湯方式	○中央式 ●局部式
●配管材料		○鋼管(壁又は床埋設をする場合は、保温付被覆鋼管を使用してもよい。) ○ステンレス鋼管 ○耐熱性塩ビライニング鋼管 ○保温付き被覆鋼管 ●架橋ポリエチレン管	
	○保温	ガス湯沸器的排気筒の隠蔽箇所の保温は、標準仕様書第2編3. 1. 5の表2. 3. 5による。	
消 火 設 備	○消火設備の種類	○屋内消火栓 ○スプリンクラー ○泡消火 ○不活性ガス消火( ) ○連結送水管 ○	
	○表示灯	屋内消火栓箱には、消火ポンプ運転表示灯取付用口を設ける。	
	○配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管	○配管用炭素鋼管(白) ○圧力配管用炭素鋼管(白) ○
	○保温	屋内外地中配管	○外面被覆鋼管(SGP-VS) ○施工する(膨張タンクによる) ○施工しない ○施工しない ○施工する(膨張タンクによる) ○施工しない ○施工する(給水管の保温仕様に準ずる) ○施工しない ○施工する(給水管の保温仕様に準ずる) ○施工しない ○施工する(給水管の保温仕様に準ずる)
ガ ス 設 備	○ガスの種類	○都市ガス(発熱量 45. 000kJ/N m³ ○ KJ/N m³) ○液化石油ガス(050kg 本立 020kg 本立)	
	○ガスメーター	親メーター 子メーター	○貸与品 ○購入 ○購入 ○貸与品 計量方式(○直結式 ○バルブ式) ○ ○配管用炭素鋼管(白) ○
	○配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管	○ ○配管用炭素鋼管(白) ○
		屋内外地中配管	○ポリエチレン被覆鋼管 ○ガス用ポリエチレン管 ○
		都市ガスの場合は、供給者仕様による。	
	○地中埋設管の接合法	○SGM工法 ○ネジ工法 ○PE管工法	
設 き 備 く 井	○ビット内施工法	○溶接工法	
	○負担金	○不要 ○必要(○別途 ○本工事)	
	○本管接続工事	○本工事 ○別途工事	
	○掘削工法	○バーカッション式 ○ロータリー式 ○ダウンザホールハンマー式	
	○孔口保護管	深度( )m	
	○ケーシング材質	○配管用炭素鋼管(黒管) ○配管用ステンレス鋼管	

章	項 目	特 記 事 項
井 設 備 地 中 熱 交 換	○掘削工法	○回転振動式      ○ロータリー式      ○ダウンザホールハンマー式 ○ロータリーパーカッション式
設 備 厨 房 機 器		安全装置の適用は図面による。
浄 化 槽 設 備	○形式 ○処理方法	○ユニット形      ○現場施工形 ○小規模合併処理(別紙参照) ○合併処理(別紙参照)
設 備 医 療 ガ ス		※図面による。

表 1 付属品・予備品	
●工具箱（ドライバー、モンキーレンチ、組スパー、ハンマー）	
●マンホールフック ○パイプレンチ ○ポンプブライヤー ○ラバーカップ（大、小）	
○イージーキャビネット 箱 ○キーボックス	
○登壇予備品（ランプ及びヒューズの100%）	

				決裁欄			課 長	参 事	主 幹	課長補佐	担 当	工事名 令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事  図 番 No. 002 / 009 枚の内		
							設計番号	設計年度	令和    年    月				図名 機械設備工事特記仕様書 No. 2	
Ver. R01.04														

汚水会所リスト

記号	種類	会所寸法	BMより会所深さ	計画地盤より会所深さ	BMと計画地盤高の差	会所仕様		備考
②⑥	分離樹	100	200	-400	600	トラップ樹	塩ビ製防臭蓋	
②⑦	塩ビ製小口径樹	90Y右 100-200	-310	-810	500	インバート樹	塩ビ製防臭蓋	
②⑧	塩ビ製小口径樹	90Y右 100-200	-320	-820	500	インバート樹	塩ビ製防臭蓋	
②⑨	塩ビ製小口径樹	90Y右 100-200	-340	-840	500	インバート樹	塩ビ製防臭蓋	
③⑩	塩ビ製小口径樹	90Y右 125×100-200	-560	-1090	530	インバート樹	鋳鉄製防臭蓋(T-8)	内蓋付
③⑪	分離樹	100	200	-400	600	トラップ樹	塩ビ製防臭蓋	
③⑫	塩ビ製小口径樹	90Y左 100-200	-450	-950	500	インバート樹	塩ビ製防臭蓋	
③⑬	塩ビ製小口径樹	90Y左 100-200	-460	-960	500	インバート樹	塩ビ製防臭蓋	
③⑭	塩ビ製小口径樹	90Y左 100-200	-480	-980	500	インバート樹	塩ビ製防臭蓋	
③⑮	塩ビ製小口径樹	90Y右 125×100-200	-700	-1160	460	インバート樹	鋳鉄製防臭蓋(T-8)	内蓋付

既設ポンプユニット(汚物槽1000L)  
参考品番: ZUJ-506-0.4S(川本製)

病院施設

公用車庫  
(既存)

受水タンク  
(既設)

凡例 ○ 樹  
--- 給水管  
--- 雑排水管・污水管  
--- 計画地盤高

注記事項:

- 図中 ◀ は既設配管に切断・接続を表す。
- 図中 ● は埋設管標示ピンを表す。
- 図中 ■ はアスファルトはつり箇所を表し  
アスファルトはつり、本復旧は建築工事とする。  
(仮復旧は本工事)
- 図中 ( ) は既設配管を表す。
- 給排水工事は京丹波町指定業者が行うこと。



調整池

配置図 S: 1/200

都市設計

一級建築士事務所登録(29A)第01211号  
一級建築士登録第152097号 村林俊治

工事名称	令和5年度 国保京丹波町病院等 医師住宅新築工事	図面番号	M-3
図面名称	全体配置図	縮尺	1/200
		日付	R4.01

## 衛生設備機器リスト

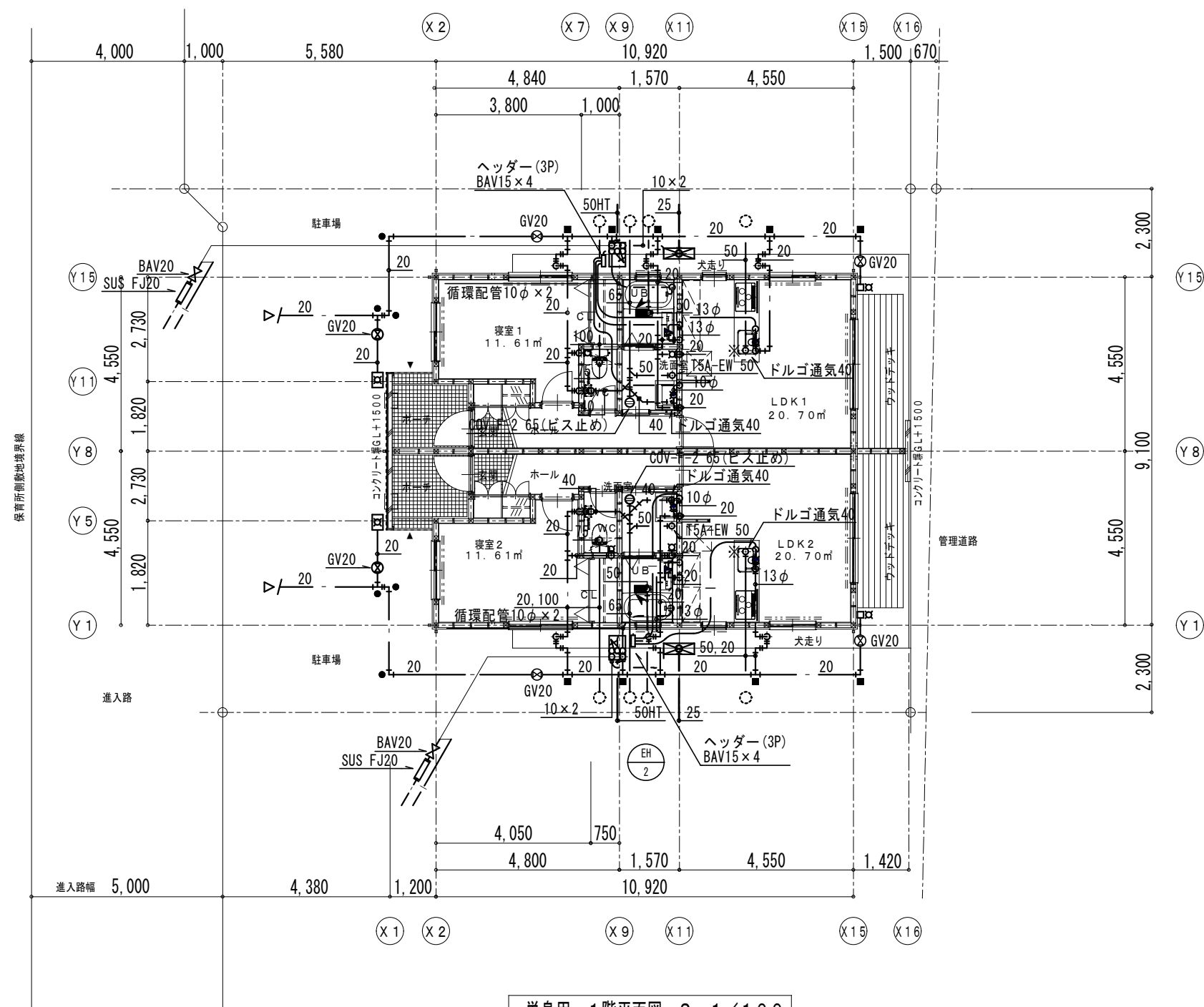
[illegible]

注記事項： 1. 上記品番は参考とし、同等品以上を使用する。

## 衛生設備器具リスト

器 具 名 称	器 具 付 属 品		数 量					備 考
			単 身 用				合 計	
			KDL	洗面室	WC	UB		
洋風大便器	CES9425	リモコン他付属品共		2			2	
手洗器	ULD22L1BBSN22NNA	カウンター式、鏡、紙巻器付		1			1	
手洗器	ULD22R1BBSN22NNA	カウンター式、鏡、紙巻器付		1			1	
洗濯機用水栓	TW11R		2				2	
散水栓	T28UNH13	SUS製ボックス共				2	2	
水栓柱	T200SNR13 C	ビニル製水栓柱共				2	2	
洗面化粧台	建築工事	給水・排水接続は設備本工事		2			2	
システムキッチン	建築工事	排水トラップ共	2				2	
ユニットバス	建築工事	給水栓（シャワー）共、給水・給湯・排水接続は設備本工事			2		2	

注記事項： 1. 参考品番はTOTO製とする。



- 凡例
- 水栓、洗濯用水栓
  - 混合水栓
  - シャワー水栓
  - 水栓柱
  - 散水栓
  - 樹
  - 給水管
  - 給湯管
  - 雑排水管・污水管

- 注記事項
- 図中 ◀ UB (建築工事区分) 排水取出管にて接続を表す。
  - 図中 ■ は埋設管標示杭を表し、● は埋設管標示ピンを表す。
  - 図中 ※ は流し排水トラップ50 (建築工事区分) に接続を表す。
  - UBのシャワーはUB付属品とし、接続は本工事とする。
  - 洗濯機給水栓の取付高さは、打合せの上、最終決定すること。
  - 給排水工事は京丹波町指定業者が行うこと。
  - 特記無き給排水配管は埋設配管とする。
  - 特記無き排水配管はVPとする。
  - 自然冷媒ヒートポンプ給湯器は犬走りに設置のこと。

都市設計

一般建築士事務所登録 (29A) 第01211号  
一般建築士登録第152097号 村林健治

工事名称	令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事	図面番号	M-5
図面名称	1階平面図 (衛生)	縮尺	1/100
		製図	日付 R5.3

## 空調設備機器リスト

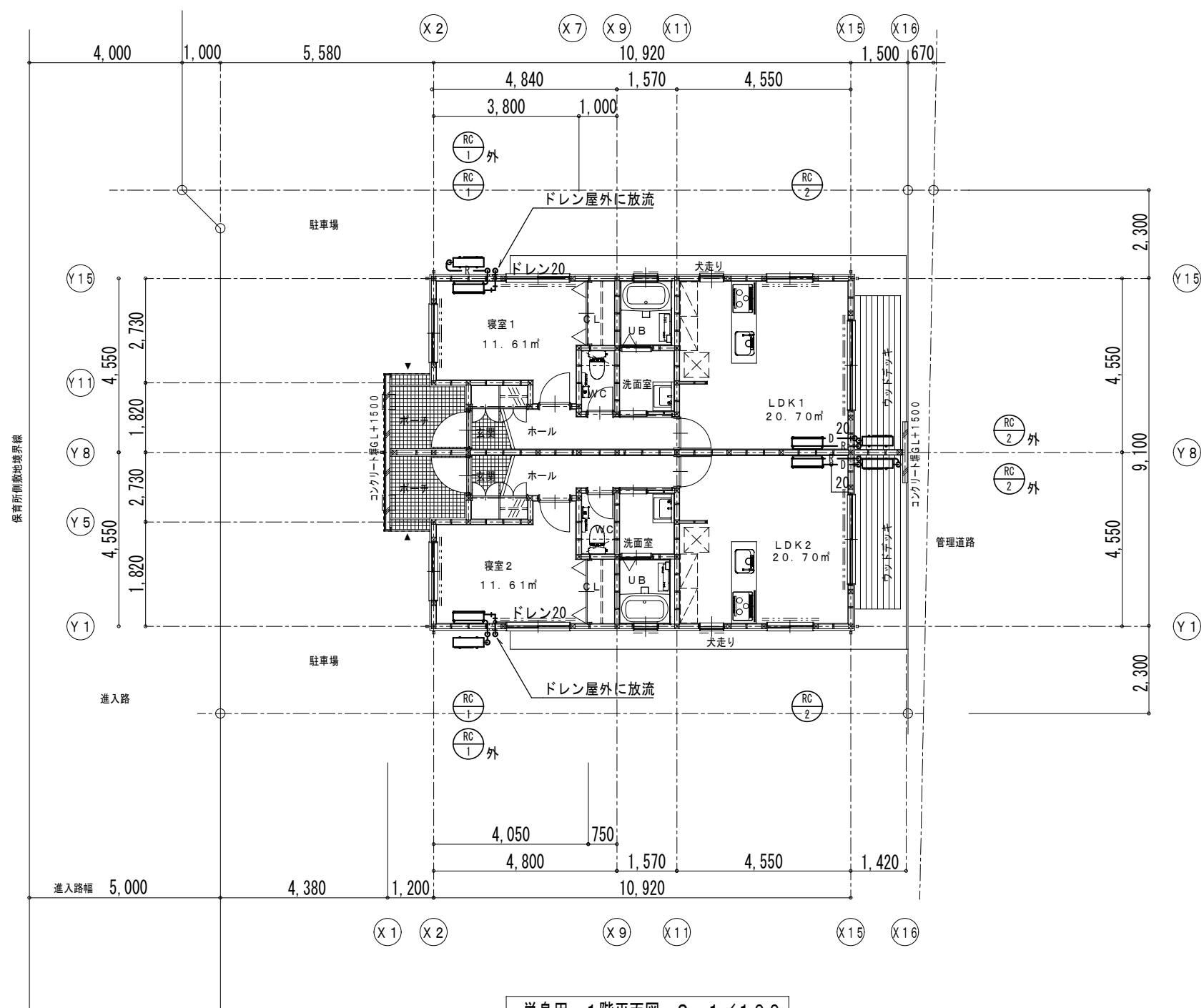
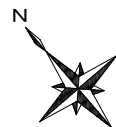
[illegible]

注記事項： 1. 上記品番は参考とし、同等品以上を使用する。


## 換気設備機器リスト

[illegible]

注記事項： 1. 上記品番は参考とし、同等品以上を使用する。



単身用 1階平面図 S:1/100

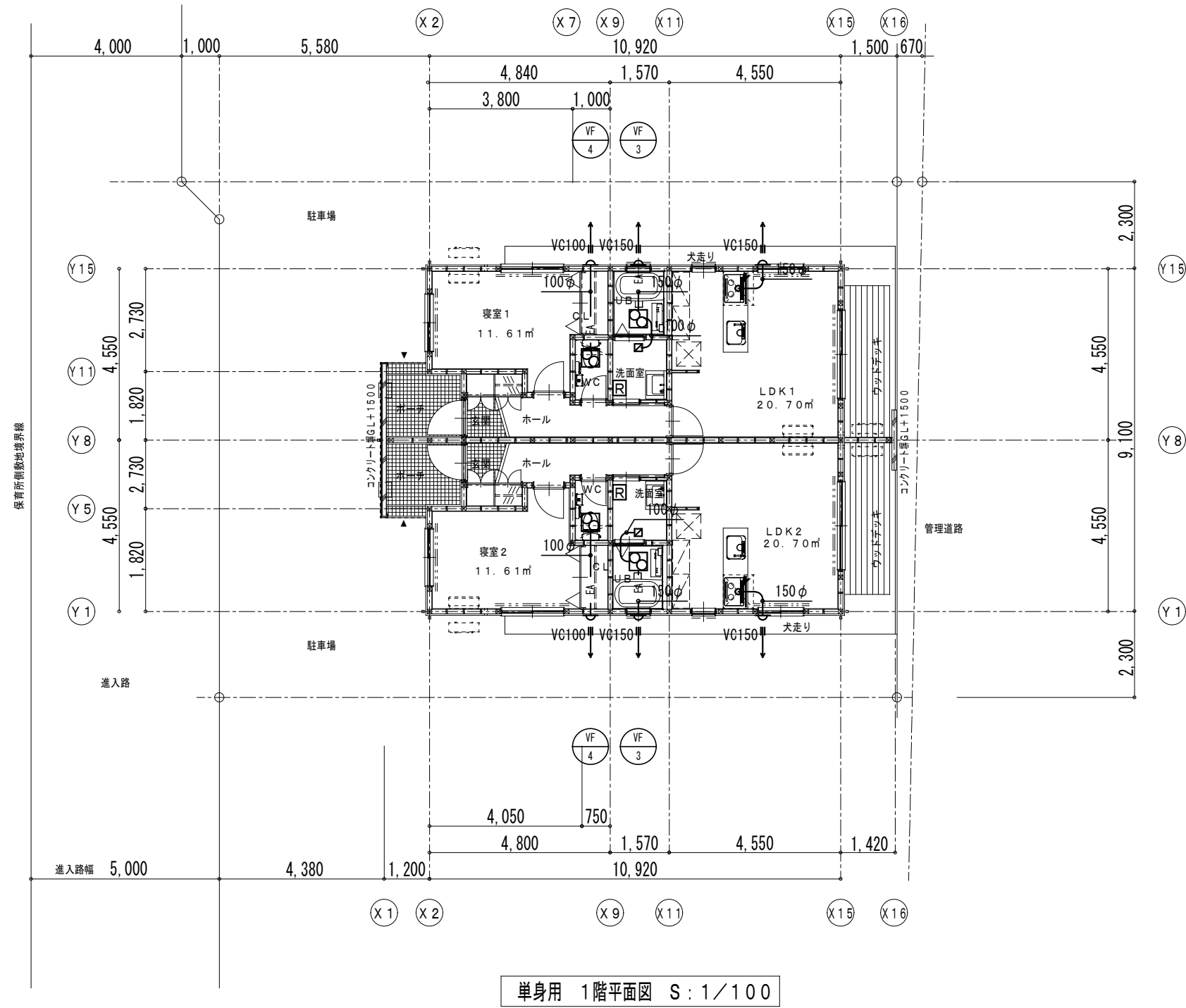
凡例  エアコン(本工区内取付)

- 注記事項：
1. 冷媒管のサイズは(6.4φ×9.5φ)とする。
  2. 室内外の連絡線(EM-CEE2<sup>TM</sup>-3C)は、冷媒管と共巻きとする。
  3. 屋外の露出はスリムダクト化粧カバーにて施工すること。

都市設計 

一級建築士事務所登録(29A)第01211号  
一級建築士登録第152097号 村林俊治

工事名称	令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事	図面番号	M-7
図面名称	1階平面図(空調)	縮尺	1/100
製図		日付	R5.3



凡例

天井扇

制気口

エアコン

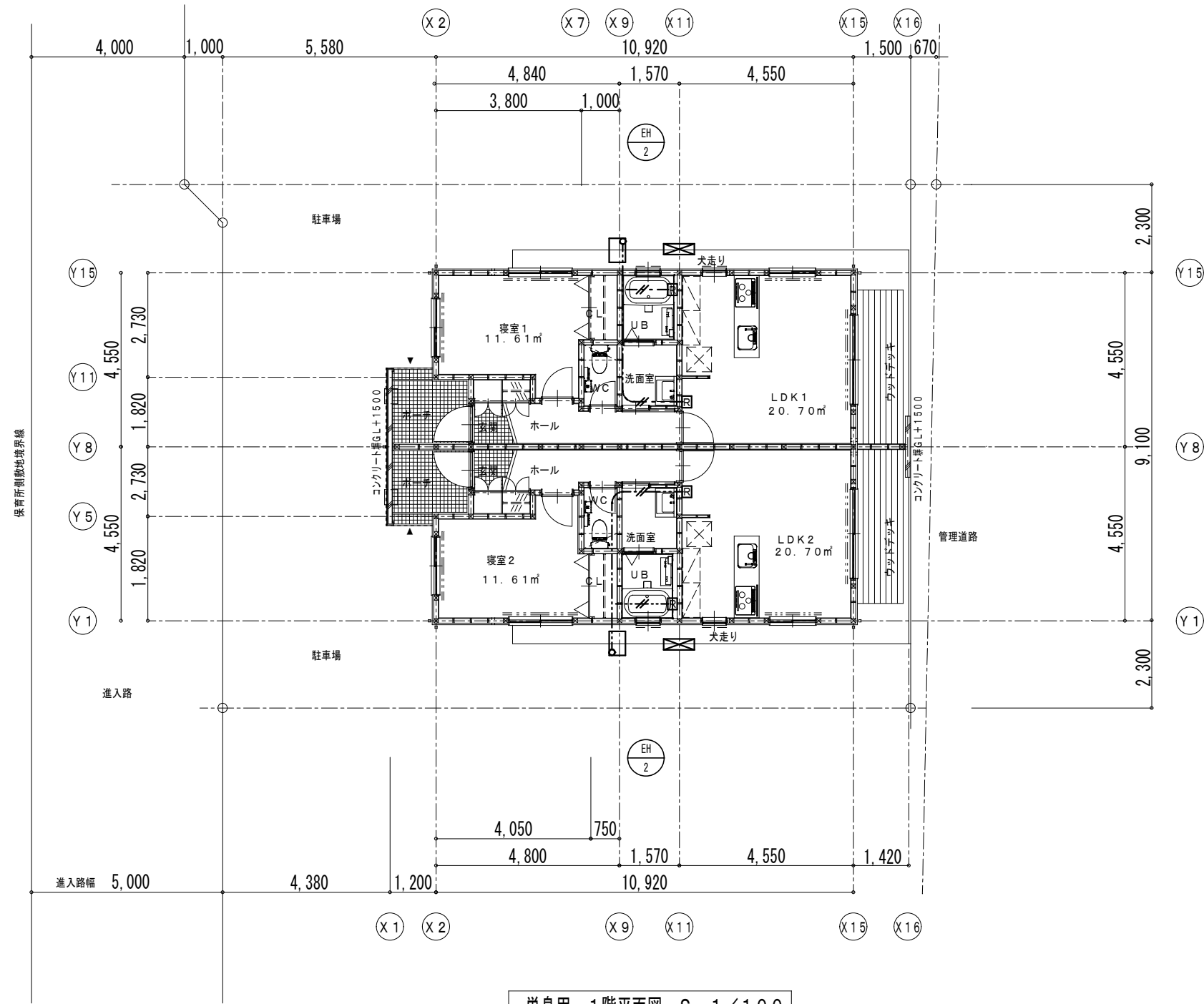
注記事項

1. 図中 はリモコンスイッチ（24時間換気スイッチ付）を表す。



2. 図中 はレンジフード（建築工事区分）に接続を表す。

3. 給気は窓枠の換気かまちによる。

都市設計		工事名称	図面番号
		令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事	M-8
図面名称		縮尺	
1階平面図（換気）		1/100	
		日付	
		R5.3	



單身用 1階平面図 S:1/100

- 注記事項: 1. 図中  は給湯器用リモコンスイッチを表す。  
2. 図中  は給湯器用リモコンスイッチ信号線 EM-C EE 1.25<sup>□</sup>-2C を表す。  
3. リモコン設置位置は打合せの上、最終決定すること。

都市設計 

一般建築士事務所登録(29A)第01211号  
一般建築士登録第152097号 村林健治

工事名称	令和5年度 国保京丹波町病院等医師住宅新築工事	図面番号	M-9
図面名称	1階平面図(リモコン)	縮尺	1/100
製図		日付	R5.3